

Dorico ヘルプ



Daniel Spreadbury

Cristina Bachmann, Heiko Bischoff, Christina Kaboth, Insa Mingers, Matthias Obrecht, Sabine Pfeifer, Benjamin Schütte, Marita Sladek

この PDF マニュアルでは、目の不自由な方のための高度なアクセシビリティ機能を提供しています。このマニュアルは複雑かつ多くの図が使用されているため、図の説明は省略されていることをご了承ください。

本書の記載事項は、Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。本書で取扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます (バックアップコピー)。Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。本製品のライセンス所有者は、個人利用目的に限り、本書を 1 部複製することができます。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2017.

All rights reserved.

目次

4	はじめに	168	索引
4	プラットフォーム非依存文書		
4	表記規則		
9	Steinberg 社の Web サイトへのアクセス方法		
10	ファーストステップ		
10	操作の概要		
17	新規プロジェクトの開始		
21	作曲		
26	Dorico のコンセプト		
26	デザイン方針		
27	主要な音楽的コンセプト		
31	ユーザーインターフェース		
31	Hub		
34	Windows		
45	ワークスペースの設定		
55	設定モード		
55	設定モードのプロジェクトウィンドウ		
61	プレーヤー		
66	アンサンブル		
67	インストゥルメント		
69	グループ		
72	フロー		
74	レイアウト		
79	記譜モード		
79	記譜モードのプロジェクトウィンドウ		
85	音符の入力		
117	浄書モード		
117	浄書モードのプロジェクトウィンドウ		
122	マスターページ		
132	フレーム		
142	浄書モードのプロパティ		
154	印刷モード		
154	印刷モードのプロジェクトウィンドウ		
157	レイアウトの印刷		
160	グラフィックファイルとしての書き出し		
163	複数のレイアウトの印刷/書き出し		
163	印刷/書き出し用のレイアウトページ配置		
165	ページサイズと用紙サイズの操作		
166	注釈		

はじめに

このたびはDoricoをご購入いただきありがとうございます。

Steinbergの新しい楽譜作成アプリケーションを末永くご愛用いただければ幸いです。

Doricoは、コンポーザー、編曲家、楽譜浄書家、出版社、演奏家、教員、学生などを対象ユーザーとした、美しい楽譜を作成できる次世代のアプリケーションです。Doricoは、楽譜を印刷する場合にも、デジタル形式で共有する場合にも最適な、非常に優れたプログラムです。

他のすべてのSteinberg製品と同様、Doricoは、その基礎部分から徹底して、ミュージシャンで構成されたチームによって設計されています。そしてミュージシャンだからこそ、ユーザーのニーズをしっかりと把握しており、使い方が簡単で覚えやすく、優れた結果を得られる製品を作り上げるために努力しています。また、Doricoと既存のワークフローを統合し、さまざまな形式でファイルを読み込んだり書き出したりできます。

Doricoは、ミュージシャンと同じ方法で音楽をとらえ、音楽の要素と実際の演奏に対し、他の楽譜作成アプリケーションよりも深い理解を備えています。独自の設計により、楽譜の入力や編集、スコアレイアウト、リズムの自由度、その他さまざまな関連領域について、これまでにない柔軟性を実現しています。

ぜひ本製品をご活用ください。

Steinberg Dorico チーム一同

プラットフォーム非依存文書

このマニュアルには、WindowsとMac OSの両方のオペレーティングシステム用の内容が記載されています。

一方のプラットフォームに固有の機能や設定は、その旨が明記されています。記載がない場合は、WindowsとMac OSの両方に当てはまります。

注意事項:

- このマニュアルでは、Windowsのスクリーンショットが使用されています。
- Windowsの「**ファイル (File)**」メニューで使用できる機能の一部は、Mac OSではプログラム名メニューにあります。

表記規則

本書では、表記上の要素およびマークアップ要素を使用して説明しています。

表記上の要素

表記上の各要素は、以下の目的で使用されます。

前提

手順を開始する前に完了しておくこと、または満たす必要がある条件を示します。

手順

特定の結果を得るために必要な手順を示します。

重要

システムや接続されたハードウェアに影響を及ぼす可能性のある事項、またはデータ損失のリスクを伴う事項を示します。

補足

考慮すべき事項を示します。

例

例を示します。

結果

手順の結果を示します。

タスク終了後の項目

手順を実行したあとに行なう操作または必要事項を示します。

関連リンク

本書に記載のある関連トピックを示します。

強調表示

このマニュアルでは、ユーザーインターフェースの要素が強調表示されています。

メニュー、オプション、機能、ダイアログ、ウィンドウなどの名前は太字で表示されています。

例

記譜モードで記譜オプションを開くには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を選択します。

太字が大なり記号で区切られている場合は、複数のメニューを連続で開くことを表わします。

例

「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」を選択します。

ファイル名とフォルダーパスは、Courier フォントで強調表示されます。

キーボードショートカット

初期設定のキーボードショートカットの多くは修飾キーを使用しますが、修飾キーの一部はオペレーティングシステムによって異なります。

たとえば、**取り消し**操作のデフォルトキーボードショートカットは Windows の場合、`[Ctrl]+[Z]` ですが、Mac OS では `[command]+[Z]` です。本書では、修飾キーを伴うキーボードショートカットを記述する場合、まず Windows の修飾キーを挙げ、次のように記載します。

- `[Windows 修飾キー]/[Mac OS 修飾キー]+[キー]`
-

例

`[Ctrl]/[command]+[Z]` と記載されている場合、Windows では `[Ctrl]` キー、Mac OS では `[command]` キーを押したままで、`[Z]` キーを押すことを指しています。

Dorico のキーボードショートカット

Dorico のデフォルトのキーボードショートカットは、選択したキーボードのレイアウトによって変わります。

ツールまたは機能にマウスオーバーすると、表示されるメニューの括弧内に、そのツールや機能を有効または無効にするためのキーボードショートカットの情報が表示されます。

以下のいずれかの操作も実行できます。

- 「**Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)**」ウィンドウを開いて、すべての使用可能なキーボードショートカットを確認します。
- 「**環境設定 (Preferences)**」ダイアログで特定の機能やメニュー項目のキーボードショートカットを検索します。このダイアログでは、新しいキーボードショートカットを割り当てたり、デフォルトのキーボードショートカットを変更したりもできます。

関連リンク

[「Dorico のキーボードショートカット \(Dorico Key Commands\)」ウィンドウ \(6 ページ\)](#)
[各機能のキーボードショートカットの検索 \(7 ページ\)](#)

「Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)」ウィンドウ

「Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)」ウィンドウにはバーチャルキーボードが表示されます。「**環境設定 (Preference)**」ダイアログで選択したキーボードレイアウトに合わせて、キーボードショートカットを割り当てられたキーが強調表示されます。バーチャルキーボードの下には、すべてのキーボードショートカットがリスト表示されます。

「Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)」ウィンドウにアクセスするには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「**ヘルプ (Help)**」 > 「**キーボードショートカット (Key Commands)**」を選択します。

- 「編集 (Edit)」 > 「環境設定 (Preferences)」を選択し、「環境設定 (Preferences)」ダイアログの「キーボードショートカット (Key Commands)」セクションで、「概要を印刷 (Print Summary)」をクリックします。

「Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)」ウィンドウが Web ブラウザーで開きます。以下のオプションが表示されます。

- 使用可能なキーボードショートカットを確認するには、コンテキストを選択します。キーボードショートカットのコンテキストとは、そのキーボードショートカットを使用できるモードのことを指します。「全般 (Global)」のコンテキストに属するキーボードショートカットは、すべてのモードで使用できます。
- 修飾キーと組み合わせてキーボードショートカットとして使用できるキーを表示するには、[Shift] など、キーボードの修飾キーを押します。複数の修飾キーを押すこともできます。バーチャルキーボードでキーが強調表示され、どの機能が割り当てられているかが表示されます。

補足

マウスを使用してバーチャルキーボード上で修飾キーを選択することもできます。

- 特定のキーボードショートカットを検索するには、検索フィールドに 1 つ以上の単語を入力します。
- 使用できるキーボードショートカットの概要を確認するには、バーチャルキーボードの下にリスト表示されたショートカットを確認します。キーボードショートカットはそのショートカットを使用できるコンテキストごとにリスト表示されます。

各機能のキーボードショートカットの検索

Dorico で機能またはメニュー項目に割り当てられているキーボードショートカットを検索できます。

補足

「Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)」ウィンドウでも機能の検索ができます。

手順

1. 「編集 (Edit)」 > 「環境設定 (Preferences)」を選択します。
2. 「キーボードショートカット (Key Commands)」セクションの「検索 (Search)」フィールドで、機能の名称を入力します。
入力した内容に応じてフィルタリングされたエントリーが、検索フィールドの下にリスト表示されます。
3. エントリーを展開して、キーボードショートカットを確認する機能を選択します。

結果

機能に対してキーボードショートカットが設定されている場合、「割り当て済みのキーボードショートカット (Assigned key commands)」ディスプレイにキーボードショートカットが表示されます。

関連リンク

[「Dorico のキーボードショートカット \(Dorico Key Commands\)」ウィンドウ \(6 ページ\)](#)

キーボードレイアウトの変更

Dorico ではキーボードレイアウトを変更できます。これにより、各言語用にあらかじめ定義されたキーボードショートカットを使用できます。

手順

1. 「**編集 (Edit)**」 > 「**環境設定 (Preferences)**」を選択します。
2. 「**キーボードショートカット (Key Commands)**」セクションで、「**キーボード言語 (Keyboard language)**」ポップアップメニューからキーボードレイアウトを選択します。
3. 「**適用 (Apply)**」をクリックします。

結果

設定したキーボードショートカットがすぐに反映されます。

キーボードショートカットの割り当て

キーボードショートカットが割り当てられていない Dorico の機能に対して、キーボードショートカットを割り当てることができます。既存のキーボードショートカットの変更もできます。

手順

1. 「**編集 (Edit)**」 > 「**環境設定 (Preferences)**」を選択します。
2. 「**キーボードショートカット (Key Commands)**」セクションで、機能の名称を検索して選択します。
3. すでにキーボードショートカットが設定されている機能の場合、必要に応じて「**キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)**」をクリックします。

補足

既存のキーボードショートカットを削除せずに新しいショートカットを割り当てると、既存のショートカットと新しいショートカットの両方を使用できます。

4. 「**新規ショートカット (New key command)**」入力フィールドをクリックします。
5. コンピューターキーボードで、割り当てるキーボードショートカットを押します。
6. 「**キーボードショートカットを追加 (Add Key Command)**」をクリックします。
追加したキーボードショートカットが「**割り当て済みのキーボードショートカット (Assigned key commands)**」ディスプレイに表示されます。
7. 「**適用 (Apply)**」をクリックします。

結果

割り当てたキーボードショートカットはすぐに使用できます。

関連リンク

[各機能のキーボードショートカットの検索](#) (7 ページ)

[キーボードショートカットのリセット](#) (9 ページ)

キーボードショートカットの削除

機能に割り当て済みのキーボードショートカットを削除できます。

手順

1. 「**編集 (Edit)**」 > 「**環境設定 (Preferences)**」を選択します。
2. 「**キーボードショートカット (Key Commands)**」セクションで、機能の名称を検索して選択します。
3. 「**キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)**」をクリックします。
4. 「**適用 (Apply)**」をクリックします。

結果

選択した機能からキーボードショートカットが削除されます。

関連リンク

[各機能のキーボードショートカットの検索](#) (7 ページ)

[キーボードショートカットのリセット](#) (9 ページ)

キーボードショートカットのリセット

すべてのキーボードショートカットをデフォルトにリセットできます。

手順

1. 「**編集 (Edit)**」 > 「**環境設定 (Preferences)**」を選択します。
2. 「**キーボードショートカット (Key Commands)**」セクションで、「**キーボードショートカットをリセット (Reset Key Commands)**」をクリックします。
3. 「**OK**」をクリックします。

結果

すべてのカスタムのキーボードショートカットが削除され、デフォルトのキーボードショートカットに戻ります。

Steinberg 社の Web サイトへのアクセス方法

「**ヘルプ (Help)**」メニューから追加情報にアクセスできます。

このメニューには、Steinberg 社のさまざまな Web サイトへのリンクが表示されます。メニュー項目のいずれかを選択すると、Web ブラウザーが自動的に起動し、該当のページが開きます。開いたページから、サポート情報や互換性情報、FAQ、更新情報、他の Steinberg 製品の情報などにアクセスできます。Web サイトにアクセスするには、コンピューターに Web ブラウザーがインストールされ、インターネットに接続されている必要があります。

ファーストステップ

この章は、初めて Dorico を使用する場合の手助けとなります。

初めて Dorico を起動する場合、プロジェクトを開始する前にまずテンプレートを 1 つ開いて Dorico のユーザーインターフェースと機能を確認することをおすすめしますが、この章を飛ばして実際に操作しながら確認しても問題ありません。

以下のセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 最も重要なワークスペースの概要
- 新規プロジェクトの設定
- 作曲およびスコアへの記譜項目の追加
- ページの配置および形式設定
- 作成した楽譜の再生
- 印刷と書き出し

操作の概要

以下のセクションでは、ユーザーインターフェースの概要を示し、Dorico の構成について紹介します。

テンプレートを開く

プロジェクトを開始する前に、Dorico のユーザーインターフェースに慣れることをおすすめします。そのためには、まず、プログラムに含まれるテンプレートを 1 つ開きます。

前提

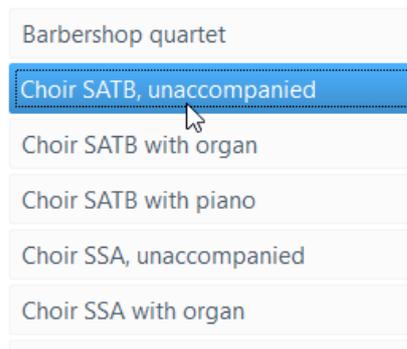
Dorico を起動し、Hub が開いた状態にしておきます。

手順

1. Hub で、テンプレートグループを 1 つ (例: 「**合唱および声楽 (Choral and Vocal)**」) を選択します。



2. リストからテンプレートを 1 つ選択します。



3. 「**テンプレートから新規作成 (New from Template)**」をクリックします。
-

結果

テンプレートが開きます。

タスク終了後の項目

以下に続く、ユーザーインターフェースの簡単な概要を示すセクションと、プログラムの主な機能を紹介するセクションに進みます。

関連リンク

[Hub \(31 ページ\)](#)

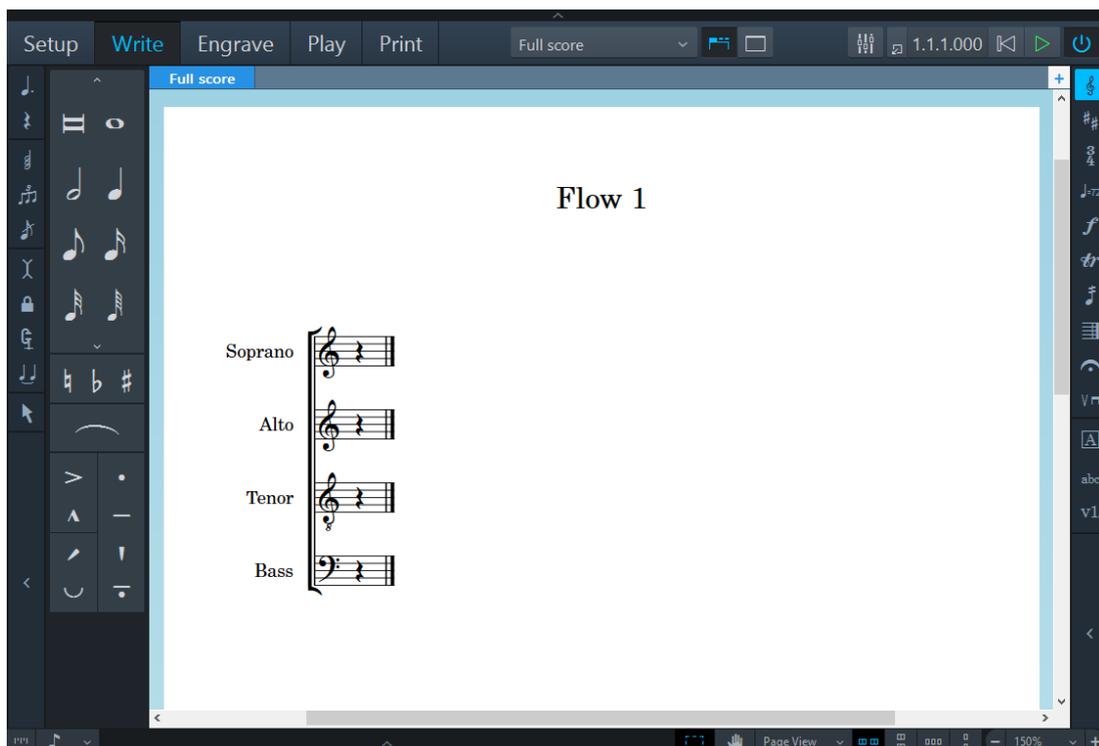
ユーザーインターフェースのクイックツアー

Dorico のユーザーインターフェースは、スコア作成のワークフローの異なるフェーズを表わす各種モードで構成されています。

すべてのモードで同じ構造のユーザーインターフェースを使用しています。プロジェクトウィンドウの中央には、楽譜を編集するための大きな領域が常に配置されます。各モードでは、プロジェクトウィンドウの左右および下部に、使用するモードに応じた折り畳み可能なパネルが表示されます。パネルの内容は、選択したモードにより変化します。

テンプレートを開くと、最初のビューに**記譜**モードのプロジェクトウィンドウが表示されま

す。



プロジェクトウィンドウは、以下の領域で構成されています。

ツールバー

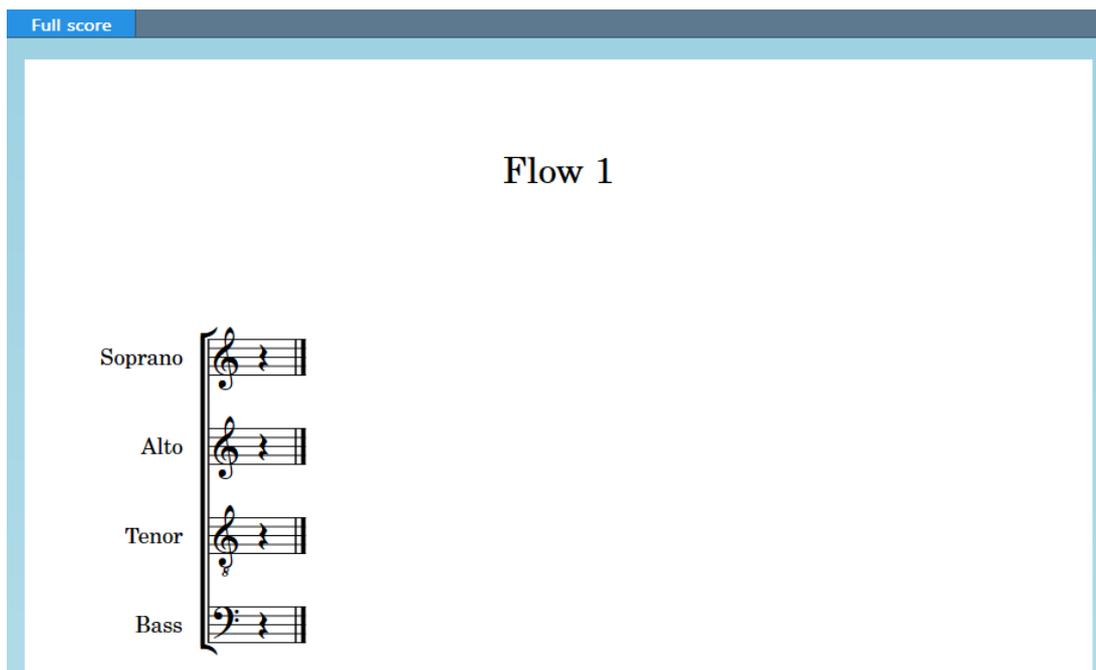
プロジェクトウィンドウの上部に配置されています。



ツールバーの左側にモードが表示されます。モードを有効にすると、ワークスペースと表示されるパネルが変わります。有効なモードは、異なる色で強調表示されます。ツールバーの中央にあるレイアウトオプションで、プロジェクト内の異なるレイアウトに切り替えたり、パネルとタブの表示/非表示を切り替えたりすることができます。ツールバーの右側では、**ミキサー**  を開いたり、さまざまな機能の中でも、再生と録音を行なうための基本的なトランスポートコントロールを有効にしたりできます。

楽譜領域

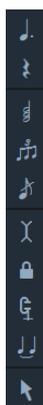
設定モード、**記譜モード**、および**浄書モード**におけるプロジェクトウィンドウの大部分を占める領域です。楽譜の設定、入力、編集、形式設定は楽譜領域で行ないます。**再生モード**では、楽譜領域はイベントディスプレイと呼ばれ、各音符はイベントとして表示されます。**印刷モード**では、楽譜領域は印刷プレビュー領域と呼ばれ、印刷内容や書き出す内容を画像として表示します。



楽譜領域には、作成したスコアやパートが表示されます。楽譜領域の上部では、複数のレイアウトをタブにわけて表示し、切り替えることができます。Dorico のレイアウトでは、楽譜を異なる形式で表示できます。たとえば、バイオリンのパートとファゴットのパートのように異なるパートのフルスコアがある場合、フルスコアのレイアウトと各パートのレイアウトを切り替えることができます。画面上のスペースを節約したり、個々のレイアウトに対して集中的に作業したりする場合は、タブを非表示にできます。

ツールボックス

記譜モードでは、プロジェクトウィンドウの左右の端に追加のコラムがあります。これらはツールボックスと呼ばれます。



記譜モードの音符ツールボックス



記譜モードの記譜記号ツールボックス

左側の音符ツールボックスで、さまざまな音符入力ツールをオンまたはオフにできます。右側の記譜記号ツールボックスには、音部記号、調号、拍子記号などのその他の記譜記号を作成、編集するツールがあります。

パネル

Dorico には、すべてのモードでさまざまな機能を持つパネルがあります。テンプレートを開くと、楽譜領域の左側にパネルが表示されます。これは、**記譜モード**の音符パネルです。



記譜モードの音符パネル

音符パネルには、音符を入力する際に最も一般的に使用されるすべてのデュレーション、臨時記号、スラー、アーティキュレーションが含まれています。

ステータスバー

プロジェクトウィンドウの下部にあるステータスバーで、楽譜領域の異なるビューやページ配置を選択できます。



関連リンク

[モードの機能](#) (14 ページ)

[ユーザーインターフェース](#) (31 ページ)

モードの機能

スコアを作成するためのワークフローのフェーズのことです。

モードを有効にすると、ワークスペースと表示されるパネルが変わります。

設定モード

設定モードでは、プレーヤーおよびプレーヤーのグループを作成し、インストゥルメントを割り当てることができます。また、プロジェクトに異なるレイアウトを定義することで、レイアウトを個別に印刷したり、書き出したりできます。たとえば、フルスコアのレイアウトおよび各パートの個別のレイアウトを印刷したり、書き出したりできます。

記譜モード

記譜モードでは、楽譜を入力できます。ツールボックスとパネルを使用して、最も一般的に使用されるすべての音符および記譜項目を入力できます。

浄書モード

浄書モードでは、記譜モードで入力した楽譜を微調整したり、プロジェクトのページレイアウトを決定したりできます。

再生モード

再生モードでは、バーチャルインストゥルメントおよび再生用エフェクトをインストゥルメントと演奏技法に割り当てることができます。個々の音符の再生方法を調節してよりリアルな仕上がりにできます。

印刷モード

印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、グラフィックファイルとして書き出したりできます。

パネルの非表示/再表示

1つまたは複数のパネルを表示したり非表示にしたりできます。たとえば、楽譜領域をさらに広く表示したい場合に便利です。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 左側のパネルの表示/非表示を切り替えるには、展開矢印マークをクリックするか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。
 - 右側のパネルの表示/非表示を切り替えるには、展開矢印マークをクリックするか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右のパネルを表示 (Show Right Panel)**」を選択します。
 - 下部のパネルの表示/非表示を切り替えるには、展開矢印マークをクリックするか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)**」を選択します。
 - すべてのパネルの表示/非表示を切り替えるには、「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」  をクリックするか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」を選択します。

結果

表示されているパネルをすべて非表示にするとボタンの表示が変わり、非表示となっているパネルを示すボタンが表示されます。たとえば、 のボタンは、すべてのパネルが表示されていた状態からすべて非表示の状態になったことを示します。

タブとウィンドウの操作

Dorico では、作業スタイルに合わせてワークスペースを設定できます。

また、Dorico では、複数のタブを開いて、同じウィンドウ内に同じプロジェクトの複数のレイアウトを表示できます。複数のウィンドウに同じプロジェクトを開くこともできます。

関連リンク

[ワークスペースの設定](#) (45 ページ)

新規タブを開く

新規タブを開いて、同じプロジェクトウィンドウ内に異なるビューまたはレイアウトを表示できます。

各タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。新規タブを開くと、タブに表示するレイアウトを選択する画面が表示されます。

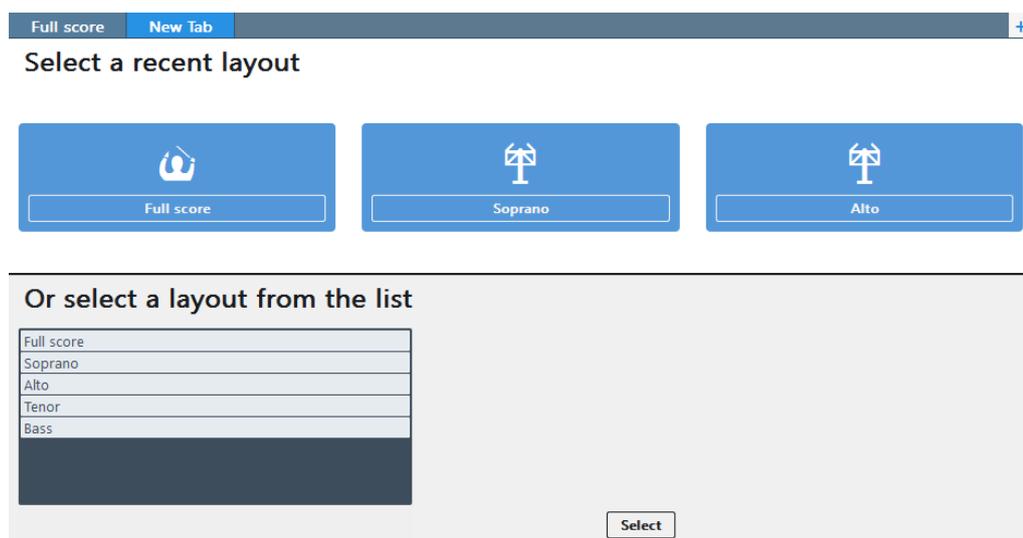
タブは、ツールバーと楽譜領域の間に表示されます。タブが表示されない場合は、ツールバーの「**タブを表示 (Show Tabs)**」  をクリックします。

手順

- 新規タブを開くには、以下のいずれかの操作を行います。
 - [Ctrl]/[command]+[T] を押します。
 - タブの右側の「**新規タブ (New Tab)**」  をクリックします。

結果

新規タブを開くと、上部にアイコン、下部にレイアウトのリストが表示されます。



タスク終了後の項目

アイコンをクリックするか、下部のリストからレイアウトを選択できます。または、ツールバーの「**レイアウトの選択 (Select Layout)**」をクリックして、ポップアップメニューからレイアウトを選択できます。選択したレイアウトがアクティブなタブで開きます。

新規ウィンドウを開く

同じプロジェクトを別のウィンドウで開くことができます。

同時に複数のレイアウトを確認して作業する場合に便利です。複数のプロジェクトウィンドウを開いて、同じプロジェクトを異なるモードで表示できます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[T]** を押します。
 - **「ウィンドウ (Window)」 > 「新規ウィンドウ (New Window)」** を選択します。

結果

ウィンドウの複製が開きます。元のウィンドウと同じタブと同じ表示オプションが表示されます。

関連リンク

[複数のプロジェクトウィンドウを開く \(49 ページ\)](#)

新規プロジェクトの開始

Dorico のユーザーインターフェースの概要がつかめたら、楽譜の入力を始めましょう。ここでは、新規プロジェクトの設定方法を説明します。

前提

補足

この章に記載の入力内容と手順で使用されているイメージはすべて、あくまでも参考として提示された一例です。そのため、同じ内容を入力してイメージに表示されている結果を得る必要はありません。

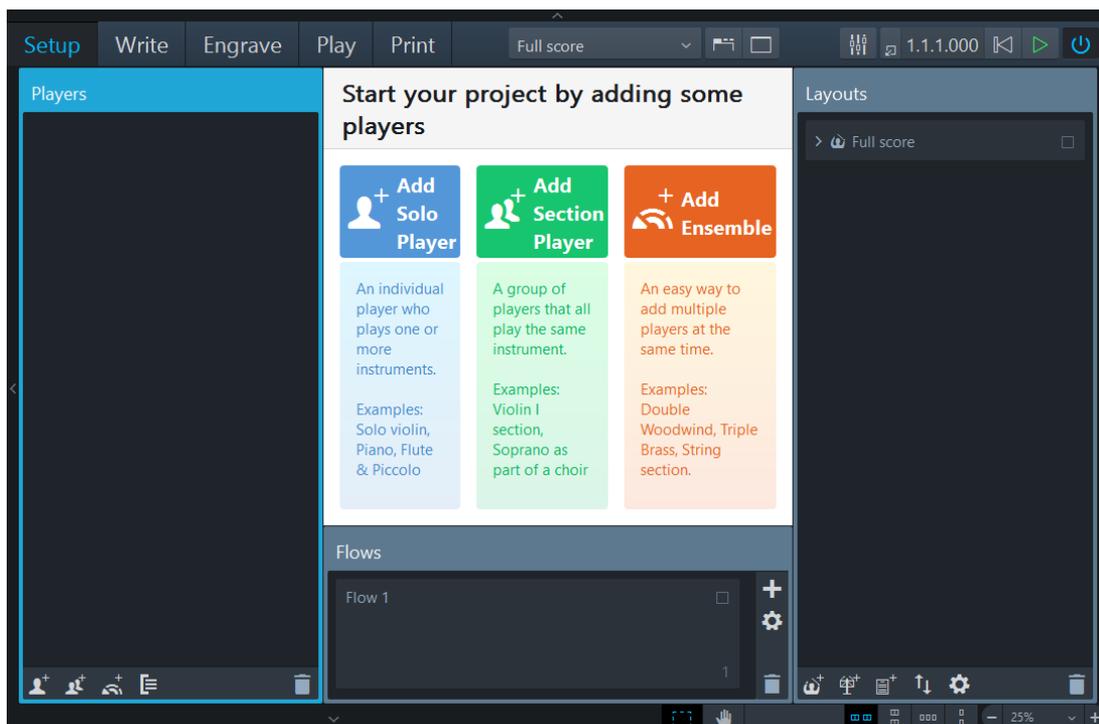
保存せずにテンプレートを閉じます。Hub が再び開きます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - **「新規空白プロジェクト (New Empty Project)」** を選択します。
 - **[Ctrl]/[command]+[N]** を押します。

結果

新しいプロジェクトウィンドウが開きます。



特定のプロジェクトテンプレートを選択せずに新規プロジェクトを開始すると、**設定モード**が有効になります。このため、プロジェクトを開始してすぐに、プレイヤーを指定しインストゥルメントを割り当てることができます。中央のプロジェクト開始領域は、プレイヤーを追加すると楽譜領域となり、異なるタイプのプレイヤーを含んだプロジェクトを開始できます。右側の「**レイアウト (Layouts)**」パネルには、「**フルスコア (Full score)**」エントリーが表示されます。このエントリーは、すべての新規プロジェクトで使用できます。ウィンドウの下側には、プロジェクトの個別の楽譜の範囲を指定する「**フロー (Flows)**」パネルがあります。

タスク終了後の項目

ソロプレイヤーまたはセクションプレイヤーを追加し、インストゥルメントを割り当ててプロジェクトを開始します。各種インストゥルメントを自由に割り当てることができます。この章では、例として1人のピアノプレイヤーのみを追加します。

関連リンク

[Windows](#) (34 ページ)

[フロー](#) (29 ページ)

ソロプレイヤーの追加

ここでは、プレイヤーの追加方法とインストゥルメントの割り当て方法を説明します。

前提

新規プロジェクトを開始し、**設定モード**を開いておきます。

手順

1. 「**ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)**」をクリックします。



「**プレイヤー (Players)**」パネルにインストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーが追加されます。

2. ポップオーバーでインストゥルメントを選択します。

補足

たとえば、ピアノプレイヤーを選択します。

ヒント

- ポップオーバーの検索フィールドを使用してインストゥルメント名を検索できます。インストゥルメント名をタイプすると、入力途中でもリストが自動的に名前をフィルタリングします。
- また、インストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーの右側のプラス記号 **+** をクリックすることでもポップオーバーを開くことができます。または、プレイヤーを右クリックして「**インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択します。

3. 「**追加 (Add)**」をクリックします。

結果

最初のプレイヤーが追加されました。楽譜領域には、該当する音部記号を含む必要なピアノ譜が表示されます。

タスク終了後の項目

プロジェクトを保存します。

補足

プロジェクトはいつでも保存できます。

必要に応じて、プロジェクトタイトルを編集したり、プレイヤーを追加したりします。

以下のセクションでは、フローとレイアウトを作成します。作曲を開始する場合は、これらのセクションを飛ばしても問題はありません。

関連リンク

[作曲 \(21 ページ\)](#)

[ソロプレイヤーの追加 \(62 ページ\)](#)

フローの作成

フローは、楽章や歌曲など、プロジェクト内の個別の楽譜の範囲のことです。ここでは、フローの作成方法を説明します。

前提

少なくとも1人のプレーヤーを設定し、**設定モード**を開いておきます。

各プロジェクトには、フローが少なくとも1つあり、初期設定では、各レイアウトにプロジェクトの各フローの楽譜が含まれます。Dorico で新規フローを作成する場合、以下の操作を行いません。

手順

- 「**フロー (Flows)**」パネルで、「**フローを追加 (Add Flow)**」  をクリックします。

結果

すべての既存のプレーヤーが新規フローに割り当てられます。新規フローは、すべての既存のフルスコアとパートレイアウトに自動的に追加されます。

タスク終了後の項目

必要に応じてフロー名を変更します。また、「**プレーヤー (Players)**」パネルで、フローから除外するプレーヤーのチェックボックスをオフにすることもできます。「**レイアウト (Layouts)**」パネルでフローから除外したいレイアウトのチェックボックスをオフにすることもできます。

関連リンク

[フロー名の変更](#) (72 ページ)

[フローの作成](#) (72 ページ)

[レイアウトの作成](#) (20 ページ)

レイアウトの作成

ページサイズ、余白、譜表サイズなど、1つ以上のフローにある1人以上のプレーヤーの楽譜をどのように表示するかを定義します。ここでは、新規レイアウトの作成方法を説明します。

前提

少なくとも1人のプレーヤーと1つのフローを設定し、**設定モード**を開いておきます。

複数のプレーヤーが存在するアンサンブルでは、各プレーヤーの個々のパートのレイアウトが必要となる場合があるため、通常、複数のレイアウトを使用します。Dorico では、すべてのプレーヤーとすべてのフローを含むフルスコアのレイアウトと、1人のプレーヤーとすべてのフローをそれぞれ含む個々のパートのレイアウトを自動的に作成します。2人のプレーヤー用の楽譜を含むパートなど、プレーヤーとフローの異なる組み合わせが必要な場合、以下のように任意のレイアウトを作成できます。

手順

- 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、「**パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)**」をクリックします。

結果

「**レイアウト (Layouts)**」パネルに空白のパート譜が作成されます。

タスク終了後の項目

空白のパート譜をダブルクリックして名前を入力します。必要に応じて、「**フロー (Flows)**」パネルでレイアウトに割り当てるフローを選択します。「**プレイヤー (Players)**」パネルで、レイアウトに割り当てるプレイヤーのチェックボックスをオンにします。

関連リンク

[レイアウトの作成 \(74 ページ\)](#)

作曲

プロジェクトの設定が完了したら、作曲を開始できます。

記譜モードでは、音符やその他の記譜記号をスコアに入力できます。

ヒント

Dorico では、コンピューターキーボードのみでほとんどの作業が完了します。マウスやタッチパッドを使用する必要はありません。キーボードショートカットを覚えると、Dorico を非常に効率よく操作できます。最も早い楽譜の入力方法は、MIDI キーボードを使用する方法です。MIDI キーボードを持っていない場合は、コンピューターキーボードを使用できます。もちろん、マウスやタッチパッドも使用できます。

以下のセクションでは、音符と記譜項目の入力方法を説明します。

最初の音符の入力

ここでは、音符の入力方法を説明します。最初に拍子記号や調号を追加することなく音符の入力を開始できます。

前提

- MIDI キーボードを設定しておきます。

補足

MIDI キーボードが設定されていない場合は、コンピューターキーボードで音符の入力を開始できます。

- **設定モード**でピアノプレイヤーを 1 人追加しておきます。
- **記譜モード**を有効にしておきます。

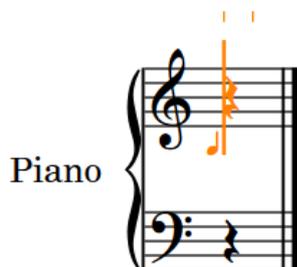
手順

1. ソロプレーヤーを追加したときに調号の横に自動的に挿入された休符を選択します。



2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - [Shift]+[N] または [Return] を押して音符の入力を有効にします。
 - 休符をダブルクリックします。

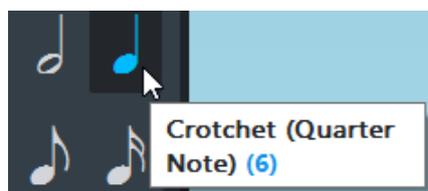
キャレットが表示されます。



3. 音符パネルでデュレーションを選択します。

補足

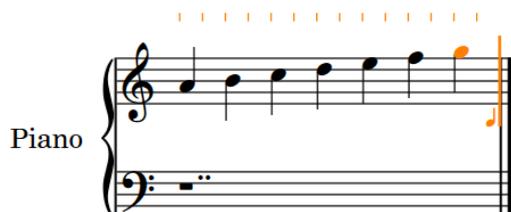
Dorico の初期設定では、4 分音符が選択されます。



4. MIDI キーボードで音を鳴らし始めるか、コンピューターキーボードで [A]、[B]、[C]、[D]、[E]、[F]、[G] のキーを押して対応するピッチを入力します。
Dorico に入力された音よりもピッチを高く、または低くしたい場合は、該当するキーボードショートカットを押すと 1 オクターブ上の音にできます。

結果

以下は、音符入力の一例です。



関連リンク

[Dorico のキーボードショートカット \(6 ページ\)](#)

拍子記号の追加

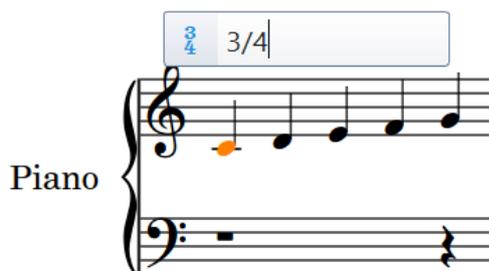
ここでは、譜表の最初に拍子記号を追加する方法を説明します。拍子記号は、メロディを入力する前でも入力した後でも追加できます。

前提

[Esc] を押してキャレットを無効にしておきます。

手順

1. 譜表の最初の音符を選択します。
2. [Shift]+[M] を押します。
譜表の上にポップオーバーが開きます。
3. 3/4 などの一般的な拍子記号を入力します。



4. [Enter] を押します。
-

結果



拍子記号は、音符の左側に自動的に挿入され、小節線が正しい位置に自動的に挿入されます。調号の挿入方法については、次のセクションを参照してください。

調号の追加

調号を譜表上の任意の位置に追加できます。ここでは、調号の追加方法を説明します。

新規プロジェクトを作成する場合、初期設定では調号は表示されません。作成する楽譜の種類によって、調号はCメジャー、または特定の調性の中心音を持たないオープンキーを意味する場合があります。いずれの場合でも、譜表上の任意の場所でキーを変更できます。例として、譜表の最初にある調号をDメジャーに変更する手順を以下のとおり示します。

手順

1. 譜表の最初の音符を選択します。

2. [Shift]+[K] を押します。
譜表の上にポップオーバーが開きます。
3. 調号を入力します。D メジャーを入力する場合は、大文字の D を入力します。
D マイナーを入力する場合は、小文字の d を入力します。



4. [Enter] を押します。
-

結果



調号が音部記号と拍子記号の間に挿入されます。また、Dorico が必要な箇所へ自動的に臨時記号を追加します。

最初の和音の入力

ここでは、コードモードを使用してコンピューターキーボードで和音を入力する方法を説明します。MIDI キーボードを使用する場合は、キーボードから和音を入力できるため、コードモードを使用する必要はありません。この場合、Dorico が自動的に正しい音符を入力します。

前提

譜表上で最後の音符または休符を選択し、[Return] を押してキャレットを表示しておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - [Q] を押します。
 - 音符ツールボックスで、「和音 (Chords)」 をオンにします。

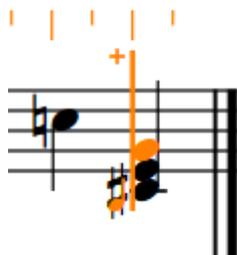
キャレットの上部に「+」記号が表示されます。



2. 必要に応じて、音符パネルで音の長さ (デュレーション) を選択します。
3. [A] ~ [G] のキーを1つずつ順に押して、和音を構成する音符を入力します。たとえば、Cメジャーのコードの場合、[C]、[E] および [G] を押します。

Dorico は、初期設定で前の音符のオクターブ上に新しい音符をそれぞれ追加します。該当するキーボードショートカットを押すと、オクターブを変更できます。

以下は結果の例を示しています。



4. [Space] を押して次の音符位置にキュレットを進め、次のコードを入力します。
Dorico は、コード入力が無効になるまで、すべての入力をコードの入力として認識し続けます。
5. 必要に応じて、[Q] を押すか、「和音 (Chords)」をオフにして、和音の入力を無効にします。

関連リンク

[Dorico のキーボードショートカット \(6 ページ\)](#)

Dorico のコンセプト

以下の項では、Dorico のデザイン方針の概要と基本となるコンセプトについて説明します。

このマニュアルでは、これらのコンセプトについて言及することが多いため、コンセプトを理解しておくことをおすすめします。

デザイン方針

他の楽譜作成アプリケーションを使用したことがあり、楽譜作成プログラムのデザイン上の考慮事項に興味がある場合、以下に記述する内容は興味深いかもしれませんが、しかし、本製品を使用する上での安全性とは関係ないため、以下の記述を読まなくても問題はありません。

Dorico は、コンピューター上の操作性よりも音楽的なコンセプトを重視した先進的なデザインを採用しており、多くのメリットを提供する製品です。

ハイレベルコンセプト

グラフィックを重視した楽譜作成アプリケーションでは、譜表または譜表を作成するインストゥルメントの定義が最上位のコンセプトです。フルスコアを設定する場合、始めに、正しい数の譜表を追加し、そのあとすぐに、レイアウトを決定しなければなりません。つまり、2本のフルートが譜表を共有するのか、個別の譜表を持つのかどうか、または使用するトランペットは2本なのか3本なのかをあらかじめ知っておく必要があります。これらの決定項目の多くは、個々のパートを入力、編集、および作成する過程の全体に大きく影響します。

通常、スコアの各組段には、特定の組段において非表示になっている譜表がある場合でも、同じ数の譜表を含める必要があります。つまり、同じインストゥルメントを複数のプレーヤーで演奏する場合には譜表を共有するようにするなど、全体に共通する表記規則を自分で管理する必要があります。このような手法には時間がかかり、必然的にミスの原因となります。

Dorico は、あらかじめ作成されたスコアの設定に楽曲の演奏を従わせるのではなく、実際の楽曲の演奏方法に合わせてスコアを作成できるように設計されており、スコアというものを、実用的な演奏法を柔軟に表現するためのものに落とし込んでいます。

Dorico の最上位のコンセプトが、スコアを演奏する人であるミュージシャンのグループとなっているのはこのためです。スコアは、1つ以上のグループ (たとえば、二部合唱、またはオーケストラおよびオフステージの室内楽アンサンブルなど) に対して作成できます。各グループには、1つ以上のインストゥルメントを演奏する人を表わすプレーヤーが1人以上含まれています。プレーヤーは、1つ以上のインストゥルメントを演奏する個人 (イング

リッシュホルンを持ち替えるオーボエ奏者など)、または全員が同じ楽器を演奏するグループ(バイオリン奏者 8 人など)のいずれかです。

スコアのグループによって演奏される実際の楽譜は、1 つ以上のフローに属します。フローは、1 歌曲全体、ソナタまたはシンフォニーの 1 楽章、ミュージカルの 1 曲目、または音階練習曲もしくは練習曲など、任意の範囲の独立した楽譜です。フローによっては、プレイヤーが演奏する楽譜を持たない場合があります。たとえば、クラシックの交響曲のゆったりとした楽章ですべての金管楽器プレイヤーが演奏しない場合や、映画用のスコアで特定のプレイヤーが演奏しない場合があります。このような場合でも、フローにはあらゆる組み合わせのプレイヤーを含めることができるため問題ありません。

Dorico には、さまざまなメリットがあります。最大のメリットは、同じ音楽コンテンツを共有するスコアをさまざまなレイアウトで作成できる点です。たとえば、できるだけ多くのインストゥルメントをより少数の譜表に要約した指揮者用のスコアを作成したり、各プレイヤーの楽譜を個別の譜表に記述したフルスコアを作成したり、特定のプレイヤーに属する楽譜のみを含めたパート譜を作成したりできます。

Dorico と他の楽譜作成アプリケーションの最大の違いは、音楽コンテンツとスコアを表示するレイアウトが独立して存在する点なのです。

主要な音楽的コンセプト

Dorico で効率的に作業するためには、プログラムのコンセプトモデルを理解することが重要です。

このコンセプトモデルは、人が実際にどのように楽譜を書き、どのように演奏するかという、実用的な面に基づいています。

プロジェクト

Dorico で作成する個別のドキュメントのことです。

プロジェクトには、非常に短い楽譜から非常に長い楽譜まで、あらゆるインストゥルメントの組み合わせとさまざまなレイアウトで書かれた複数の楽譜が含まれます。

モード

スコアを作成するためのワークフローのフェーズのことです。

プロジェクトウィンドウから、以下のモードを使用できます。

設定

プレイヤーおよびプロジェクトで再生されるインストゥルメントを設定できます。また、フローの管理やレイアウトの設定もできます。

記譜

楽譜を書くことができます。音符と休符、調号、拍子記号、および表現記号を挿入できます。

浄書

豊富なコントロールを使用して、プロジェクトのすべてのアイテムを操作したり変更したりできます。ページ、マスターページ、レイアウト、および形式を管理することもできます。

再生

プロジェクトの再生に関する設定を行なうことができます。VST インストゥルメントの割り当て、ミキシングの調節、オートメーションの適用、およびノートデータの最適化を行なえます。

印刷

指揮者用のフルスコア、練習曲のスコア、個別のパート譜など、さまざまな用途向けの印刷ジョブを定義できます。すべての印刷ジョブに対して、ページサイズおよび両面印刷オプションを指定できます。さまざまなファイルタイプ (PNG など) への書き出しなど、その他の出力も管理できます。

インストゥルメント

Dorico における、インストゥルメントとは、ピアノ、フルート、バイオリンなど、個々の楽器を指します。

Dorico には、各インストゥルメントのプロパティに関する情報のデータベースがあります。これには、音域、一般奏法および特殊奏法、記譜の規則、調性、チューニング、音部記号、譜表の数、譜表タイプなどが含まれます。これらのプロパティは必要に応じて編集したり拡張したりできます。

補足

チューニングの異なる複数のギターや調性が異なる複数のホルン、弦楽器のファミリーに属するインストゥルメントなど、類似したインストゥルメントは、共通のプロパティを共有できます。これにより、さまざまなインストゥルメントのデータを一括で編集できます。

関連リンク

[インストゥルメント \(67 ページ\)](#)

プレーヤー

Dorico における、プレーヤーとは、1 人のミュージシャンまたは複数のミュージシャンのことを指します。

プレーヤーは以下に分類できます。

- ソロプレーヤー: 1 つ以上のインストゥルメントを演奏できる 1 人のミュージシャン。たとえば、アルトサクソフォンも演奏するクラリネット奏者や、バスドラム、シンバル、トライアングルを演奏する打楽器奏者など。
- セクションプレーヤー: 同じインストゥルメントを演奏するすべてのミュージシャン。たとえば、バイオリン奏者 8 人または混声合唱のソプラノパートなど。

補足

セクションプレーヤーは、複数のインストゥルメントを演奏することはできませんが、分奏 (ディヴィジ) することはできます。つまり、セクションプレーヤーを小規模なユニットに分けることができます。これは、一般的に弦楽器で必要とされる機能です。

グループ

1つのまとまりとして扱われるミュージシャンの集合のことです。合唱、オーケストラ、または室内楽のアンサンブルと同じようなものと考えてください。

一般的なプロジェクトでは、すべての定義されたプレーヤーを含むグループが1つだけになる場合がありますが、大規模な楽譜では、演奏部隊を簡単に分けられるよう、必要な数だけグループを定義できます。また、グループへのプレーヤーの割り当ては、特に、指揮者のスコアに表示するプレーヤーの譜表に適切な括弧とラベルを付けるために必要となる場合があります。

例

二部合唱およびオルガンの楽譜では、2つの合唱を個別のグループとして定義できます。これにより、各合唱は、合唱内の各セクションプレーヤー (ソプラノ、アルト、テノール、バス) のラベルに加え、独自のラベルを付けることができます。

エリオット・カーター (Elliott Carter) の3群のオーケストラによる交響曲 (A Symphony of Three Orchestras) などの複雑な楽譜では、各オーケストラを個別のグループとして定義できます。

フロー

音楽コンテンツ内で完全に独立している、個別の楽譜の範囲のことです。

たとえば、1歌曲、ソナタや交響曲の1楽章、ステージミュージカルの1曲目、または数小節からなる短い音階練習曲や初見練習曲をフローとして作成できます。単一のプロジェクトには、1つ以上のフローを含めることができます。

フローには、あらゆるプレーヤーを組み合わせた楽譜を含めることができます。たとえば、古典派の交響曲では、金管楽器のプレーヤーがゆるやかな第2楽章でタッチットになることは珍しくありません。この場合、第2楽章のフローには金管楽器のプレーヤーは含まれません。映画のキューなどでは、特定のキューにおいて特定のプレーヤーが必要とされないことがあります。この場合、各フローには演奏するプレーヤーのみが含まれます。

補足

Dorico では、フローにプレーヤーを正しく割り当てると、個々のパートに対してタッチットシートを自動的に生成できます。

レイアウト

ページサイズ、余白、譜表サイズなど、1つ以上のフローにある1人以上のプレイヤーの楽譜をどのように表示するかを定義します。

レイアウトでは、ページレイアウトおよび浄書のルールに従って、フローなどの音楽コンテンツを組み合わせることができます。1つ以上のフローから、1人以上のプレイヤーのレイアウトを選択できます。レイアウトを使用して、ページ番号付きの記譜を作成し、印刷したりさまざまな形式へ書き出したりできます。

複数のプレイヤーが存在するアンサンブルの一般的なプロジェクトには、複数のレイアウトが含まれます。たとえば、3つの楽章で構成される弦楽四重奏の楽譜には、4人のソロプレイヤー（バイオリン2人、ヴィオラ1人、チェロ1人）および3つのフロー（各楽章に1つずつ）が含まれます。このようなプロジェクトに必要なレイアウトは以下の5つです。

- 個々のパート（ソロプレイヤー）の3つのフローすべての楽譜を含むレイアウト4つ
- フルスコア（3つのフローすべて、4人のプレイヤーすべての楽譜）を含むレイアウト1つ

各レイアウトでは、譜表サイズ、音符のスペーシング、組段の形式を含む、楽譜の外観に関するあらゆる側面を個別に制御できます。

レイアウトはそれぞれ、ページサイズ、余白、全ページに表示されるヘッダー、フッターなどの個別のページレイアウトプロパティを持つ場合があります。これらをマスターページとして定義すると、レイアウト内の左ページまたは右ページ、1ページ目または最終ページなど、特定のページにレイアウトを自由に適用できます。フローフレームでは、各ページで楽譜を表示する位置を定義できます。DTPアプリケーションで、テキストフローがテキスト枠に割り当てられるのと同じように、各フローフレームには、1つ以上のフローが割り当てられます。また、Doricoには、序文、論評、歌詞ブロックなど、テキストブロックを表示するためのテキストフレームがあります。

補足

Dorico のページレイアウト機能では、複数のフローフレームとテキストフレームを同じページに割り当てることができます。これにより、同じページ上の複数のフローから楽譜を組み合わせることができます。

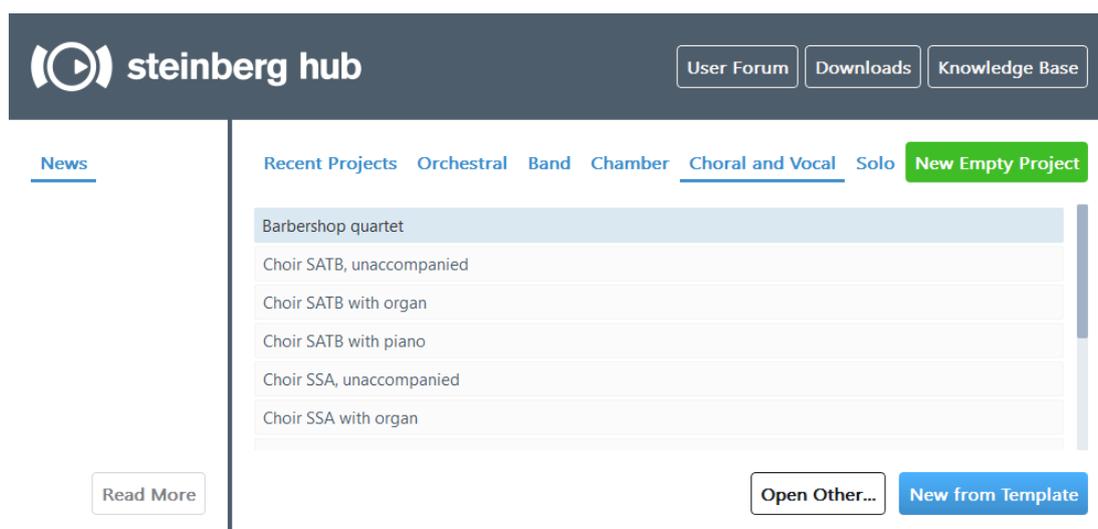
ユーザーインターフェース

Dorico のユーザーインターフェースは、すべての重要なツールをすぐに使えるようにしながら、できる限り邪魔にならないように設計されています。

プロジェクトに不要な変更を加えずにインターフェースを操作できます。誤って編集した場合はいつでも元に戻したり、保存せずにプロジェクトを閉じたりできます。

Hub

Dorico を起動すると Hub が開きます。Hub は、Steinberg 社の最新情報を入手したり、プロジェクトを整理したりするのに役立ちます。Hub は、「**ニュース (News)**」セクションと**プロジェクト (Projects)**」セクションで構成されています。



ニュース (News)

Steinberg からのお知らせを表示します。

続きを読む (Read More)

選択したニュースやチュートリアルトピックの詳細を記載した Steinberg ウェブサイトのページを表示します。

ユーザーフォーラム (User Forum)

Steinberg ウェブサイトのユーザーフォーラムのページを表示します。

ダウンロード (Downloads)

Steinberg ウェブサイトのダウンロードのページを表示します。

Knowledge Base

Steinberg ウェブサイトのKnowledge Base のページを表示します。

最近使用したプロジェクト (Recent Projects)

最後に作業したプロジェクトのリストを表示します。[↑]/[↓] キー、またはマウスでリストをスクロールできます。

オーケストラ (Orchestral)、バンド (Band)、室内楽 (Chamber)、合唱および声楽 (Choral and Vocal)、ソロ (Solo)

さまざまなカテゴリーからプロジェクトテンプレートを選択できます。

新規空白プロジェクト (New Empty Project)

新規プロジェクトを開始します。

他のファイルを開く (Open Other)

コンピューター上に保存されている他のプロジェクトを開くことができます。

選択したプロジェクトを開く (Open Selected Project)

「最近使用したプロジェクト (Recent Projects)」のリストで選択したファイルを開きます。または、ファイル名をダブルクリックするか、ファイルを選択して [Enter] を押します。

プロジェクトテンプレートのみ: テンプレートから新規作成 (New from Template)

プロジェクトテンプレートカテゴリーのリストで選択したプロジェクトテンプレートから、新規プロジェクトを作成します。

新規プロジェクトの開始

Dorico では、複数の方法でプロジェクトを開始できます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - Hub で「**新規空白プロジェクト (New Empty Project)**」を選択します。
 - [Ctrl]/[command]+[N] を押します。

補足

このオプションは、プロジェクトウィンドウでも使用できます。

- 「**ファイル (File)**」 > 「**新規 (New)**」を選択します。

補足

このオプションは、プロジェクトウィンドウでも使用できます。

結果

新しいプロジェクトウィンドウが開きます。

プロジェクトテンプレートから新規プロジェクトを開始

Dorico では、新規プロジェクトを開始するためのプロジェクトテンプレートが複数用意されています。

手順

1. Hub で、プロジェクトテンプレートのカテゴリを 1 つ選択します。
 - **オーケストラ (Orchestral)**
 - **バンド (Band)**
 - **室内楽 (Chamber)**
 - **合唱および声楽 (Choral and Vocal)**
 - **ソロ (Solo)**
 2. 選択したカテゴリのプロジェクトテンプレートのリストからプロジェクトテンプレートを選択します。
 3. 「**テンプレートから新規作成 (New from Template)**」をクリックします。
-

結果

プロジェクトテンプレートが新規プロジェクトウィンドウで開きます。

補足

または、「**ファイル (File)**」 > 「**テンプレートから新規作成 (New from Template)**」を選択することもできます。次に、プロジェクトテンプレートのカテゴリのリストからプロジェクトテンプレートを選択します。

最近使用したプロジェクトの選択

最近作業したプロジェクトを選択して開くことができます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 「**最近使用したプロジェクト (Recent Projects)**」のリストで、ファイル名を選択して、[↑]または[↓]キーを押してファイル名のリストをスクロールします。ファイルを開くには、[Enter]を押します。
 - 「**最近使用したプロジェクト (Recent Projects)**」のリストで、プロジェクトファイル名をダブルクリックします。
 - 「**最近使用したプロジェクト (Recent Projects)**」のリストで、プロジェクトファイル名を選択し、「**選択したプロジェクトを開く (Open Selected Project)**」をクリックします。
 - 「**ファイル (File)**」 > 「**最近使用したファイルを開く (Open Recent)**」をクリックし、プロジェクトファイル名を選択します。

補足

このオプションは、プロジェクトウィンドウでも使用できます。

他のファイルを開く

「最近使用したプロジェクト (Recent Projects)」に表示されていない他の Dorico プロジェクトを開くことができます。または、MusicXML や MIDI ファイルを読み込むことができます。

手順

1. 「他のファイルを開く (Open Other)」をクリックします。

補足

または、「ファイル (File)」 > 「開く (Open)」からも選択できます。

2. 表示されたダイアログで、開くファイルを確認します。

ヒント

同時に複数のファイルを開く場合は、[Ctrl]/[command] を押してファイルを 1 つずつ選択するか、[Shift] を押して指定した範囲のファイルを選択します。

3. 「開く (Open)」をクリックします。
-

結果

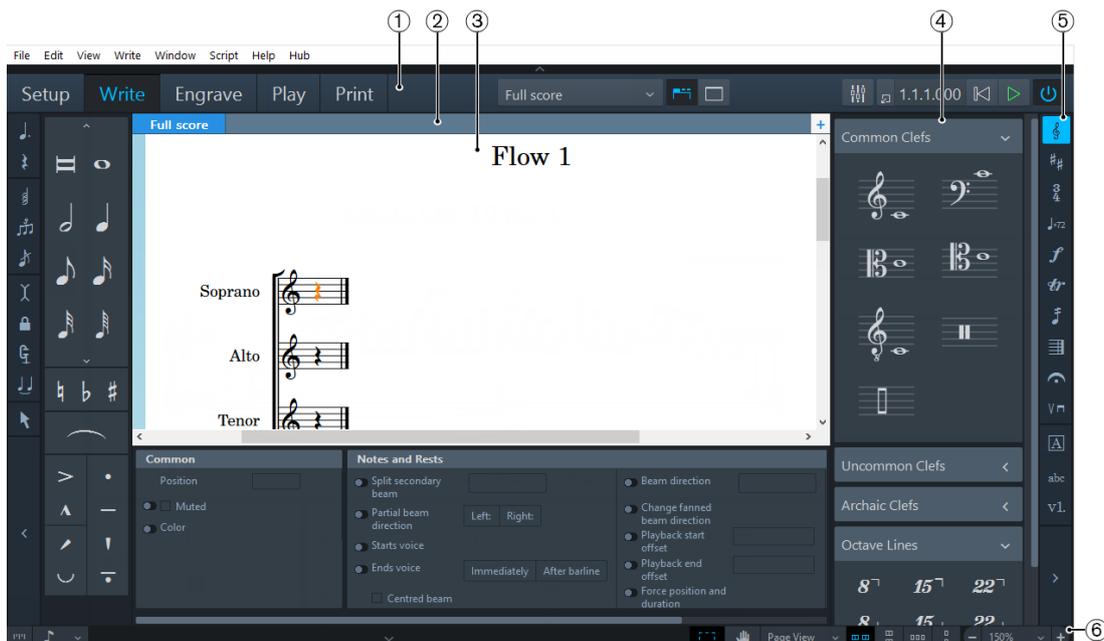
MusicXML や MIDI ファイルを読み込むと、MusicXML や MIDI の内容をもとにして Dorico の新規プロジェクトファイルが作成されます。このファイルを Dorico のデフォルトのプロジェクトとして保存できます。

Windows

Dorico には、プロジェクトウィンドウとフローティングウィンドウがあります。

プロジェクトウィンドウ

同じまたは別のプロジェクトを複数のプロジェクトウィンドウで開くことができます。プロジェクトウィンドウは、複数の領域で構成されています。



プロジェクトウィンドウ

1. ツールバー
各モードや、ワークスペースオプション、**ミキサー**および基本的なトランスポートオプションにアクセスできます。
2. タブバー
設定モード、**記譜**モード、**浄書**モードで、開いているタブを表示します。楽譜領域を分割して複数のタブを開く場合は、**タブグループ**が表示されます。
3. プロジェクト開始領域/楽譜領域/イベントディスプレイ/印刷プレビュー領域
新規空白プロジェクトを設定すると、**設定**モード、**記譜**モード、**浄書**モードのこの領域にプロジェクト開始領域が表示され、最初のプレーヤーを追加できます。プレーヤーまたはアンサンブルを追加すると、この領域は楽譜領域となり、設定、記譜、編集、および形式設定を行なうスコアの全体または一部を表示します。**再生**モードでは、VST インストゥルメントを使ってスコアの再生をコントロールするエフェクトを表示するイベントディスプレイがこの領域に表示されます。**印刷**モードでは、プロジェクトがどのように用紙に印刷されるか、またはどのように画像ファイル形式に書き出されるかを印刷プレビュー領域にプレビューとして表示します。
4. パネル
パネルには楽譜の作成や編集に必要な音符および記譜記号が表示されます。
5. ツールボックス
記譜モードのみ: 楽譜に使用するさまざまな記譜項目にアクセスできます。
6. ステータスバー
楽譜領域の異なるビューやページ配置を選択できます。

フローティングウィンドウ

Dorico では、「**ミキサー**」ウィンドウや「**トランスポート**」ウィンドウなどのフローティングウィンドウを開くことができます。フローティングウィンドウは、メインウィンドウ

で選択したモードとは関係なく、表示/非表示を切り替えられます。以下のオプションでフォーディングウィンドウが開きます。

ミキサーを表示 (Show Mixer)



ミキサーウィンドウを開きます。

トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)



「トランスポート (Transport)」ウィンドウを開きます。

関連リンク

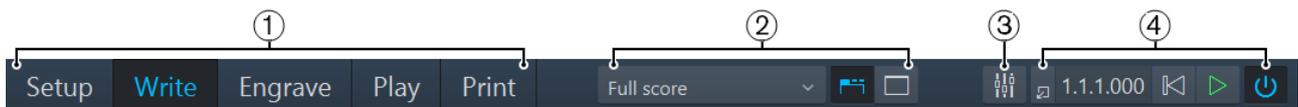
[複数のプロジェクトウィンドウを開く](#) (49 ページ)

ツールバー

各モードや、ワークスペースオプションに加え、**ミキサー** およびトランスポートオプションを選択できます。

ツールバーは、モードやツールに関係なく常に使用できます。ツールバーを非表示にする必要がある場合は、ツールバー上部にある展開矢印マークをクリックしてください。

ツールバーは以下のアイテムで構成されます。



1. モード
プロジェクトウィンドウ内で選択できるワークスペースです。スコアを作成するワークフローの異なるフェーズのことを指します。
2. ワークスペースオプション
異なるレイアウトを選択したり、作業環境を変更したりするオプションです。
3. 「**ミキサーを表示 (Show Mixer)**」 ボタン
ミキサーウィンドウを開いたり閉じたりします。
4. 基本的なトランスポートオプション
主なトランスポート機能に素早くアクセスできます。

関連リンク

[ワークスペースオプション](#) (37 ページ)

[基本的なトランスポートオプション](#) (37 ページ)

ワークスペースオプション

ツールバー中央のワークスペースオプションでは、異なるレイアウトを選択したり、作業環境を変更したりできます。

レイアウトの選択 (Select Layout)



レイアウトを切り替えることができます。

タブを表示 (Show Tabs)



楽譜領域の上にあるタブバーの表示/非表示を切り替えます。

パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)



すべてのパネルの表示/非表示を切り替えます。

基本的なトランスポートオプション

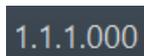
ツールバーの右にあるトランスポートオプションから、Dorico の主なトランスポート機能を使用できます。

トランスポートバーを表示 (Show Transport Bar)



「トランスポート (Transport)」ウィンドウを開きます。

タイムディスプレイ



スコア上で再生位置を表示します。タイムディスプレイは、小節、拍、16 分音符、16 分音符テンポ 120 の順で単位を表示します。

最初に巻き戻し (Rewind to Beginning)



スコアの最初に再生位置をセットします。

再生 (Play)



再生を開始/停止します。

プロジェクトの有効化 (Activate Project)



再生用に有効化されているプロジェクトを表示します。

タブバー

Dorico のタブバーを使用すると、同じプロジェクトウィンドウ内で異なるレイアウトを表示できます。

各タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを含められます。各タブは、選択したレイアウト名でラベル付けされます。

タブはツールバーと楽譜領域の間のタブバーに並べて表示されます。タブが表示されていない場合は、ツールバーの「**タブを表示 (Show Tabs)**」をクリックします。「**タブを表示 (Show Tabs)**」がオンになっている場合、タブが1つしか開いていなくてもタブは常に表示されます。

プロジェクト開始領域

設定モード、記譜モード、浄書モードでは、空白プロジェクトを新規作成すると、プロジェクト開始領域がプロジェクトウィンドウの中央に表示されます。

Start your project by adding some players

+ Add Solo Player	+ Add Section Player	+ Add Ensemble
<p>An individual player who plays one or more instruments.</p> <p>Examples: Solo violin, Piano, Flute & Piccolo</p>	<p>A group of players that all play the same instrument.</p> <p>Examples: Violin I section, Soprano as part of a choir</p>	<p>An easy way to add multiple players at the same time.</p> <p>Examples: Double Woodwind, Triple Brass, String section.</p>

プロジェクト開始領域には、最初のプレーヤーカードを追加するためのメニューが表示されます。プレーヤーを追加するには、いずれかのカードをクリックします。

ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)

1つ以上のインストゥルメントを割り当てる個人プレーヤーを追加します。

セクションプレーヤーを追加 (Add Section Player)

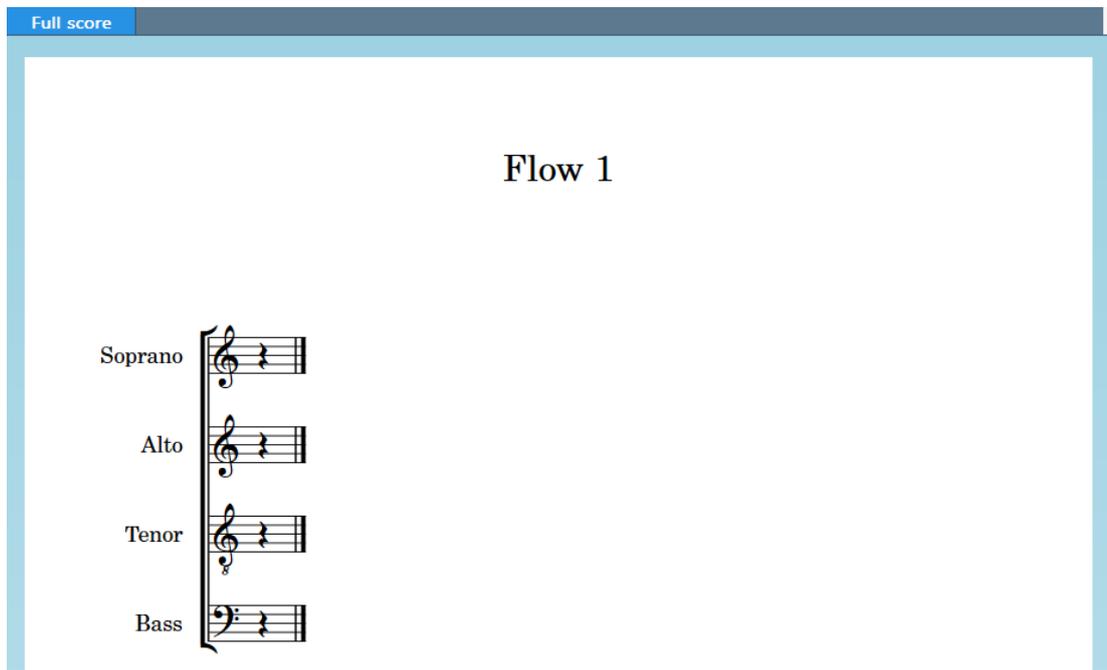
全員が同じインストゥルメントを演奏する演奏者のグループを追加します。

アンサンブルを追加 (Add Ensemble)

異なるインストゥルメントを演奏する複数のプレーヤーを追加します。追加されるアンサンブルは、演奏者の基本的な組み合わせを表わします。

楽譜領域

設定モード、記譜モード、浄書モードでは、楽譜領域に編集可能なスコアが表示されます。



スコアのサンプルが表示された楽譜領域

楽譜領域では、複数のビューを切り替え表示できます。楽譜領域のタブバーを使用すると、プロジェクト内の複数のレイアウトをタブで開いて、レイアウトを切り替え表示できます。楽譜領域の右側と下部のスクロールバーを使用すると、レイアウト内でスクロールできます。

印刷プレビュー領域

印刷モードの印刷プレビュー領域は、印刷内容や書き出す内容をグラフィックとして表示します。



スコアを冊子印刷表示する印刷プレビュー領域

印刷プレビュー領域では、スクロールしてすべてのページを表示できますが、レイアウトの編集はできません。レイアウトを変更するには、**設定モード**、**記譜モード**、**浄書モード**に切り替える必要があります。

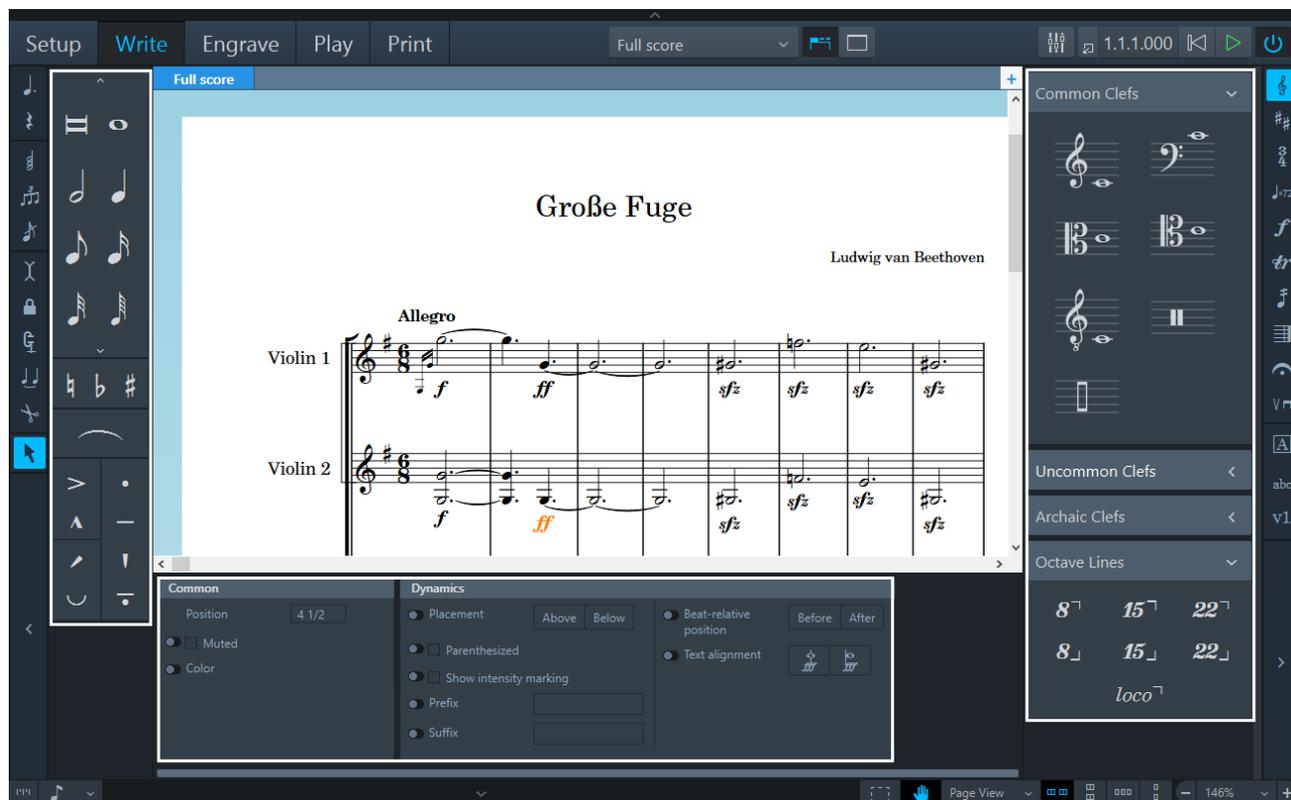
単一の印刷ジョブで複数のレイアウトを印刷する場合、印刷プレビュー領域には最初のレイアウトのみ表示されます。印刷プレビューで各レイアウトのページ配置が期待通りに表示されるか確認したい場合は、印刷する前に各レイアウトを個別に確認する必要があります。

関連リンク

[印刷モードのプロジェクトウィンドウ \(154 ページ\)](#)

パネル

プロジェクトウィンドウのパネルには、音符、記譜記号、および楽譜の設定、記譜、編集、形式設定に必要な機能が表示されます。



記譜モードの音符パネル(左)、記譜パネル(右)、プロパティパネル(下)

Dorico の各モードでは、モード固有のパネルが表示されます。

モードとパネル

モード	左パネル	右パネル	下パネル
設定	プレーヤー	レイアウト	フロー
記譜	音符	記譜	プロパティ
浄書	形式設定	ページ	プロパティ
再生	トラック	VST インスト ラument	なし
印刷	レイアウト	印刷オプション	なし

パネルには、初期設定で表示されるものとそうでないものがあります。パネルを個別に表示したり非表示にしたり、同時にすべてのパネルを表示したり非表示にしたりできます。各パネルの詳細については、各モードの説明を参照してください。

- 関連リンク
- [モード](#) (27 ページ)
 - [パネルの非表示](#) (50 ページ)
 - [個別のパネルの非表示](#) (50 ページ)

ツールボックス

ツールボックスは**記譜モード**で使用できます。音符や記譜項目の入力および修正するツールと、記譜パネルに表示する記譜項目を決定するツールがあります。

- 関連リンク
- [音符ツールボックス](#) (80 ページ)
 - [記譜ツールボックス](#) (83 ページ)

ステータスバー

プロジェクトウィンドウの下部のステータスバーから、楽譜領域で使用するビューやページ配置を選択できます。

補足

ステータスバーは、**設定モード**、**記譜モード**、**浄書モード**でのみ使用できます。モードによって使用できないオプションがあります。



記譜モードおよび設定モードのステータスバー

1. 「**リズムグリッドの間隔 (Rhythmic Grid Resolution)**」セレクター
記譜モードで、音符や記譜記号の挿入に使用するリズムグリッドの間隔を変更できます。
2. 展開矢印マーク
設定モード、記譜モード、浄書モードで下部のパネルの表示/非表示を切り替えられます。
3. 選択ツール
記譜モードと浄書モードで、「**範囲選択ツール (Marquee Tool)**」と「**ハンドツール (Hand Tool)**」の使用を切り替えることができます。
4. ビュータイプセレクター
設定モードと記譜モードで、楽譜領域で使用するビュータイプを選択できます。
5. ページ配置オプション
個別のページまたは見開きと呼ばれるページのペアを水平方向に配置するか垂直方向に配置するかを選択できます。
6. ズームオプション
楽譜領域とその音楽コンテンツの表示倍率を変更できます。

関連リンク

[リズムグリッド](#) (89 ページ)

[ビュータイプ](#) (44 ページ)

[選択ツール](#) (43 ページ)

[ページビューのページ配置](#) (44 ページ)

[ズームオプション](#) (45 ページ)

選択ツール

Dorico では、楽譜領域内のアイテムの選択また移動に使用する選択ツールを選べます。

片方の選択ツールを選択した状態で [Shift] を押しながら選択操作を行なうと、一時的にもう一方の選択ツールを利用できるようになります。

以下のツールを使用できます。

範囲選択ツール (Marquee Tool)

クリックおよびドラッグして長方形を描くと、複数の音符や記譜記号を選択できます。

ハンドツール (Hand Tool)

楽譜領域内のビューをクリックおよび移動できます。

関連リンク

[複数の音符と記譜記号の選択](#) (43 ページ)

[ビューを動かす](#) (43 ページ)

複数の音符と記譜記号の選択

「**範囲選択ツール (Marquee Tool)**」を使用して、音符と記譜記号を選択できます。

手順

1. ステータスバーで「**範囲選択ツール (Marquee Tool)**」  をオンにします。
2. 楽譜領域で選択を開始する位置をクリックし、マウスボタンを押したままにします。
3. 選択を終了する位置までドラッグします。
選択される音符と記譜記号を示す長方形が表示されます。
4. マウスボタンを放します。

結果

長方形の中に含まれたすべての音符と記譜記号が選択されます。

ビューを動かす

記譜モードと浄書モードでは、楽譜領域内でビューを動かすことができます。

手順

1. ステータスバーで「**ハンドツール (Hand Tool)**」  をオンにします。
2. ビュー内の任意の場所をクリックして、マウスボタンを押したままにします。

マウスポインターを移動すると、手のアイコンに変わります。

3. ビューを動かします。
 4. マウスボタンを放します。
-

ビュータイプ

Dorico では、さまざまな方法でレイアウトを確認できます。

各レイアウトで選択したビュータイプは Dorico に保存されるため、ビュータイプを毎回設定し直す必要はありません。新規プロジェクトのデフォルトビュータイプは、環境設定で変更できます。

以下のビュータイプを使用できます。

ギャラリービュー

楽譜を単一の連続した組段に表示します。また、有効なレイアウトとフローに含まれるすべてのインストゥルメントを表示します。

ギャラリービューは、プロジェクトの音楽コンテンツに集中できるため、楽譜の入力に最適です。

補足

ギャラリービューでは、音符のスペーシングは自動で調整されません。つまり、ページや楽曲フレームの幅に合わせて拡大も縮小もされません。ただし、ギャラリービューで変更した音符のスペーシングはページビューにも適用されます。

ページビュー

印刷または書き出しをしたときに表示されるページ番号付きのレイアウトをそのまま表示します。

ページビューは、見開きページや単一ページを確認するのに最適です。見開きページビューでは、パフォーマーがペアになっているページの右側ページの最後でページをめくるだけで済むように、ページめくりを調整できます。単一ページビューは、一連の単一ページとしてレイアウトを印刷する場合に便利です。たとえば、連続用紙や折りたたみ式の用紙を使用するときは、ページの左右を区別しないため、単一ページビューの使用が必要になる場合があります。

関連リンク

[環境設定](#) (51 ページ)

[楽譜領域のビュータイプの変更](#) (51 ページ)

[ページビューのページ配置](#) (44 ページ)

ページビューのページ配置

楽譜領域で使用するページの配置方法を変更できます。

見開き (水平) (Spreads Horizontally)



ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ左から右に水平方向に並べて配置します。

見開き (垂直) (Spreads Vertically)



ページを見開きのペアとして表示し、見開きページをそれぞれ上から下に垂直方向に並べて配置します。

単一ページ (水平) (Single Pages Horizontally)



各ページを個別に左から右に配置します。

単一ページ (垂直) (Single Pages Vertically)



各ページを個別に上から下に配置します。

ズームオプション

楽譜領域の音符および記譜記号のサイズを変更できます。

ズームアウト (Zoom Out)

楽譜領域の音符および記譜記号のサイズを縮小します。

表示倍率を設定 (Set Zoom)

リストからズーム倍率を選択できます。デフォルトのズーム倍率は、環境設定で設定できます。

ズームイン (Zoom In)

楽譜領域の音符および記譜記号のサイズを拡大します。

関連リンク

[環境設定](#) (51 ページ)

ワークスペースの設定

Dorico では、作業スタイルに合わせてワークスペースを設定できます。

また、Dorico では、複数のタブを開いて、同じウィンドウ内に同じプロジェクトの複数のレイアウトを表示できます。複数のウィンドウに同じプロジェクトを開くこともできます。

タブを使って異なるビューやレイアウトを開く

タブを使って同じプロジェクトウィンドウ内に異なるビューまたはレイアウトを表示できます。

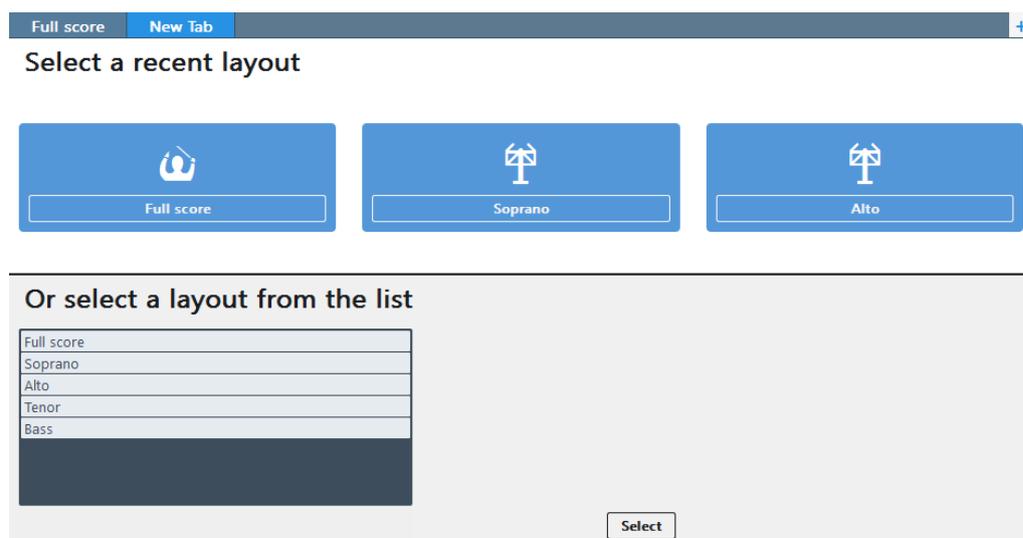
各タブには、別のタブやウィンドウで既に開いている別のレイアウト、またはレイアウトの別のビューを表示できます。新規タブを開くと、タブに表示するレイアウトを選択する画面が表示されます。

タブは、ツールバーと楽譜領域の間に表示されます。タブが表示されない場合は、ツールバーの「**タブを表示 (Show Tabs)**」  をクリックします。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - [Ctrl]/[command]+[T] を押します。
 - タブの右側の「**新規タブ (New Tab)**」  をクリックします。
 - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**新規タブ (New Tab)**」を選択します。

新規タブを開くと、上部にアイコン、下部にレイアウトのリストが表示されます。



- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - アイコンをクリックします。
 - 下部のリストからレイアウトを選択します。
 - ツールバーの「**レイアウトの選択 (Select Layout)**」をクリックして、ポップアップメニューからレイアウトを選択します。

結果

選択したレイアウトがアクティブなタブで開きます。

タブグループの作成

タブグループを作成し、垂直または水平に分割して表示できます。つまり、異なるレイアウトを横に並べて表示したり、上下に並べて表示したりできます。

また、この機能を使って異なるビューで個別のレイアウトを確認することもできます。

手順

- 新規タブグループに移動するレイアウトのタブを選択します。

- 元のタブグループを垂直に分割して表示する新規タブグループを作成したり、レイアウトを横に並べて表示する新規タブグループを作成したりするには、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**垂直分割 (Vertical Split)**」を選択します。
 - 元のタブグループを水平に分割して表示する新規タブグループを作成したり、レイアウトを上下に並べて表示する新規タブグループを作成したりするには、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**水平分割 (Horizontal Split)**」を選択します。
-

結果

選択したタブが新規タブグループに移動します。

関連リンク

[別のタブグループへのタブの移動](#) (48 ページ)

個別のタブを閉じる

不要になったレイアウトの個別のタブを閉じることができます。

手順

- 個別のタブを閉じるには、以下のいずれかの操作を行います。
 - 閉じるレイアウトのタブを選択して、[Ctrl]/[command]+[W] を押します。
 - タブにマウスオーバーして x アイコンをクリックします。
 - タブを右クリックし、コンテキストメニューから「**タブを閉じる (Close Tab)**」を選択します。

補足

ウィンドウに表示されているタブが 1 つだけの場合、そのタブは閉じることができません。タブが 1 つだけ開いていてそのタブを非表示にする場合は、メインツールバーで「**タブを表示 (Show Tabs)**」をオフにします。タブは表示されなくなりますが、対応するレイアウトは表示されたままとなります。

複数のタブを閉じる

選択した以外のすべてのタブを閉じることができます。

手順

1. タブを右クリックします。
 2. コンテキストメニューから、「**他のタブを閉じる (Close Other Tabs)**」を選択します。
-

結果

タブとそれに対応するレイアウトが閉じます。

タブの切り替え

異なるタブ間で切り替えて、楽譜領域に異なるレイアウトを表示できます。

手順

- タブを切り替えるには、以下のいずれかの操作を行います。
 - 切り替え先のタブをクリックします。
 - [Ctrl]/[command]+[Tab] を押して、開いているすべてのタブを順番に切り替え表示します。[Ctrl]/[command]+[Shift]+[Tab] を押して、開いているすべてのタブを順番に切り替え表示します。
 - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**次のタブ (Next Tab)**」/ 「**前のタブ (Previous Tab)**」を選択します。
-

タブの順番の変更

タブバー上でタブを別の位置に移動できます。

手順

1. タブをクリックして新しい位置までドラッグします。
他のタブが移動して、ドラッグされたタブがどこに配置されるかを示します。
 2. マウスボタンを放します。
-

別のタブグループへのタブの移動

タブを別のタブグループに移動できます。

補足

タブが少なくとも2つ開いている場合のみ、タブを別のタブグループに移動できます。

手順

1. 移動するタブを選択します。
 2. タブをクリックして目的のタブグループのとなりの空白スペースまでドラッグし、マウスボタンを放します。
-

別のウィンドウへのタブの移動

同じプロジェクトの別のウィンドウにタブを移動して、新規ウィンドウに同じレイアウトを表示できます。

補足

- レイアウトは、同じプロジェクトに属している必要があります。タブを異なるプロジェクトのウィンドウに移動しようとしても、レイアウトが属するプロジェクトに新規ウィンドウが作成されます。

- タブが1つしか開いていない場合は、タブを別のウィンドウに移動することができません。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 同じプロジェクトの新規ウィンドウにタブを移動するには、タブをクリックしてタブバーから離れた水平方向 (右または左) にドラッグし、放します。
 - 同じプロジェクトの別のウィンドウのタブバーにタブを挿入するには、タブをクリックして、タブバー上にドラッグします。
 - タブを選択して右クリックし、コンテキストメニューから「**タブを新規ウィンドウへ移動 (Move Tab to New Window)**」を選択します。
 - タブを選択し、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**タブを新規ウィンドウへ移動 (Move Tab to New Window)**」をクリックします。

複数のプロジェクトウィンドウを開く

同じプロジェクトを複数のプロジェクトウィンドウで開くことができます。

同時に複数のレイアウトを確認して作業する場合に便利です。複数のプロジェクトウィンドウを開いて、同じプロジェクトを異なるモードで表示できます。

プロジェクトの各ウィンドウは完全に独立しているため、たとえば、1つのウィンドウで**記譜**モードを開き、別のウィンドウで**浄書**モードを開くことができます。再生中は、同じプロジェクトに属するすべてのウィンドウに再生ラインが表示され、再生に合わせてビューが移動します。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[T]** を押します。
 - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**新規ウィンドウ (New Window)**」を選択します。

結果

ウィンドウの複製が開きます。元のウィンドウと同じタブと同じ表示オプションが表示されます。

全画面表示モードに変更する

楽譜をできるだけ広く表示するには、プロジェクトウィンドウで画面全体を覆って、お使いのオペレーティングシステムのデスクトップ要素 (Windows のタスクバーや、Mac OS のシステムメニューバーと Dock など) を隠します。

手順

- 「**ビュー (View)**」 > 「**全画面表示 (Full Screen)**」を選択します。

タスク終了後の項目

表示をもとに戻すには、「ビュー (View)」 > 「**全画面表示 (Full Screen)**」を再度選択します。

パネルの非表示

レイアウトをさらに広く表示するには、メインウィンドウの周囲のパネルをすべて非表示にします。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - ツールバーで「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」  をクリックします。
 - 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」を選択します。

結果

表示されているパネルをすべて非表示にするとボタンの表示が変わり、非表示となっているパネルを示すボタンが表示されます。たとえば、 のボタンは、すべてのパネルが表示されていた状態からすべて非表示の状態になったことを示します。

個別のパネルの非表示

レイアウトをさらに広く表示するには、メインウィンドウの個別のパネルを非表示にします。

補足

すべてのモードでパネルの非表示/再表示を切り替えることができます。

手順

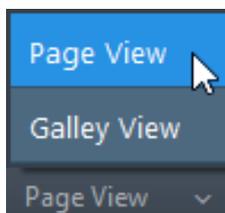
- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 左側のパネルを非表示にするには、展開矢印マークをクリックするか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**左のパネルを表示 (Show Left Panel)**」を選択します。
 - 右側のパネルを非表示にするには、展開矢印マークをクリックするか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右のパネルを表示 (Show Right Panel)**」を選択します。
 - 下部のパネルを非表示にするには、展開矢印マークをクリックするか、「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)**」を選択します。

楽譜領域のビュータイプの変更

楽譜領域の複数のビュータイプを切り替えることができます。

手順

1. ステータスバーでビューセレクターをクリックします。



2. リストからビュータイプを選択します。
 - ギャレービュー (Galley View)
 - ページビュー (Page View)
3. 「ページビュー (Page View)」を選択した場合は、ページ配置コントロールを使用してページの配置を変更できます。
 - 見開き (水平) (Spreads Horizontally) 
 - 見開き (垂直) (Spreads Vertically) 
 - 単一ページ (水平) (Single Pages Horizontally) 
 - 単一ページ (垂直) (Single Pages Vertically) 

関連リンク

[ビュータイプ](#) (44 ページ)

[ページビューのページ配置](#) (44 ページ)

環境設定

「環境設定 (Preferences)」ダイアログで、ワークスペースの設定を行ったり、キーボードショートカットを定義したりできます。

「環境設定 (Preferences)」ダイアログを開くには、[Ctrl]/[command]+[,] (コンマ) を押すか、「編集 (Edit)」 > 「環境設定 (Preferences)」を選択します。OS X では、「Dorico」 > 「環境設定 (Preferences)」をクリックします。

全般 (General)

テーマ (Theme)

ユーザーインターフェースの色を切り替えることができます。

最後のウィンドウを閉じた後の動作 (When the last window is closed)

最後のプロジェクトウィンドウを閉じる際の動作を指定できます。

言語 (Language)

ユーザーインターフェースの言語を選択できます。

デフォルトビュータイプ (Default view type)

新規プロジェクトのビュータイプを選択できます。

デフォルトズーム (Default zoom)

新規プロジェクトを作成するときに使用するズーム倍率を指定できます。

デフォルトのクリック & ドラッグ動作 (Default click-drag behavior)

プロジェクトで初期設定で使用する選択ツールを選択できます。

新規ウィンドウを最大化して開く (Open new windows maximized)

このオプションをオンにしてから新規ウィンドウを開くと、ウィンドウが画面に合わせて最大化されます。ただし、既に開いているウィンドウは最大化されません。

最近使用したファイルのフルパスを表示 (Show complete path for recent files)

このオプションをオンにすると、最近使用したファイルのパスが Hub と「**ファイル (File)**」メニューにファイル名と共に表示されます。

マウスを使用した音符入力を有効にする (Enable note input using the mouse)

このオプションをオンにすると、保存したプロジェクトまたは新規プロジェクトを開くときに音符ツールボックスの「**選択 (Select)**」ツール  が有効になります。マウスで音符を入力できるようになります。「**選択 (Select)**」ツールを無効にすると、一時的にこのオプションを無効にすることができます。

優先する基準単位 (Preferred unit of measurement)

Dorico で使用する単位やポイントと優先する基準単位との換算値を表示します。たとえば、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」ダイアログの「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションにある「**線間の高さ (Space size)**」の右側にあるインフォメーションボックスに選択した単位が表示されるため、譜表サイズを決定しやすくなります。

プロジェクトを開く際に VST プラグインウィンドウを開く (Open VST plug-in windows when opening projects)

このオプションをオンにすると、プロジェクトを開くときにプロジェクト用に選択した VST プラグインが別のウィンドウで開きます。

音符の入力中および選択中に音符を再生 (Play notes during note input and selection)

このオプションをオンにすると、以下の場合に音符が再生されます。

- 音符を選択したとき
- 音符を入力したとき
- 矢印キーを使って音符の選択を移動させたとき
- 個別の音符の符頭やコードの符尾をクリックしたとき

バックグラウンドのオーディオデバイスの停止 (Suspend audio device in background)

Dorico が起動している場合でも他のアプリケーションからオーディオデバイス経由で音楽を再生できます。このオプションをオンにすると、Dorico のウィンドウが選択されていないときは使用しているオーディオデバイスが停止されるため、他のアプリケーションでオーディオデバイスを使用できるようになります。

補足

オーディオデバイスにアクセスしているその他のオーディオアプリケーションもオーディオドライバーを解放するように設定してください。

オーディオデバイスの設定

「デバイス設定 (Device Setup)」ダイアログを開きます。

キーボードショートカット

多くの場合、Dorico のメインメニューにはメニュー項目のキーボードショートカットがあります。また、Dorico には、キーボードショートカットを使って実行できる機能が数多くあります。

また、「環境設定 (Preferences)」ダイアログの**キーボードショートカット (Key Commands)** セクションでは、必要に応じて自分の使いやすいようにキーボードショートカットをカスタマイズすることができます。キーボードショートカットが割り当てられていないメニュー項目や機能に対してキーボードショートカットを設定することもできます。

検索 (Search)

メニュー項目と機能を検索してキーボードショートカットを表示、変更、追加できます。

割り当て済みのキーボードショートカット (Assigned key commands)

選択されたメニュー項目または機能に既にキーボードショートカットが設定されている場合に表示されます。

キーボード言語 (Keyboard language)

キーボードの言語を選択できます。

新規ショートカット (New key command)

コンピューターキーボードで任意のキーを押して新しいキーボードショートカットを入力できます。

キーボードショートカットを削除 (Remove Key Command)

選択したメニュー項目または機能からキーボードショートカットを削除します。

キーボードショートカットを追加 (Add Key Command)

機能に割り当てたキーボードショートカットを有効にします。

キーボードショートカットをリセット (Reset Key Commands)

Dorico のデフォルトのキーボードショートカットに戻します。

概要を印刷 (Print Summary)

「Dorico のキーボードショートカット (Dorico Key Commands)」 ツールを開き、使用しているキーボードのレイアウトで使用可能なキーボードショートカットを表示します。

関連リンク

[ビュータイプ](#) (44 ページ)

[ズームオプション](#) (45 ページ)

[選択ツール](#) (43 ページ)

[レイアウトオプション](#) (76 ページ)

[キーボードショートカット](#) (6 ページ)

設定モード

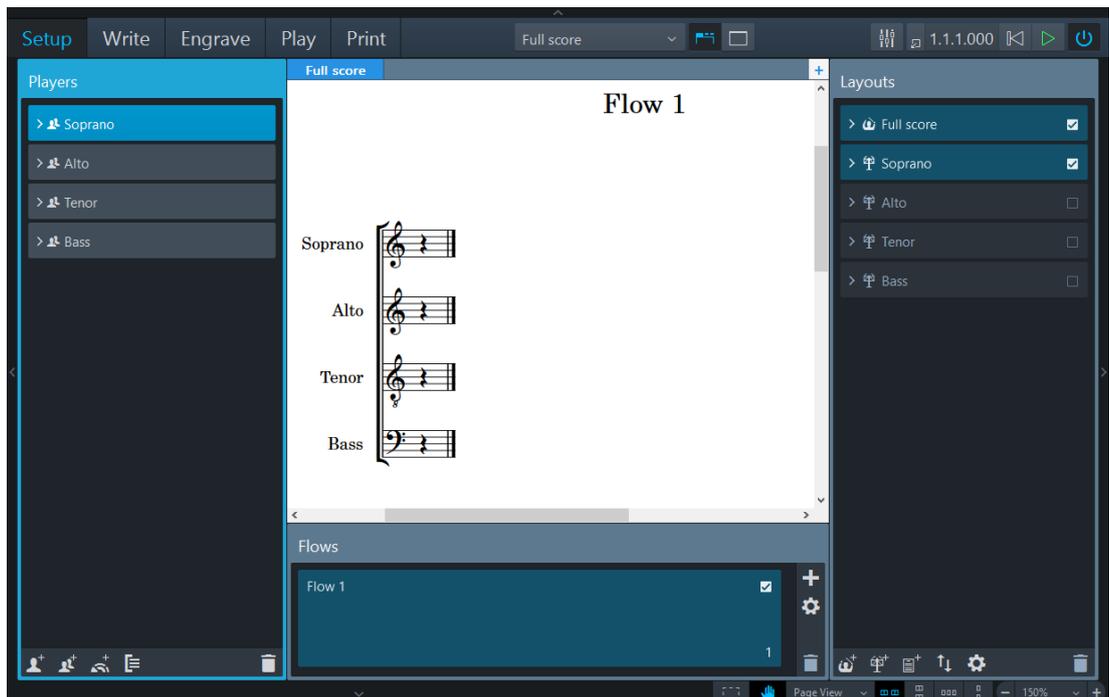
設定モードでは、プロジェクトのプレーヤーとインストゥルメントを決定できます。また、フローの作成管理やレイアウトの設定もできます。

設定モードのプロジェクトウィンドウ

設定モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバー、楽曲領域、ステータスバーが表示されます。プレーヤーの作成、インストゥルメントの割り当て、スコアのレイアウトやフローを指定するためのすべてのツールと機能を備えたパネルが表示されます。

設定モードを開くには、以下のいずれかの方法があります。

- ツールバーで「設定 (Setup)」を選択します。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「設定 (Setup)」を選択します。



設定モードのパネル

以下のパネルが表示されます。

1. **プレーヤー (Players)**
プロジェクトのプレーヤー、インストゥルメント、グループのリストを表示します。
2. **レイアウト (Layouts)**

プレーヤー用に作成されたレイアウトのリストを表示します。

3. フロー (Flows)

プロジェクト用に作成されたフローを表示します。

パネル上で項目を選択または編集すると、パネルと選択された項目が異なるカラーで強調表示されます。各パネルで、それぞれのプレーヤー、レイアウト、またはフローをアクティブ/非アクティブにすることで、以下を柔軟に決定できます。

- フローに含まれるプレーヤー

重要

フローからプレーヤーを除外すると、そのフローで該当するプレーヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

- パートまたはフルスコアレイアウトに表示または印刷するプレーヤー
- パートまたはフルスコアレイアウトに表示または印刷するフロー

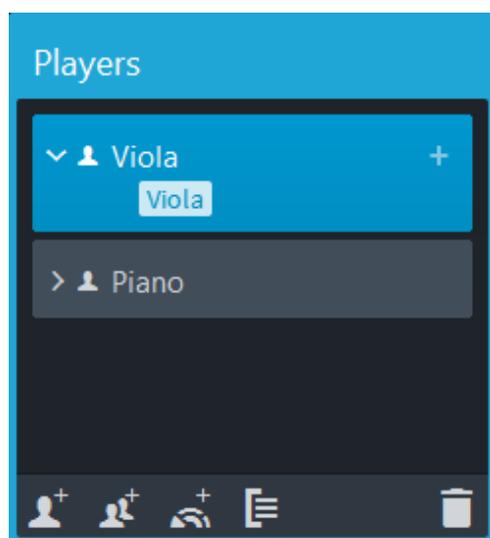
選択したすべてのプレーヤーとフローがレイアウトに表示されていることを確認するには、レイアウトセレクターでレイアウトを選択します。

プレーヤーパネル

「プレーヤー (Players)」パネルには、プロジェクトのプレーヤー、インストゥルメント、グループのリストが表示されます。

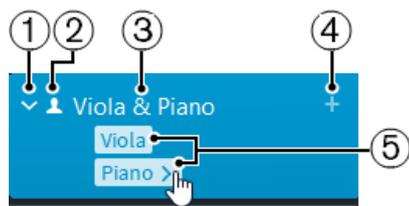
「プレーヤー (Players)」パネルが表示されない場合、以下のいずれかの操作を行ないます。

- メインウィンドウの左端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「左のパネルを表示 (Show Left Panel)」を選択します。



設定モードのプレーヤーパネル

「プレーヤー (Players)」パネルには、プロジェクトのすべてのグループ、プレーヤー、アンサンブルのリストがカードとして表示されます。各プレーヤーカードには以下が表示されます。



1. 展開矢印マーク
プレーヤーカードを展開したり、折りたたんだりします。
2. プレーヤーのタイプ
プレーヤーがソロプレーヤー 、セクションプレーヤー  のどちらであるかを示します。
3. プレーヤー名
プレーヤー名が表示されます。割り当てられたインストゥルメントの名前を Dorico がプレーヤー名に自動的に追加します。必要に応じてプレーヤー名を変更できます。
4. インストゥルメントのアイコンの追加
プレーヤーのインストゥルメントを選択するポップオーバーを開きます。
5. インストゥルメントのリスト
プレーヤーカードを展開すると、そのプレーヤーに割り当てられたすべてのインストゥルメントが表示されます。インストゥルメントの名前にマウスオーバーすると矢印  が表示され、その先のオプションを含むコンテキストメニューが表示されます。

「プレーヤー (Players)」パネルの下部には、以下のオプションが表示されます。

ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)



プロジェクトに個人プレーヤーを追加します。

補足

追加されたソロプレーヤーそれぞれに対して「レイアウト (Layouts)」パネルに Dorico が自動的にパートレイアウトを追加します。

セクションプレーヤーを追加 (Add Section Player)



同じインストゥルメントを演奏する複数の演奏者を示すプレーヤーをプロジェクトに追加します。

補足

追加されたセクションプレーヤーそれぞれに対して「レイアウト (Layouts)」パネルに Dorico が自動的にパートレイアウトを追加します。

アンサンブルを追加 (Add Ensemble)



楽器の基本的な組み合わせを示す複数のプレーヤーをプロジェクトに追加します。

補足

アンサンブルを追加すると、Dorico がアンサンブルの各プレーヤーのパートレイアウトを自動的に「**レイアウト (Layouts)**」パネルに追加します。

グループを追加 (Add Group)



グループをプロジェクトに追加します。グループには、すべてのタイプのプレーヤーを割り当てることができます。

プレーヤーを削除 (Delete Player)



「**プレーヤー (Players)**」パネルから選択したプレーヤーやグループを削除します。

プレーヤーは、レイアウトに表示されるデフォルトの順番でリスト表示されます。レイアウトオプションで個々のレイアウトに対してプレーヤーの順番を変更できます。「**レイアウトオプション (Layout Options)**」ダイアログで、「**プレーヤー (Players)**」カテゴリを選択し、「**カスタムプレーヤー順番 (Custom Player Order)**」セクションで「**カスタマイズしたプレーヤーの順番を使用する (Uses custom player order)**」をオンにしてリスト表示されたプレーヤーの順番を変更します。

関連リンク

[プレーヤー \(61 ページ\)](#)

[レイアウトパネル \(58 ページ\)](#)

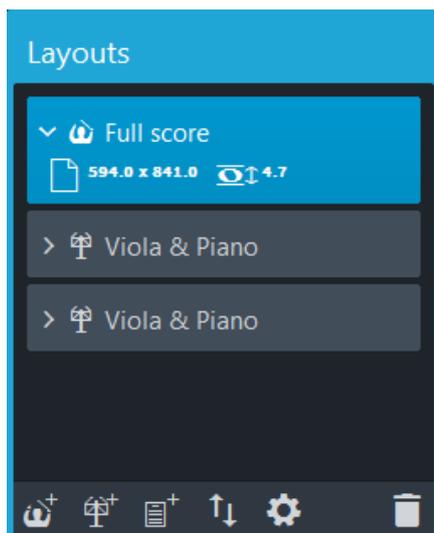
[レイアウトオプション \(76 ページ\)](#)

レイアウトパネル

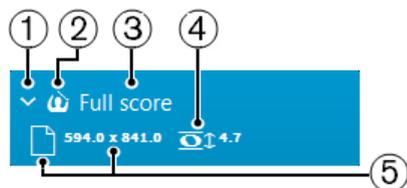
「**レイアウト (Layouts)**」パネルには、すべてのフルスコアレイアウトとパートレイアウトがリスト表示されます。

「**レイアウト (Layouts)**」パネルが表示されない場合、以下のいずれかの操作を行ないます。

- メインウィンドウの右端にある展開矢印マークをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**右のパネルを表示 (Show Right Panel)**」を選択します。



「レイアウト [Layouts]」パネルに、デフォルトのフルスコアレイアウトとプロジェクト用に作成されたすべてのレイアウトがカードとしてリスト表示されます。各レイアウトカードには以下が表示されます。



1. 展開矢印マーク
レイアウトカードを展開したり、または折りたたんだりします。
2. レイアウトのタイプ
レイアウトがフルスコアレイアウト 、パートレイアウト 、カスタムスコアレイアウト  のいずれであるかを表示します。
3. レイアウト名
レイアウト名が表示されます。プレーヤーに割り当てられたインストゥルメントの名前と追加されたレイアウトの種類にしたがって、Dorico が自動的にデフォルト名を追加します。たとえば、プレーヤーにフルートを割り当てると、パートレイアウトは自動的に同じ名前となります。空白のパートレイアウトを追加すると、レイアウト名は「空白のパート譜 (Empty part)」と表示され、複数の空白のパートレイアウトを追加した場合は通し番号が表示されます。
4. 線間の高さ
2つの譜表の線間の高さをポイントで表示します。

補足

線間の高さはレイアウトオプションで変更できます。

5. ページのサイズと向き
レイアウトの幅、高さ、および向き (縦または横) を表示します。

「レイアウト [Layouts]」パネルの下部には以下のオプションが表示されます。

フルスコアレイアウトを追加 (Add Full Score Layout)



プロジェクトにフルスコアレイアウトを追加します。初期設定では、個々のプレイヤーとフローは自動的にレイアウトに含まれます。

パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)



プロジェクトに空白のパートレイアウトを追加します。その後、レイアウトに1人以上のプレイヤーを追加できます。初期設定では、パートレイアウトにはプロジェクトで作成されたすべてのフローが含まれます。

カスタムスコアレイアウトを追加 (Add Custom Score Layout)



プレイヤーやフローが含まれないカスタムスコアレイアウトを追加します。

レイアウトをソート (Sort Layouts)



「**レイアウト (Layouts)**」パネルのすべてのレイアウトを、フルスコアレイアウト、パートレイアウト、カスタムスコアレイアウトの順番に種類別にソートします。

レイアウトオプション



選択した1つ以上のレイアウトの「**レイアウトオプション (Layout Options)**」ダイアログを開きます。

レイアウトを削除 (Delete Layout)



「**レイアウト (Layouts)**」パネルから選択したレイアウトを削除します。

関連リンク

[レイアウト \(74 ページ\)](#)

[レイアウトオプション \(76 ページ\)](#)

フローパネル

「**フロー (Flows)**」パネルに、プロジェクト用に作成されたすべてのフローが表示されません。

「**フロー (Flows)**」パネルが表示されない場合、以下のいずれかの操作を行ないます。

- メインウィンドウの下部にある展開矢印マークをクリックします。
- 「**ウィンドウ (Window)**」 > 「**下部のパネルを表示 (Show Bottom Panel)**」を選択します。



「フロー (Flows)」パネルに、デフォルトのフローとプロジェクト用に作成されたすべてのフローがカードとして表示されます。各フローカードには以下が表示されます。



1. フロー名

フロー名が表示されます。名前を変更せずに複数のフローを作成すると、新規フローを作成するたびに、名前の後ろに通し番号の数字を追加したフロー名が付けられます。また、通し番号は、レイアウト内のフローの位置を示します。

2. フロー番号

フローの通し番号が表示されます。新規フローを作成するたびに通し番号の値が増加します。また、通し番号は、レイアウト内のフローの位置を示します。

「フロー (Flows)」パネルの右側には以下のオプションが表示されます。

フローを追加 (Add Flow)

プロジェクトに新規フローを追加します。初期設定では、すべての新規フローは自動的にすべてのレイアウトに含まれ、個々のプレイヤーは新規フローに追加されます。

記譜オプション (Notation Options)

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログを開きます。各フローの楽譜の記譜法に影響する変更を実施できる複数のオプションが表示されます。

フローを削除 (Delete Flow)

1つ以上の選択されたフローを削除します。

関連リンク

[フロー](#) (72 ページ)

[記譜オプション \(Notation Options\)](#) (107 ページ)

プレイヤー

作曲を始める前に、1つ以上のインストゥルメントを演奏するプレイヤーを指定します。

プレイヤーは、1つ以上のインストゥルメントを1人で演奏するソロプレイヤーの場合もあります。たとえば、クラリネット奏者はアルトサクソフォンも演奏する場合があります。ま

た、プレイヤーは、同じインストゥルメントを複数人で演奏するセクションプレイヤーの場合もあります。バイオリンセクション、合唱のソプラノパートなどの場合もあります。

Dorico では、プレイヤーとインストゥルメントに関するこの知識をもとに、実際のスコアの効率的な作成を手助けします。たとえば、インストゥルメントの持ち替え、分奏 (ディヴィジ)、複数のプレイヤーの楽譜をより少ない数の譜表へ要約するなどの作業が非常に簡単になります。

Dorico でプレイヤーを追加すると、以下のようになります。

- パートレイアウトが作成されます。
- プレイヤーが既存のすべてのフルスコアレイアウトに追加されます。フルスコアレイアウトがない場合は、新規のフルスコアレイアウトが作成されます。
- プレイヤーが既存のすべてのフローに含まれます。

ソロプレイヤーの追加

前提

「プレイヤー (Players)」パネルを開いておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)」をクリックします。



- 「プレイヤー (Players)」パネルの下部の「ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)」 をクリックします。

「プレイヤー (Players)」パネルにインストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーが追加されます。

2. 開いたポップオーバーでインストゥルメントを選択します。
 - 検索フィールドにプレイヤーが演奏するインストゥルメント名の最初の文字を入力し、フィルタリングされたリストからインストゥルメントを選択して、「追加 (Add)」をクリックします。
 - ポップオーバーのリストをスクロールしてインストゥルメントを選択し、「追加 (Add)」をクリックします。
 - コンピューターキーボードの [Tab]/[Shift]+[Tab] と矢印キーを使って、ポップオーバーのリストをスクロールします。インストゥルメントを選択する場合は、[Enter] を押します。

ヒント

ポップオーバーが表示されない場合は、追加したインストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーの右側のプラス記号  をクリックします。または、プレー

ヤーを右クリックして「**インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択します。

結果

ソロプレイヤーの名前として、選択したインストゥルメントの名前が自動的に設定されます。

関連リンク

[プレイヤー名の変更 \(64 ページ\)](#)

[プロジェクト開始領域 \(38 ページ\)](#)

セクションプレイヤーの追加

前提

「**プレイヤー (Players)**」パネルを開いておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。

- 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」をクリックします。



- 「**プレイヤー (Players)**」パネルの下部の「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」をクリックします。

「**プレイヤー (Players)**」パネルにインストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーが追加されます。

2. 開いたポップオーバーでインストゥルメントを選択します。

- 検索フィールドにプレイヤーが演奏するインストゥルメント名の最初の文字を入力し、フィルタリングされたリストからインストゥルメントを選択して、「**追加 (Add)**」をクリックします。
- ポップオーバーのリストをスクロールしてインストゥルメントを選択し、「**追加 (Add)**」をクリックします。
- コンピューターキーボードの [Tab]/[Shift]+[Tab] と矢印キーを使って、ポップオーバーのリストをスクロールします。インストゥルメントを選択する場合は、[Enter] を押します。

ヒント

ポップオーバーが表示されない場合は、追加したインストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーの右側のプラス記号  をクリックします。または、プレイヤーを右クリックして「**インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択します。

結果

選択したインストゥルメントに合わせてセクションプレイヤーに自動的に名前がつけられません。

関連リンク

[プレイヤー名の変更](#) (64 ページ)

[プロジェクト開始領域](#) (38 ページ)

プレイヤーの複製

プレイヤーを複製できます。この方法で同じタイプのプレイヤーを追加します。

手順

1. プレイヤーを右クリックします。
2. コンテキストメニューから、「**プレイヤーを複製 (Duplicate Player)**」を選択します。

結果

元のプレイヤーと同じインストゥルメントを使用する新規プレイヤーが追加されます。元のプレイヤーと新規プレイヤーは、番号付けすることで名前を区別します。

関連リンク

[プレイヤー名の変更](#) (64 ページ)

プレイヤー名の変更

プレイヤー名を変更、または変更したプレイヤー名をデフォルト名にリセットできます。

手順

- プレイヤー名をダブルクリックします。
また、プレイヤー名を右クリックして、コンテキストメニューから「**名前の変更 (Rename)**」を選択することもできます。
 - 新しい名前を入力して、[Enter] を押します。
 - デフォルト名に戻すには、「**デフォルトにリセット (Reset to Default)**」  をクリックします。

プレイヤーのソート

「**プレイヤー (Players)**」パネルで選択したプレイヤーをソートできます。

手順

1. プレイヤーカードをクリックし、マウスボタンを押したままにします。
 2. プレイヤーカードをパネルの任意の位置までドラッグします。
 3. マウスボタンを放してプレイヤーを選択した位置に移動します。
-

プレイヤーの削除

プレイヤーを削除できます。

手順

1. 削除するプレイヤーを選択します。
2. 「**プレイヤーを削除 (Delete Player)**」  をクリックします。
プレイヤーを右クリックして、コンテキストメニューから「**プレイヤーを削除 (Delete Player)**」を選択して削除することもできます。
3. 表示された警告メッセージで、以下のいずれかのオプションをクリックします。
 - **プレイヤーのみを削除 (Delete Player Only)**
プレイヤーと、そのプレイヤーに属するインストゥルメント用に作成した楽譜を削除します。
 - **プレイヤーとパートレイアウトを削除 (Delete Player and Part Layouts)**
プレイヤー、楽譜、プレイヤーが割り当てられているすべてのパートレイアウトを削除します。

補足

削除されたプレイヤー以外のプレイヤーを含むパートレイアウトは削除できません。

フルスコアレイアウトからのプレイヤーの除外

初期設定では、追加したすべてのプレイヤーは既存のフルスコアレイアウトに追加されます。フルスコアレイアウトに表示しないプレイヤーを除外できます。

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、フルスコアレイアウトを選択します。
 2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、除外するプレイヤーのプレイヤーカードのチェックボックスをオフにします。
-

結果

プレイヤーがレイアウトから除外されます。

パートレイアウトへのプレイヤーの追加

既存のパートレイアウトに1人以上のプレイヤーを追加できます。

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、パートレイアウトを選択します。
 2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、追加するプレイヤーのプレイヤーカードのチェックボックスをオンにします。
-

結果

追加されたプレイヤーの名前がレイアウト名に追加されます。

フローからのプレイヤーの除外

新規フローを作成すると、すべてのプレイヤーは自動的にフローに追加されます。フローからプレイヤーを除外できます。

重要

フローからプレイヤーを除外すると、そのフローで該当するプレイヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

手順

1. 「**フロー (Flows)**」パネルでフローを選択します。
 2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、除外するプレイヤーのプレイヤーカードのチェックボックスをオフにします。
-

結果

プレイヤーがフローから除外されます。

アンサンブル

Dorico では、アンサンブルを追加すると、複数のプレイヤーが同時にプロジェクトに追加されます。

Dorico には、複数のアンサンブルがあらかじめ定義されています。アンサンブルの追加は、楽器編成をすばやく作成する方法の1つです。Dorico のあらかじめ定義されたアンサンブルには、フルート2人、オーボエ2人、クラリネット2人、ファゴット2人の二管編成など、基本的なパターンのアンサンブルが含まれています。

アンサンブルの追加

前提

「**プレイヤー (Players)**」パネルを開いておきます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 新規プロジェクトを開始したあと、プロジェクト開始領域の「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」をクリックします。
An orange rectangular button with a white plus sign icon and the text "Add Ensemble".
 - 「**プレイヤー (Players)**」パネルの下部の「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」をクリックします。

2. 開いたポップオーバーで、アンサンブルを選択します。
 - 検索フィールドにアンサンブル名の最初の文字を入力します。フィルタリングされたリストからアンサンブルを選択して、「**スコアにアンサンブルを追加 (Add Ensemble to Score)**」をクリックします。
 - ポップオーバーのリストをスクロールしてアンサンブルを選択し、「**スコアにアンサンブルを追加 (Add Ensemble to Score)**」をクリックします。
 - コンピューターキーボードの [Tab]/[Shift]+[Tab] と矢印キーを使って、ポップオーバーのリストをスクロールします。アンサンブルを選択する場合は、[Enter] を押します。
-

結果

アンサンブルプレーヤーがソロまたはセクションプレーヤーとして「**プレーヤー (Players)**」パネルに追加されます。

関連リンク

[プレーヤー名の変更 \(64 ページ\)](#)

[プロジェクト開始領域 \(38 ページ\)](#)

インストゥルメント

ソロプレーヤー、セクションプレーヤー、およびアンサンブルに対してインストゥルメントを割り当てることができます。

インストゥルメントは実際には人が演奏し、それが Dorico に反映されます。インストゥルメントを割り当てる前に、プレーヤーまたはアンサンブルを追加する必要があります。そのあと、必要に応じてプレーヤーやアンサンブルをグループに割り当てすることもできます。アンサンブルにはインストゥルメントがすでに追加されているため、アンサンブルを追加する場合、初期設定ではインストゥルメントを追加する必要はありません。ただし、アンサンブルにさらにインストゥルメントを追加することもできます。

初期設定の変更およびインストゥルメントの追加や削除は、いつでも行なえます。

インストゥルメントの追加

ソロプレーヤーやセクションプレーヤーにインストゥルメントを追加できます。

前提

ソロプレーヤーまたはセクションプレーヤーを追加しておきます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで以下のいずれかの操作を行ないます。
 - ソロまたはセクションプレーヤーを選択して [Shift]+[I] を押します。
 - 追加したインストゥルメントが関連付けられていないプレーヤーの右側のプラス記号 **+** をクリックします。
 - プレーヤーを右クリックして「**インストゥルメントをプレーヤーに追加 (Add Instrument to Player)**」を選択します。

2. 開いたポップオーバーでインストゥルメントを選択します。
 - 検索フィールドにプレイヤーが演奏するインストゥルメント名の最初の文字を入力し、フィルタリングされたリストからインストゥルメントを選択して、「追加 (Add)」をクリックします。
 - ポップオーバーのリストをスクロールしてインストゥルメントを選択し、「追加 (Add)」をクリックします。
 - コンピューターキーボードの [Tab]/[Shift]+[Tab] と矢印キーを使って、ポップオーバーのリストをスクロールします。インストゥルメントを選択する場合は、[Enter] を押します。
-

結果

選択したインストゥルメントがプレイヤーに追加されます。複数のプレイヤーを選択した場合は、インストゥルメントは「プレイヤー (Players)」パネルの最初のプレイヤーにのみ追加されます。

複数のインストゥルメントの追加

複数のインストゥルメントをソロプレイヤーに追加できます。

前提

インストゥルメントが既に割り当てられたソロプレイヤーを追加するか、複数のソロプレイヤーを含んだアンサンブルを追加しておきます。

手順

1. 「プレイヤー (Players)」パネルで以下のいずれかの操作を行ないます。
 - プレイヤーを選択して、[Shift]+[I] を押します。
 - 追加したインストゥルメントが関連付けられていないプレイヤーの右側のプラス記号 **+** をクリックします。
 - プレイヤーを右クリックして「インストゥルメントをプレイヤーに追加 (Add Instrument to Player)」を選択します。
 2. 開いたポップオーバーでインストゥルメントを選択します。
 - 検索フィールドにプレイヤーが演奏するインストゥルメント名の最初の文字を入力し、フィルタリングされたリストからインストゥルメントを選択して、「追加 (Add)」をクリックします。
 - ポップオーバーのリストをスクロールしてインストゥルメントを選択し、「追加 (Add)」をクリックします。
 - コンピューターキーボードの [Tab]/[Shift]+[Tab] と矢印キーを使って、ポップオーバーのリストをスクロールします。インストゥルメントを選択する場合は、[Enter] を押します。
-

結果

選択したインストゥルメントがプレイヤーに追加されます。

インストゥルメントの削除

プレイヤーからインストゥルメントを削除できます。

重要

プレイヤーからインストゥルメントを削除すると、このインストゥルメント用に作成した楽譜もすべて削除されます。

手順

1. プレイヤー名の左側の展開矢印マークをクリックしてプレイヤーカードを展開します。
 2. インストゥルメントの名前にマウスオーバーし、インストゥルメントの名前の右側にある展開矢印マークをクリックします。
 3. コンテキストメニューで「**インストゥルメントを削除 (Delete Instrument)**」を選択します。
 4. 「OK」をクリックします。
-

結果

インストゥルメントがプレイヤーから削除されます。

グループ

グループは、プレイヤーの集合です。

ほとんどのスコアでは、たとえば合唱、オーケストラ、バンドのような単一のグループが存在します。大規模な演奏部隊の楽譜の場合、複数のグループが存在する場合があります。たとえば、ブリテンの『戦争レクイエム (War Requiem)』には3つの個別のグループがあり、ウォルトンの『ベルシャザールの饗宴 (Belshazzar's Feast)』には2つの個別のオフステージ吹奏楽団が必要です。グループへのプレイヤーの割り当ては、特に、指揮者のスコアに表示するプレイヤーの譜表に適切な括弧とラベルを付けるために必要となる場合があります。

グループの追加

プレイヤーをグループに分けることができます。

前提

「**プレイヤー (Players)**」パネルを開いておきます。

手順

1. 必要に応じて、グループに含めるプレイヤーを選択します。
 2. 「**プレイヤー (Players)**」パネルの下部の「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックします。
-

結果

1人以上のプレーヤーを選択している場合、そのプレーヤーがグループに追加されます。1人もプレーヤーを選択していない場合は、空白のグループが「**プレーヤー (Players)**」パネルに追加されます。

関連リンク

[グループへのプレーヤーまたはアンサンブルの追加 \(70 ページ\)](#)

グループ名の変更

グループ名を変更できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルでグループ名をダブルクリックします。
 2. 新しい名前を入力します。
 3. [Enter] を押します。
-

グループの削除

プレーヤーのグループを削除できます。

補足

グループを削除する場合、そのグループに追加されていたプレーヤーを保持できます。

手順

1. 「**プレーヤー (Players)**」パネルで削除したいグループを選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 「**削除 (Delete)**」をクリックします。 
 - [Del] を押します。
 3. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - プレーヤーを保持する場合は、「**プレーヤーを保持 (Keep Players)**」をクリックします。
 - プレーヤーを含めてグループを削除する場合は、「**プレーヤーを削除 (Delete Players)**」をクリックします。
-

グループへのプレーヤーまたはアンサンブルの追加

既存または新規のプレーヤーやアンサンブルをグループに追加できます。

前提

少なくとも1人のプレーヤー、1つのアンサンブル、または1つのグループを追加しておきます。

手順

- 「**プレイヤー (Players)**」パネルで以下のいずれかの操作を行ないます。
 - プレイヤーまたはアンサンブルを選択し、「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックします。
 - グループを選択し、「**ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)**」、「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」、または「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」を選択します。
-

結果

「**グループを追加 (Add Group)**」をクリックすると、新規グループが選択したプレイヤーに対して追加されます。「**ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)**」、「**セクションプレイヤーを追加 (Add Section Player)**」、または「**アンサンブルを追加 (Add Ensemble)**」をクリックすると、新規プレイヤーまたはアンサンブルが選択したグループに追加されます。

関連リンク

[グループの追加 \(69 ページ\)](#)

[ソロプレイヤーの追加 \(62 ページ\)](#)

[セクションプレイヤーの追加 \(63 ページ\)](#)

プレイヤーのグループ間の移動

1 つのグループから別のグループにプレイヤーを移動できます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、別のグループに移動するプレイヤーを 1 人以上選択します。
 2. 選択したプレイヤーをクリックしてグループまでドラッグし、プレイヤーを追加する位置でマウスを放します。
-

結果

プレイヤーがそのグループに移動します。

グループからのプレイヤーの削除

プレイヤーをグループから削除できます。

手順

1. 「**プレイヤー (Players)**」パネルで、グループから削除するプレイヤーを選択します。
 2. 選択したプレイヤーをクリックしてグループの外側へドラッグし、マウスボタンを放します。
-

フロー

フローは、楽章や歌曲など、プロジェクト内の個別の楽譜の範囲のことです。

各プロジェクトには、フローが少なくとも1つあり、初期設定では、各レイアウトにプロジェクトの各フローの楽譜が含まれます。Dorico で新規フローを作成する場合、以下の操作を行いません。

- 新規フロー用に作成した楽譜はすべて、既存のフルスコアとパートレイアウトに自動的に含まれます。該当するフローカードを無効にすることで、すべてのレイアウトからフローを除外できます。
- すべてのプレイヤーが新規フローに追加されます。該当するプレイヤーカードを無効にすることでフローからプレイヤーを除外できます。

重要

フローからプレイヤーを除外すると、そのフローで該当するプレイヤーに対してすでに入力した音符は削除されます。

関連リンク

[フロー](#) (29 ページ)

[フローパネル](#) (60 ページ)

フローの作成

プロジェクトでフローが2つ以上必要な場合、新規フローを作成できます。

手順

- 「**フロー (Flows)**」パネルで、「**フローを追加 (Add Flow)**」  をクリックします。
-

結果

すべての既存のプレイヤーが新規フローに割り当てられます。新規フローは、すべての既存のフルスコアとパートレイアウトに自動的に追加されます。

フロー名の変更

フロー名を変更できます。

プロジェクトにフローを追加する場合、初期設定では「**フロー (Flow)**」に通し番号が付いたフロー名となります。フロー名は変更できます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行いません。
 - フロー名をダブルクリックします。
 - フロー名を右クリックして、コンテキストメニューから「**名前の変更 (Rename)**」を選択します。
2. 新しい名前を入力します。

3. [Enter] を押します。
-

フローの削除

使用しなくなったフローを削除できます。

重要

フローを削除すると、そのフローのすべてのプレーヤーに属するすべてのインストゥルメントに関連する楽譜もすべて削除されます。

手順

1. 「フロー (Flows)」パネルで1つ以上のフローを選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 「フローを削除 (Delete Flow)」をクリックします。
 - [Del] を押します。
 - フローを右クリックして「フローを削除 (Delete Flow)」を選択します。
-

レイアウトからのフローの除外

初期設定では、作成されたすべてのフローは既存のフルスコアレイアウトかパートレイアウトに追加されます。レイアウトに表示しないフローを除外できます。

手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、レイアウトを選択します。
 2. 「フロー (Flows)」パネルで、除外するフローのフローカードのチェックボックスをオフにします。
-

結果

フローがレイアウトから除外されます。

フローに対応する記譜オプションの変更

1つまたは複数のフローに対応する記譜オプションを変更できます。

手順

1. 必要に応じて、「フロー (Flows)」パネルで、1つのフローまたはすべてのフローを選択します。
2. 「記譜オプション (Notation Options)」をクリックします。
3. 必要に応じて、「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログで、フローの選択を変更できます。以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 「フロー (Flows)」のリストから1つまたは複数のフローを選択します。
 - 「すべて選択 (Select All)」をクリックします。

4. 「**カテゴリを選択 (Select a Category)**」ポップアップメニューから、カテゴリを選択します。
 5. 右側の領域で変更を行いません。
 6. 「**適用 (Apply)**」をクリックします。
-

レイアウト

レイアウトでは、フローの楽譜の表示方法を定義します。

Dorico には、3 種類のレイアウトがあります。

- **フルスコア**
フルスコアのレイアウトには、初期設定でプロジェクトのすべてのプレーヤーとすべてのフローが含まれます。不要なプレーヤーとフローは削除できます。
- **パート**
プレーヤーをプロジェクトに追加すると、パートレイアウトが自動的に作成されます。パートレイアウトにプレーヤーをさらに追加できます。また、空白のパートレイアウトを作成してプレーヤーを追加できます。初期設定では、パートレイアウトにはすべてのフローが含まれます。不要なフローは除外できます。
- **カスタムスコア**
カスタムスコアレイアウトには、はじめ、プレーヤーやフローが含まれていません。このため、スコアを手動で作成したり、たとえばすべてのフローを含むのではなく、フローを1つだけ含むレイアウトを追加したりできます。

関連リンク

[レイアウトからのフローの除外 \(73 ページ\)](#)

[フルスコアレイアウトからのプレーヤーの除外 \(65 ページ\)](#)

レイアウトの作成

フルスコアレイアウトとパートレイアウトを複数作成できます。複数のカスタムスコアレイアウトも作成できます。

手順

- 「**レイアウト (Layouts)**」パネルの下部で、以下のレイアウトのタイプから1つを選択します。
 - **フルスコアレイアウトを追加 (Add Full Score Layout)** 
 - **パートレイアウトを追加 (Add Instrumental Part Layout)** 
 - **カスタムスコアレイアウトを追加 (Add Custom Score Layout)** 

結果

「**レイアウト (Layouts)**」パネルのレイアウトのリストにレイアウトが追加されます。

タスク終了後の項目

レイアウトにプレーヤーやフローを割り当てることができます。

レイアウト名の変更

レイアウト名を変更できます。

パートレイアウトをプロジェクトに追加すると、デフォルト名は「空白のパート譜 (Empty part)」となります。フルスコアとカスタムスコアレイアウトのデフォルト名は、「フルスコア (Full score)」と「カスタムスコア (Custom score)」です。複数のレイアウトを追加する場合は、デフォルト名に通し番号が追加されます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - レイアウト名をダブルクリックします。
 - レイアウト名を右クリックして、コンテキストメニューから「名前の変更 (Rename)」を選択します。
 2. 新しい名前を入力します。
 3. [Enter] を押します。
-

レイアウトの切り替え

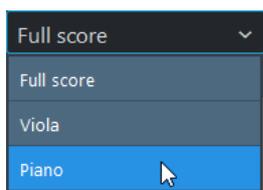
複数のレイアウトを作成した場合、モードごとにレイアウトを切り替えることができます。

補足

レイアウトは、プレーヤーが割り当てられているレイアウト間でのみ切り替えることができます。

手順

- ツールバー中央のワークスペースコントロールから「レイアウトの選択 (Select Layout)」をクリックしてレイアウトを選択します。



結果

選択したレイアウトが楽曲領域に表示されます。

レイアウトのソート

「レイアウト (Layouts)」パネルで選択したレイアウトをソートできます。

手順

1. レイアウトカードをクリックし、マウスボタンを押したままにします。
2. レイアウトカードをパネルの別の位置までドラッグします。

3. マウスボタンを放します。

結果

選択した位置にレイアウトが移動します。

レイアウトの削除

「レイアウト (Layouts)」パネルのレイアウトのリストからレイアウトを削除できます。

手順

1. 削除するレイアウトを選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 「レイアウトを削除 (Delete Layout)」  をクリックします。
 - [Del] を押します。
 3. レイアウトを右クリックして「レイアウトを削除 (Delete Layout)」を選択します。
-

レイアウトオプション

「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログを開きます。各レイアウトのページに配置された記譜法に影響する変更を実施できる複数のオプションを表示します。

ページサイズ、譜表サイズ、余白などのレイアウトの特性と、音符のスペーシングや譜表のラベルなどの記譜法を変更できます。

補足

- プロジェクトのすべてのレイアウトに影響する全体的な変更は、浄書のオプションからも実施できます。
 - 「デフォルトとして保存 (Save as defaults for)」を有効にし、レイアウトタイプを選択することで、レイアウトオプションで設定するすべてのオプションを新規プロジェクトのデフォルト値として保存できます。
-

「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- パネルの一番下の「レイアウトオプション (Layout Options)」  をクリックします。
- フルスコアのレイアウトオプションを指定するには、「設定 (Setup)」 > 「すべてのスコアのレイアウトオプション (All Score Layout Options)」を選択します。または、「レイアウト (Layouts)」パネルでフルスコアを選択し、右クリックして、コンテキストメニューから「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択できます。
- すべてのパートのレイアウトオプションを指定するには、「設定 (Setup)」 > 「すべてのパートのレイアウトオプション (All Part Layout Options)」を選択します。または、「レイアウト (Layouts)」パネルですべてのパートを [Ctrl]/[command] を押しながらかlickして選択し、右クリックで表示されたコンテキストメニューから「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択できます。

- 各パートのレイアウトオプションを指定するには、「設定 (Setup)」モードで「レイアウト (Layouts)」パネルのパートを選択して右クリックして、コンテキストメニューから「レイアウトオプション (Layout Options)」を選択できます。

Select a Category: Page Setup

Layouts:

- Full score
- Viola
- Piano

Page Size

Size: A4

Width: 594 points

Height: 841 points

Orientation: Portrait Landscape

Space Size

Space size: 5,00 pt

(20.00pt staff = 7.06mm staff)

Master Page

Master page set: Default Full Score

Page Margins

Save as defaults for: Full Scores Parts Custom Scores

Close Apply

レイアウトオプション

「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログには、カテゴリを選択できるポップアップメニューが表示されます。個々のカテゴリにはオプションを指定するためのサブカテゴリがあり、右側の領域に表示されます。カテゴリのリストの「レイアウト (Layouts)」セクションには、プロジェクトで使用できるすべてのレイアウトがリスト表示されます。

変更するレイアウトを指定していない場合、「レイアウト (Layouts)」リストと、「レイアウト (Layouts)」リストの下部にあるその他のオプションから、単一、複数、レイアウトのグループ、またはすべてのレイアウトを選択できます。コンピューターキーボードのキーを使用してレイアウトを選択することもできます。

- 個々のレイアウトを選択するには、リストのレイアウトを [Ctrl]/[command] を押しながらかlickして選択します。
- すべてのレイアウトを選択するには、リストの最初と最後のレイアウトを [Shift] を押しながらかlickして選択します。

関連リンク

[浄書オプション \(142 ページ\)](#)

ページ設定 (Page Setup)

レイアウトオプションの「**ページ設定 (Page Setup)**」カテゴリで、ページ上の記譜記号の配置方法を設定する基本的なページプロパティを決定できます。

小節番号 (Bar Numbers)

レイアウトオプションの「**小節番号 (Bar Numbers)**」カテゴリで、各レイアウトの小節番号の表示方法と配置を決定できます。

音符のスペーシング (Note Spacing)

レイアウトオプションの「**音符のスペーシング (Note Spacing)**」カテゴリで、譜表の音符の整列方法を設定するオプションを決定できます。

ヒント

初期設定で、フローの最後の組段の両端揃えをパーセンテージの値で指定する設定が有効になっています。これを無効にするには、「**フローの最後の組段に両端揃えを適用 (Only justify final system in flow when more than)**」を無効にします。

プレイヤー (Players)

レイアウトオプションの「**プレイヤー (Players)**」カテゴリで、個々のプレイヤーの楽譜の表示方法を設定するオプションを決定できます。

垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)

レイアウトオプションの「**垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)**」カテゴリで、譜表と組段の距離を設定できます。

音符の入力で最も一般的に使用される音符のタイプ、臨時記号、スラー、アーティキュレーションを表示します。

3. プロパティパネル

記譜記号に特定の変更を加える際に必要なクイックアクセスプロパティを表示します。

4. 記譜パネル

楽譜に使用するすべての記譜項目を表示します。

5. 記譜ツールボックス

記譜ツールボックスで選択するツールによって、記譜パネルに表示される記譜項目が変わります。

音符ツールボックス

音符ツールボックスのツールを使用して、音符の入力を変更できます。

付点音符 (Dotted Notes)



音符や和音の付点を追加/削除します。

休符 (Rests)



音符パネルで選択するデュレーションの休符を入力できます。

和音 (Chords)



同じ位置に複数の音符を追加して、和音を作成できます。この機能を使用すると、音符の入力後にカーレットが自動的に停止します。

連符 (Tuplets)



指定された位置に、3連符の角括弧と対応する数の休符を挿入します。装飾付き音符には、角括弧は使用されません。別の連符を使用するには、コンピューターキーボードで該当するキーボードショートカットを押します。

装飾音符 (Grace Notes)



現在の位置に装飾音符を入力できます。

挿入 (Insert)



楽譜を上書きせずに挿入します。

デュレーションをロック (Lock to Duration)



MIDI またはコンピューターキーボードからの音符入力に、既存の楽譜のデュレーションを使用します。このツールは、音符のデュレーションを維持しながら、ピッチを変える場合に役立ちます。

デュレーションを強制 (Force Duration)



常に、音符パネルで指定した明示的なデュレーションを作成します。たとえば、「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにすると、初期設定で Dorico がタイで結ばれた音符を分割し、4/4 の 2 つめの 4 分音符の拍に、付点 4 分音符を強制的に入力します。

重要

拍子記号を変更したり、楽譜にその他の編集を加えたりすると、予期しない結果を招くことがあります。

入力中に「デュレーションを強制 (Force Duration)」をオンにした場合、影響を受ける楽譜の部分を選択し、「編集 (Edit)」 > 「表示をリセット (Reset Appearance)」を選択することで、Dorico で楽譜を記譜する際の制限をなくすことができます。

タイ (Tie)



入力する音符を同じピッチの前の音符とつなげます。音符を編集するときは、このツールを使用して、異なる声部の音符をつなげたり、装飾音符をリズムを持つ音符につなげたりすることができます。

「タイ (Tie)」のオン/オフを切り替えるには、[T] を押します。

選択 (Select)



マウス入力を有効化/無効化します。

関連リンク

[付点の有効化](#) (94 ページ)

[休符 \(Rests\)](#) (91 ページ)

[和音の入力](#) (91 ページ)

[連符の追加](#) (95 ページ)

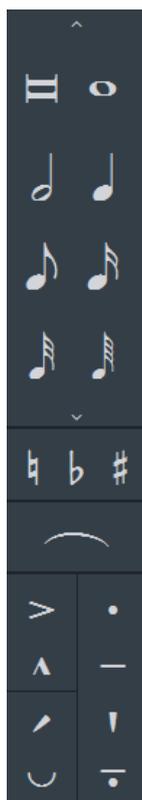
[装飾音符の入力](#) (96 ページ)

[マウス入力の有効化/無効化](#) (87 ページ)

音符パネル

音符パネルには、音符の入力に使用するデュレーション、臨時記号、スラー、アーティキュレーションが表示されます。

音符パネルの表示/非表示を切り替えるには、音符ツールボックスの下にある展開矢印マーク   をクリックします。



音符パネル上部には、さまざまなデュレーションの音符が表示されます。一部のデュレーションの音符は、初期設定では表示されません。すべてのデュレーションの音符を表示するには、音符のデュレーションリストの上下にある「**すべての音符を表示/非表示 (Show/Hide All Notes)**」   をクリックします。

音符パネル中央部では、臨時記号とスラーを有効化できます。

音符パネル下部では、アーティキュレーションを有効化できます。

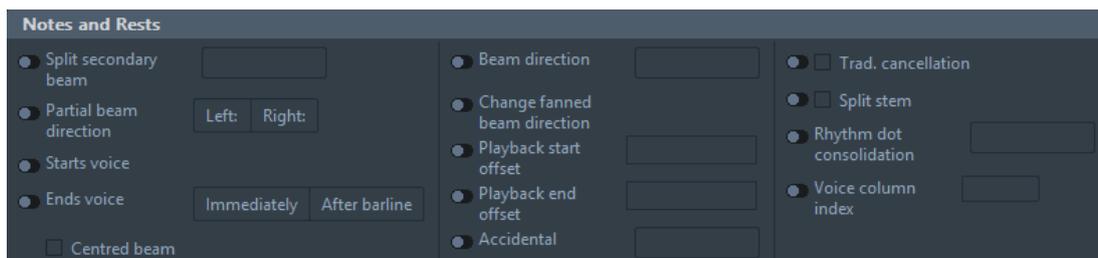
プロパティパネル

記譜モードのプロパティパネルには、音符の入力中に音符と記譜記号を変更できるクイックアクセスプロパティが表示されます。

補足

タイでつながれた音符の曲線部分など、記譜記号の一部を変更する必要がある場合、**浄書モード**に切り替えます。

プロパティパネルの表示/非表示を切り替えるには、音符ツールボックスの下にある展開矢印マーク   をクリックします。



記譜モードのプロパティパネルの音符と休符セクション

関連リンク

[記譜モードにおける個別のアイテムのプロパティの変更 \(109 ページ\)](#)

記譜パネル

記譜パネルには、楽譜に使用する記譜項目が含まれます。

記譜ツールボックスで選択するツールによって、記譜パネルで使用できる記譜記号の選択肢が変わります。

記譜パネルの表示/非表示を切り替えるには、記譜ツールボックス下にある展開矢印マークをクリックします。

記譜ツールボックス

記譜ツールボックスのツールを使用すると、記譜パネルに表示される記譜項目を決定できます。

音部記号 (Clefs)



さまざまな音部記号とオクターブ線を選択するためのセクションを記譜パネルに表示します。

調号、チューニングシステム、臨時記号 (Key Signatures, Tuning Systems, and Accidentals)



調号の指定や選択、チューニングシステムや臨時記号を選択するためのセクションを記譜パネルに表示します。

拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))



さまざまな拍子記号を指定および選択するためのセクションを記譜パネルに表示します。

テンポ (Tempo)



さまざまなテンポやテンポの変更を指定および選択するためのセクションを記譜パネルに表示します。

強弱記号 (Dynamics)



さまざまな強弱記号を指定および選択するためのセクションを記譜パネルに表示します。

装飾音 (Ornaments)



さまざまな装飾音とグリッサンドラインを選択するためのセクションを記譜パネルに表示します。

トレモロ (Tremolos)



さまざまな単音および重音のトレモロを選択および削除するためのセクションを記譜パネルに表示します。

小節と小節線 (Bars and Barlines)



小節を挿入したり、小節線を引くためのセクションを記譜パネルに表示したりします。

延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)



さまざまなタイプのフェルマータ、ブレス記号、中間休止記号を挿入するためのセクションを記譜パネルに表示します。

演奏技法 (Playing Techniques)



さまざまなインストゥルメントグループの演奏技法を挿入するためのセクションを記譜パネルに表示します。

リハーサルマーク (Rehearsal Marks)



選択した音符の位置にリハーサルマークを挿入します。

テキスト (Text)



選択した位置にテキストを挿入するためのポップオーバーを表示します。

歌詞 (Lyrics)



譜表で選択した音符の上に、歌詞を入力するためのポップオーバーを表示します。

関連リンク

[歌詞 \(100 ページ\)](#)

音符の入力

音符を入力する方法は複数あります。

以下のいずれかの方法で音符を入力できます。入力方法はいつでも切り替えることができます。

- MIDI キーボード
- コンピューターキーボード
- マウスまたはトラックパッド

ヒント

MIDI キーボードを使用すると、最も早く音符を入力できます。

この章では、アクティブな音符の入力手順について説明します。音符の編集や、音符の入力に影響するオプションに関する情報は、音符の入力について説明している項に記載されています。ただし、一部の編集処理に関するヒントが、この章に記載されている場合があります。

入力および編集について

Dorico では、楽譜の入力と編集が区別されています。

キュレットが表示されていれば、楽譜を新たに入力していることとなります。キュレットが表示されていない場合は、楽譜を編集していることとなります。

入力と編集は、交互に切り替えることができます。

少し時間を取って、キュレットが表示されている場合と表示されていない場合の Dorico の動作の違いを理解しておくことをおすすめします。キュレットが表示されていない場合、すべての編集機能が楽譜領域で選択したアイテムに対して実行されます。

楽譜の入力と編集の違い

音符を入力しているのか、または編集しているのかによって、ツールボックスやパネル内のツールの機能が変化します。

音符を入力するには、キュレットを有効にする必要があります。

キュレットが有効になっている場合、音符ツールボックスや音符パネルで選択したツールやアイテムが入力しようとしている音符または和音に作用し、デュレーション、付点、臨時記号、アーティキュレーションが適用されます。そのあと、スコアへ音符をクリックして入力するか、コンピューターキーボードで音符の文字名を押して入力するか、MIDI キーボードで音符または和音を演奏して、ピッチを指定します。

楽譜領域で音符や和音が選択されていない場合、キーボードショートカットかマウスで音符パネルからデュレーションを選択すると、マウス入力が無効になります。楽譜上でマウスポインターを移動すると、シャドウ音符が入力する位置に表示され、クリックすると実際に音符が入力されます。

音符を編集するには、楽譜領域で 1 つ以上のアイテムを選択する必要があります。楽譜領域で 1 つ以上の音符または和音が選択されている場合、音符ツールボックスや音符パネルの機

能は選択されている音符や和音に作用します。キーボードショートカットかマウスを使って音符パネルから新しいデュレーションを選択すると、選択されている音符や和音のデュレーションは、すべて選択したデュレーションに一致するよう編集されます。

関連リンク

[キャレット](#) (88 ページ)

新しいアイテムの配置

新しいアイテムの入力位置は、楽譜を入力しているのか、編集しているのかによって異なります。

楽譜を入力しており、キャレットが有効になっている場合、Dorico では、すべての音符や記譜記号がキャレットの位置に作成されます。

楽譜を編集しており、楽譜領域で 1 つまたは複数の音符や和音が選択されている場合、Dorico では、新しいアイテムは楽譜領域で最初に選択されたアイテムの位置に作成されます。アイテムが選択されていない場合は、マウスポインターに新しいアイテムが付随し、クリックした位置にアイテムが作成されます。

例

選択した音符の前に拍子記号を追加する

特定の音符の前に 3/4 拍子記号を追加するには、音符を選択して [Shift]+[M] を押すか、3/4 と入力して [Enter] を押します。音符が選択されていない場合、記譜ツールボックスで「**拍子記号 (拍子)** (Time Signatures (Meter))」を選択します。次に、「**一般 (Common)**」セクションで「3/4」を選択し、マウスポインターを拍子記号を挿入する位置に移動して、クリックします。

音符や記譜記号の選択/選択解除

ツールボックスやパネルで音符や記譜記号を選択した状態、または選択を解除した状態で、楽譜を編集できます。

ツールボックスで音符や記譜記号を選択すると、楽譜領域の選択した位置に音符や記譜記号が挿入されます。記譜パネルで記譜記号をクリックし、記譜記号を譜表に配置することもできます。

楽譜領域で音符や記譜記号を選択するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符または記譜記号をクリックします。
- 複数の音符または記譜記号の周囲をドラッグして、範囲選択します。

すべてのアイテムの選択を解除するには、楽譜領域内の譜表の外側をクリックするか、[Ctrl]/[command]+[D] を押します。

関連リンク

[複数の音符と記譜記号の選択](#) (43 ページ)

音符の入力の開始

Dorico では、音符の入力を開始する方法が複数あります。

補足

ピッチを指定する前に、デュレーション、臨時記号、アーティキュレーションを指定する必要があります。このことは、すべての入力方法に当てはまります。

以下のいずれかの方法で、音符の入力を開始できます。

- 音符の入力を開始する譜表の位置をダブルクリックします。
- 音符の入力を開始する譜表の位置で、音符、和音、休符、またはその他のアイテムを選択し、[Shift]+[N] または [Return] を押します。
- 何も選択されていない場合、またはカーレットがすでに表示されている場合、音符パネルで音符のデュレーションを選択するか、またはそのキーボードショートカットを押します。この操作により、マウスポインターに選択したデュレーションが付随します。音符のデュレーションを挿入する譜表の位置とピッチでクリックします。

関連リンク

[カーレット \(88 ページ\)](#)

[Dorico のキーボードショートカット \(6 ページ\)](#)

マウス入力の有効化/無効化

マウス入力を有効化/無効化できます。

手順

- 音符ツールボックスで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - マウス入力を有効にするには、「**選択 (Select)**」  をオフにします。
 - マウス入力を無効にするには、「**選択 (Select)**」  をオンにします。
-

すべてのプロジェクトに対するマウス入力の有効化/無効化

すべてのプロジェクトに対して、マウス入力を有効化/無効化できます。この操作により、初期設定が変更されます。初期設定を変更した場合も、個々のセッションに対するマウス入力を有効化/無効化できます。

手順

1. 「**編集 (Edit)**」 > 「**環境設定 (Preferences)**」をクリックします。
 2. 「**環境設定 (Preferences)**」ダイアログで、「**全般 (General)**」セクションを選択します。
 3. 「**マウスを使用した音符入力を有効にする (Enable note input using the mouse)**」をオン/オフにします。
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックします。
-

キャレット

キャレットは、音符、和音、または記譜項目を入力できる位置を示します。

キャレットとは、一般的に、入力したテキストの校正に使用されるマークのことで、欠けている文字や文字列などを挿入または追加する位置を示します。「不足がある」または「欠落がある」という意味のラテン語で、「carere」(欠いている)という動詞が語源です。ソフトウェアでは、キャレットは挿入位置を示します。挿入ポイントやカーソルとも呼ばれます。

Dorico では、キャレットは譜表の上から下へと伸びる縦線として表示されます。音符を入力している場合、キャレットは自動的に次の位置に進みます。和音を入力している場合は、キャレットは自動的に移動しないため、手動で次の位置に移動させる必要があります。

以下の機能を使用すると、キャレットの表示が次のように変化します。

挿入 (Insert)

キャレットの上に V 字、下に逆向きの V 字が表示されます。

和音 (Chords)

キャレットの左上にプラス記号が表示されます。

デュレーションをロック (Lock to Duration)

キャレットの線が破線で表示されます。

装飾音符 (Grace Notes)

キャレットが元のサイズより小さく表示されます。

声部 (Voices)

キャレットの左下にプラス記号、入力しようとしている声部の数、入力する音符が上向きまたは下向きになるかが表示されます。

キャレットの有効化/無効化

キャレットを有効にすると、楽譜を書くことができます。キャレットを無効にすると、楽譜を編集できません。

キャレットは、以下のいずれかの方法で有効にできます。

- 音符または休符を選択して、[Shift]+[N] または [Return] を押します。
- 音符の入力を開始する譜表の位置をダブルクリックします。

キャレットは、以下のいずれかの方法で無効にできます。

- [Esc] を押します。
- 楽譜領域内の譜表の外側をダブルクリックします。

手動でのキャレットの移動

和音を入力しているとき、キャレットは自動的に移動しません。そのため、キャレットを手動で移動する必要があります。

キャレットは、以下のいずれかの方法で移動できます。

- [←] と [→] キーを使用して、カーレットを次または前の位置に移動します。[Ctrl]/[command] を押しながら矢印キーを使用すると、カーレットを次または前の小節に移動できます。
- [↑] と [↓] キーを使用して、カーレットを上 の譜表または下の譜表に移動します。[Ctrl]/[command] を押しながら矢印キーを使用すると、カーレットを組段の一番上または一番下の譜表に移動できます。

関連リンク

[和音の入力](#) (91 ページ)

リズムグリッド

リズムグリッドは、カーレットが配置される小節のリズムの区切りとさらに細分化した区切りを示します。



8 分音符のリズムグリッド

リズムグリッドは、カーレットが表示されている譜表の上に表示されます。長い線は拍の区切りを意味し、短い線は拍を細分化した区切りを示します。

リズムグリッドは、以下を識別するのに役立ちます。

- カーレットまたはマウス使用時の正確な入力位置
- カーレットの移動する幅
- 音符または音符の選択のデュレーションの変更量

関連リンク

[カーレット](#) (88 ページ)

[手動でのカーレットの移動](#) (88 ページ)

リズムグリッドの間隔の変更

リズムグリッドの間隔を変更できます。

デフォルトのグリッドの間隔は、8 分音符に設定されています。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - グリッドの間隔を広くするには、「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「グリッドの間隔を狭める (Decrease Grid Resolution)」を選択するか、該当するキーボードショートカットを押します。
 - グリッドの間隔を狭くするには、「記譜 (Write)」 > 「リズムグリッド (Rhythmic Grid)」 > 「グリッドの間隔を広げる (Increase Grid Resolution)」を選択するか、該当するキーボードショートカットを押します。

または、以下のいずれかの操作でも実行できます。

- ステータスバーの「**リズムグリッドの間隔 (Rhythmic Grid Resolution)**」セクターからグリッドの間隔を選択します。
 - 「**記譜 (Write)**」 > 「**リズムグリッド (Rhythmic Grid)**」を選択して、拍の区切りを選択します。
-

関連リンク

[ステータスバー \(42 ページ\)](#)

音符の入力

音符を入力する際は、ピッチを指定する前にデュレーションを設定する必要があります。必要に応じて、ピッチを指定する前に、臨時記号やアーティキュレーションも追加できます。

手順

1. 音符の入力を開始する方法を選択します。
 2. 音符パネルからデュレーションを選択します。
 3. 必要に応じて、付点を有効にします。
 4. 必要に応じて、臨時記号を追加します。
 5. 必要に応じて、アーティキュレーションを追加します。
 6. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - MIDI キーボードでピッチを入力します。
 - コンピューターキーボードで、ピッチのキーボードショートカット ([A]、[B]、[C]、[D]、[E]、[F]、[G]) を 1 つ押します。
 - 音符を挿入する譜表の位置とピッチでクリックします。
-

関連リンク

[音符の入力の開始 \(87 ページ\)](#)

[デュレーションの選択 \(93 ページ\)](#)

[休符 \(Rests\) \(91 ページ\)](#)

[付点の有効化 \(94 ページ\)](#)

[臨時記号の追加 \(94 ページ\)](#)

[アーティキュレーションの追加 \(95 ページ\)](#)

複数のインストゥルメントのプレーヤー用の音符の入力

複数のインストゥルメントを演奏するプレーヤー用の音符は、デフォルトの音符入力に適用されるルールに従って入力します。ギャラリービューで音符の入力を開始すると、さまざまなインストゥルメント用に入力した音符を確認できます。

前提

少なくとも 2 つのインストゥルメントを演奏するソロプレーヤーを追加しておきます。

手順

1. ステータスバーのビューセクターで、「**ギャレービュー (Galley view)**」を選択します。
 2. すべてのインストゥルメントに対して、音符を順に入力します。
-

関連リンク

[ビュータイプ \(44 ページ\)](#)

和音の入力

補足

和音を入力している場合は、キャラットを手動で進める必要があります。

手順

1. 和音の入力をアクティブにするには、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - **[Q]** を押します。
 - 音符ツールボックスで、「**和音 (Chords)**」 をオンにします。
 2. 和音を入力します。
 3. キャラットを次の音符位置に進めます。
 4. 必要に応じて、**[Q]** を押すか、「**和音 (Chords)**」をオフにして、和音の入力を無効にします。
-

関連リンク

[手動でのキャラットの移動 \(88 ページ\)](#)

休符 (Rests)

Dorico では、複数の方法で休符を入力できます。

以下のオプションが表示されます。

- 音符の入力時に、**[Space]** または **[→]** を押します。このキーボードショートカットにより、キャラットが移動し、音符間のすべての間隔に自動的に休符が挿入されます。音符パネルでさまざまなデュレーションを選択できます。
- 音符ツールボックスで「**休符 (Rests)**」 をオンにする、または **[,]** (コンマ) を押すと、音符ではなく、休符のみがスコアに入力されます。Dorico は、選択した拍子記号に応じて、自動的にどの休符が適切かを識別します。
- 音符ツールボックスで「**休符 (Rests)**」 と「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」 をオンにする、または **[,]** (コンマ) と **[0]** を押すと、音符パネルで選択したデュレーションの休符のみがスコアに入力されます。

休符ツールを使用した休符の入力

休符ツールを有効にしていると、休符のみを入力できます。

手順

1. 音符ツールボックスで、「**休符 (Rests)**」をオンにします。
 2. 必要に応じて、音符パネルでデュレーションを選択します。
 3. 下のいずれかの操作を行なって、休符を入力します。
 - MIDI キーボードで音符を演奏します。
 - コンピューターキーボードで [A] から [G] のいずれかのキーを押します。
-

結果

選択したデュレーションの休符がスコアに追加されます。複数の休符を追加すると、Dorico は、複数の休符を、入力されている音符と組み合わせて適切な長さになるように、異なるデュレーションの 1 つの休符として自動的にまとめます。

指定したデュレーションの休符の入力

Dorico では、強制的に指定したデュレーションの休符を入力できます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符ツールボックスで、「**休符 (Rests)**」と「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」をオンにします。
 - [,] (コンマ) と [0] を押します。
 2. 音符パネルでデュレーションを選択します。
 3. MIDI キーボードまたはコンピューターキーボードで任意のキーを押します。
-

結果

選択したデュレーションの休符がスコアに入力されます。

声部 (Voices)

Dorico では、複数の声部を入力できます。

初期設定では、1 つのインストゥルメントの各譜表は、単一の声部のみを使用しますが、必要に応じて声部を増やすことができます。

同じ譜表に複数の声部が存在する場合、各声部に対して、音符の符尾の方向を決定する、名目の符尾の方向が設定されています。初期設定では、各インストゥルメントの各譜表に対して作成される声部は、符尾が上向きです。新しい声部を開始する場合は、符尾を上向きにするか下向きにするかを選択できます。

譜表のいずれかの場所に声部を作成すると、同じ譜表上の別の任意の場所に、その声部の音符を入力できます。

新しい声部の入力

複数の声部をスコアに入力できます。

前提

音符の入力を開始し、カーレットを有効にしておきます。

手順

1. 声部の入力を開始する位置に、カーレットを移動します。
 2. [Shift]+[V] を押します。
カーレットにプラス記号が表示され、特定の方向の符尾が付いた音符が表示されます。すでに2つの声部を入力している場合、カーレットに、次に入力する声部を示す番号が追加表示されます。
 3. 必要に応じて、再度 [Shift]+[V] を押して、声部の符尾の方向を変更します。
 4. 声部に音符を入力します。
-

既存の声部の再利用

既存の声部を再利用して、音符を変更したり、入力したりできます。

前提

音符の入力を開始し、カーレットを有効にしておきます。

手順

1. 既存の声部への入力を開始する位置に、カーレットを移動します。
2. [V] を押して、既存の声部の番号を順に表示します。
カーレットに上向きまたは下向きの音符が表示されます。複数の声部を作成している場合は、さらに数字が表示されます。
3. 声部に音符を入力します。

重要

声部の既存の音符は上書きされます。

デュレーションの選択

音符パネルから、または割り当て済みのキーボードショートカットの1つを使って、デュレーションを選択します。

前提

リストに表示するデュレーションの範囲を変更するには、音符リストの上下にある「**すべての音符を表示/非表示 (Show/Hide All Notes)**」  /  をクリックします。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。

- 音符パネルでデュレーションの1つをオンにします。
 - 該当するキーボードショートカットの1つを押します。
-

関連リンク

[音符パネル](#) (81 ページ)

[Dorico のキーボードショートカット](#) (6 ページ)

選択した音符のデュレーションの変更

選択した音符のデュレーションを短縮または延長できます。

手順

1. 1つまたは複数の音符を選択します。
2. 音符パネルで別のデュレーションをオンにするか、該当するキーボードショートカットを押します。

補足

または、[Shift]+[Alt]+[←]/[→] を押して、リズムグリッドの間隔によって決定される分量に基づき、音符を短くしたり、長くしたりできます。グリッドの間隔を変更する場合は、以下のいずれかの操作を行ないます。

- ステータスバーの「**リズムグリッドの間隔 (Rhythmic Grid Resolution)**」セレクターからグリッドの間隔を選択します。
 - 「**記譜 (Write)**」 > 「**リズムグリッド (Rhythmic Grid)**」を選択し、グリッドの間隔を選択します。
-

付点の有効化

付点音符ツールを使用すると、付点を音符に追加できます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - [.] (ドット) を押します。
 - 音符ツールボックスで、「**付点音符 (Dotted Notes)**」  をオンにします。

補足

このツールは、別の音符のデュレーションを選択する、またはツールをオフにするまで、有効な状態のままとなります。

2. 必要に応じて、[Alt]+[.] (ドット) を押して、入力する付点の数を増やします。
-

臨時記号の追加

音符入力中に、基本的な臨時記号を個々の音符に追加できます。

手順

1. 臨時記号を追加するには、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符パネルで、「ナチュラル (Natural)」、「フラット (Flat)」、「シャープ (Sharp)」をクリックします。
 - 記譜モードで、コンピューターキーボードを使って該当するキーボードショートカットを押します。
 2. 音符を入力します。
-

関連リンク

[Dorico のキーボードショートカット \(6 ページ\)](#)

アーティキュレーションの追加

音符入力中に、アーティキュレーションを音符または和音に追加できます。

手順

1. アーティキュレーションを追加するには、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - キーボードを使って、音の長さ (デュレーション) の該当するキーボードショートカットを押します。
 - 音符パネルで、アーティキュレーションボタンのいずれかをオンにします。

重要

アーティキュレーション (デュレーション) とアーティキュレーション (強弱) を同じ音符または和音に追加できます。同じタイプの 2 つめのアーティキュレーションを音符または和音に追加すると、新しいアーティキュレーションが既存のものと置き換わります。

2. 音符を入力します。
-

連符の追加

補足

「連符 (Tuplets)」 をクリックして、3 連符を追加することもできます。

手順

1. コンピューターキーボードで該当するキーボードショートカットを押して、連符機能を有効にします。
2. 連符の比率を追加します (例: 4:6)。

補足

3 連符を追加するには、3:2 または 3 を入力します。

3. [Enter] を押します。
4. 音符を入力します。

5. 必要に応じて、コンピューターキーボードで該当するキーボードショートカットを押して、連符入力を無効にします。
-

関連リンク

[Dorico のキーボードショートカット \(6 ページ\)](#)

装飾音符の入力

音符のかわりに装飾音符を入力するには、「**装飾音符 (Grace Notes)**」ツールを使用します。スラッシュ付きまたはスラッシュなしの装飾音符を入力できます。

手順

1. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 音符ツールボックスで、「**装飾音符 (Grace Notes)**」 をオンにします。
 - 該当するキーボードショートカットを押します。
2. 音符パネルでデュレーションを選択します。
3. 必要に応じて、使用する言語に応じた該当するキーボードショートカットを押し、装飾音符のタイプ (スラッシュ付き、スラッシュなし) を切り替えます。

補足

入力する装飾音符のタイプは、ツールボタンに表示されます。装飾音符のタイプは、音符の入力後に変更できます。

4. 装飾音符を入力します。
 5. 音符の入力を続けるには、**装飾音符**ツールを無効にします。
-

関連リンク

[装飾音符のタイプの変更 \(96 ページ\)](#)

[Dorico のキーボードショートカット \(6 ページ\)](#)

装飾音符のタイプの変更

装飾音符を入力すると、初期設定ではスラッシュ付き装飾音符が入力されます。音符の入力中に装飾音符のタイプの切り替えを行なわなかった場合も、音符の入力後に装飾音符のタイプを変更できます。

手順

1. 装飾音符を選択します。
 2. プロパティパネルを開きます。
 3. プロパティパネルの「**装飾音符 (Grace Notes)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 装飾音符をスラッシュなしに変更するには、**スラッシュなし**  をオンにします。
 - 装飾音符をスラッシュ付きに変更するには、**スラッシュ付き**  をオンにします。
-

拍子記号の追加

拍子記号をプロジェクトに追加すると、Dorico は、小節線を自動的に適切な位置に追加します。

手順

1. 譜表で最初の音符または休符を選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - [Shift]+[M] を押します。
譜表の上にポップオーバーが開きます。
3/4 などの一般的な拍子記号を入力し、[Enter] を押します。
 - 記譜ツールボックスで、「拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))」 をオンにします。
記譜パネルで、「一般 (Common)」セクションで拍子記号を選択するか、「拍子記号を作成 (Create Time Signature)」セクションでカスタム拍子記号を作成します。

関連リンク

[カスタム拍子記号の作成 \(97 ページ\)](#)

アウフタクトによる拍子記号の追加

拍子記号と組み合わせて、アウフタクト (弱拍または弱起ともいいます) を定義できます。

手順

1. 譜表で最初の音符または休符を選択します。
2. [Shift]+[M] を押します。
3. ポップオーバーに拍子記号を入力し、[,] を押して、アウフタクトとして入力する音符の数を入力します (例: 3/4, 1)。

結果

音符の入力を開始すると、アウフタクトの後に自動的に小節線が挿入されます。後続のすべての音符が、設定した拍子記号に従います。

関連リンク

[カスタム拍子記号の作成 \(97 ページ\)](#)

カスタム拍子記号の作成

カスタム拍子記号を作成できます。

手順

1. 記譜ツールボックスで、「拍子記号 (拍子) (Time Signatures (Meter))」をオンにします。
2. 記譜パネルで、「拍子記号を作成 (Create Time Signature)」セクションを開きます。
3. 上部のポップアップメニューから、作成する拍子記号のタイプを選択します。

4. 選択した拍子記号の下にある入力フィールドの上下の列 (4/4 の拍子記号のサンプルエントリが表示されています) で、以下のいずれかの操作を行いません。
 - 標準の拍子記号を作成するには、上の 1 つめの入力フィールドに分子を入力し、分母を下の 1 つめの入力フィールドに入力します。
 - 入れ替え可能な拍子、結合拍子、交互拍子の拍子記号を作成するには、1 番左の上下の入力フィールドから分子と分母を入力し、順に右側へと入力を進めます。

補足

[Tab]/[Shift]+[Tab] を使用すると、入力フィールドを前後に移動できます。

セクション下部に表示される拍子記号は、スコアに何が入力されるかを表わします。

5. 必要に応じて、「**アウフタクトの拍数: (Pickup bar of:)**」をオンにし、ポップアップメニューから使用するアウフタクト (弱拍または弱起ともいいます) を選択します。
6. 表示された拍子記号をクリックします。
7. 音符または和音を選択していない場合、必要に応じて、拍子記号を挿入する位置にマウスポインターを移動して、クリックします。

結果

拍子記号が挿入されます。後続のすべての音符が、設定した拍子記号に従います。

関連リンク

[ポップオーバーを使用したカスタム拍子記号の追加](#) (98 ページ)

ポップオーバーを使用したカスタム拍子記号の追加

譜表の上のポップオーバーで、コンピューターキーボードからさまざまなキーボードショートカットを使用して、さまざまなカスタム拍子記号を入力できます。

「**拍子記号を作成 (Create Time Signature)**」セクションの音符パネルで作成できる個々のカスタム拍子記号は、ポップオーバー ([Shift]+[M]) とコンピューターキーボードのキーを使用して作成することもできます。手順は以下の例で説明します。

補足

初期設定の拍子記号は、分子、スラッシュ、分母の形式で入力されます (例: 3/8)。

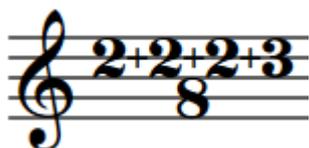
拍をグループ化した拍子記号

必要な分子とプラス記号を入力してから、スラッシュ、分母を入力します。空白スペースは入力しません。分子を角括弧で括ると、括弧内の分子は加算され、1 つの数字として表示されます。

例

拍をグループ化した拍子記号

2+2+2+3/8 と入力すると、以下の拍子記号が作成されます。



加算されるよう拍をグループ化した拍子記号

[2+2+2+3]/8 と入力すると、以下の拍子記号が作成されます。



交互拍子の拍子記号

拍子記号を入力し、空白スペース、プラス記号、空白スペース、交互拍子の拍子記号を順に追加します。

例

3/8 + 2/8 と入力すると、以下の拍子記号が作成されます。



入れ替え可能な拍子の拍子記号

拍子記号を入力し、空白スペース、丸括弧で括った別の拍子記号を入力します。

例

3/8 (2/8) と入力すると、以下の拍子記号が作成されます。

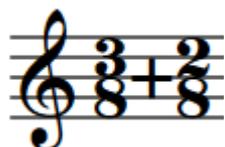


結合拍子の拍子記号

拍子記号、空白スペース、縦のバー、空白スペース、別の拍子記号を順に入力します。表示される拍子記号の見た目は交互拍子の拍子記号と同じですが、2つの拍子記号を加算した長さの小節が作成されます。小節は、最初の小節が通常終了する箇所で、破線の小節線によって分割されます。

例

3/8 | 2/8 と入力すると、以下の拍子記号が作成されます。



小節は以下のとおり分割されます。



歌詞

Dorico には、複数の歌詞のライン、コーラスのライン、訳詞を入力する機能があります。

歌詞は、譜表の上または下に入力できます。ポップオーバーと一連のキーボードショートカットを使用することで、歌詞をラインごと、音節ごとに入力できます。

すべての歌詞は、自動的に対応する音符に対して水平方向に整列されます。歌詞のラインが複数ある場合は、自動的に垂直方向に整列されます。

ライン全体または選択したラインをコーラスのラインとして指定できます。ポップオーバーを使用して、直接コーラスを入力することもできます。コーラスの場合、ポップオーバーに「c」の文字が表示されます。スコアでは、コーラスは斜体で表示されます。ライン番号の表示はありません。同一の譜表で、複数の歌詞のラインにコーラスが続く場合は、コーラスは歌詞のラインに対して垂直方向に中央揃えされます。

あらゆる既存のライン、選択した歌詞、コーラスのラインを訳詞として指定できます。ポップオーバーを使用して、直接訳詞を入力することもできます。訳詞の場合、ポップオーバーにライン番号または「c」とアスタリスク(*)が表示されます。スコアでは、訳詞は斜体で表示されます。歌詞のラインが複数ある場合、すべての訳詞のラインを歌詞のラインの下に配置できます。

Dorico では、歌詞の位置を変える必要がある場合、またはライン番号を有効化/無効化する場合、プロパティパネルや浄書オプションにあるオプションを使って、選択した音節または歌詞のライン全体を変更したり、歌詞のラインの整列方法を全体的に変更したりできます。

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」セクション \(114 ページ\)](#)

歌詞入力のキーボードショートカット

Dorico では、歌詞の入力をサポートする複数のキーボードショートカットを使用できます。

初期設定では、次のキーボードショートカットを使用できます。

歌詞のキーボードショートカット

タスク	キーボードショートカット
歌詞を追加する。	[Shift]+[L]
補足 音符、休符、音節を選択している場合のみ使用できる。	
現在の文字列を終了し、次の音符または和音に進む。	[Space]
現在の音節を終了し、次の音符または和音に進む。	[-] (ハイフン)
文字列が複数の音符に渡って歌われることを示すため、延長線を追加する。	必要に応じた回数、[Space]を繰り返し押す。
音節が複数の音符に渡って歌われることを示すため、複数のハイフンを追加する。	必要に応じた回数、[-] (ハイフン)を繰り返し押す。
ライン番号を増やす/減らす。	[↓]/[↑]
歌詞/コーラスのラインと訳詞ラインを切り替える。	[Alt]+[↓]/[Alt]+[↑]
補足 訳詞ラインでは、ポップオーバーにアスタリスク(*)が表示されます。	
歌詞のライン内で音節から音節に早送り/巻き戻しする。	[Alt]+[→]/[Alt]+[←]
文字列または音節内にスペースを追加する。	[Shift]+[Alt]+[Space]
スラーを追加する。	[_] (アンダースコア)
単一の文字列や音節内へのハイフンの強制挿入	[Alt]+[-] (ハイフン)

歌詞の追加

複数の歌詞のラインを譜表に追加できます。

手順

1. 歌詞の追加を開始する音符または和音を選択します。
 2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - [Shift]+[L] を押します。
 - 「歌詞 (Lyrics)」 **VL** をクリックします。入力する歌詞のライン番号が表示されたポップオーバーが開きます。
 3. 必要に応じて、[↓]/[↑] を押してライン番号を指定します。
 4. 歌詞を入力します。
-

タスク終了後の項目

さらに歌詞のラインを追加する場合は、この手順を繰り返します。

コーラスのラインの追加

コーラスのラインを追加できます。

補足

歌詞を追加するデフォルトのキーボードショートカットを使用します。

手順

1. コーラスの追加を開始する歌詞のラインの音節、音符、または和音を選択します。
2. [Shift]+[L] を押します。
3. 開いたポップオーバーで、[↑] を押します。
すると、ポップオーバーにライン番号ではなく、「c」と表示されます。
4. コーラスを入力します。

補足

または、以下のいずれかの操作でも実行できます。

- 歌詞のラインを入力し、文字列または音節を選択します。次に歌詞のラインを右クリックし、コンテキストメニューから「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > 「コーラス (Chorus)」を選択します。
 - コーラスのライン全体を長方形で囲むようにクリックアンドドラッグして選択し、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションで、「コーラス (Chorus)」をオンにします。
-

結果

コーラスのラインは斜体で追加されます。浄書オプションでライン番号を追加した場合は、ライン番号が削除されます。

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」 セクション \(114 ページ\)](#)

訳詞の追加

歌詞またはコーラスのラインに訳詞を追加できます。

補足

歌詞を追加するデフォルトのキーボードショートカットを使用します。

手順

1. 訳詞の追加を開始する歌詞のラインの音節、音符、または和音を選択します。
2. [Shift]+[L] を押します。
3. [Alt]+[↓]/[↑] を押して、歌詞のラインから訳詞のラインに切り替えます。

補足

訳詞のラインにはアスタリスク (*) が表示されます。

4. 訳詞を入力します。

補足

または、以下のいずれかの操作でも実行できます。

- 歌詞のラインまたはコーラスのラインを追加し、音節を選択します。次に、ラインを右クリックし、コンテキストメニューから「歌詞 (Lyrics)」 > 「訳詞 (Translations)」 > 「ライン <ライン番号> の訳詞 (Line <line number> Translation)/コーラスの訳詞 (Chorus Translation)」を選択します。
 - 歌詞のラインまたはコーラスのラインを追加し、音節またはライン全体を選択します。次に、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションで、「訳詞 (Is translation)」をオンにします。
-

結果

訳詞のラインは斜体で追加されます。浄書オプションでライン番号を追加した場合は、ライン番号が削除されます。

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」 セクション \(114 ページ\)](#)

歌詞のライン番号の変更

歌詞のライン全体のライン番号を変更できます。この操作により、歌詞のラインの位置が変更されます。

補足

どのライン番号の作業を行なっているかを識別するには、歌詞のラインで音節を選択し、プロパティパネルで「ライン番号 (Line number)」オプションを確認します。または、浄書オプションでライン番号を表示するよう設定できます。

手順

1. 歌詞のライン内の音節を選択します。
2. 右クリックし、コンテキストメニューから「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > 「ライン <ライン番号> (Line <number of line>)」を選択します。

補足

または、ライン全体を長方形で囲むようにクリックアンドドラッグして、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションの「ライン番号 (Line number)」フィールドで番号を選択します。

結果

歌詞のラインに別のライン番号が表示されます。歌詞のラインが、複数のライン内の選択した位置に移動します。

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」セクション \(114 ページ\)](#)

音節のライン番号の変更

音節のライン番号を変更できます。

補足

どのライン番号の作業を行なっているかを識別するには、歌詞のラインで音節を選択し、プロパティパネルで「ライン番号 (Line number)」オプションを確認します。または、浄書オプションでライン番号を表示するよう設定できます。

手順

1. 歌詞のライン内の音節を選択します。
2. プロパティパネルで、「歌詞 (Lyrics)」セクションの「ライン番号 (Line number)」フィールドで、番号を選択します。

結果

音節が歌詞の選択したラインに移動します。歌詞のラインにすでに音節が含まれている場合、その音節は上書きされます。

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」セクション \(114 ページ\)](#)

別のラインへの歌詞のラインの移動

歌詞のライン全体を別のラインに移動できます。

補足

どのライン番号の作業を行なっているかを識別するには、歌詞のラインで音節を選択し、プロパティパネルで「ライン番号 (Line number)」オプションを確認します。または、浄書オプションでライン番号を表示するよう設定できます。

手順

1. 歌詞のライン内の音節を選択します。
2. ラインを右クリックし、コンテキストメニューから「歌詞 (Lyrics)」 > 「ライン (Line)」 > 「ライン <ライン番号> (Line <number of line>)」を選択します。

補足

または、ライン全体を長方形で囲むようにクリックアンドドラッグして、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションの「ライン番号 (Line number)」フィールドで番号を選択します。

結果

歌詞のラインが選択したラインに移動します。そのラインにすでに歌詞のラインが含まれる場合は、ラインが入れ替わります。

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」セクション \(114 ページ\)](#)

別のラインへの音節の移動

選択した音節を歌詞の別のラインに移動できます。

補足

どのライン番号の作業を行なっているかを識別するには、歌詞のラインで音節を選択し、プロパティパネルで「ライン番号 (Line number)」オプションを確認します。または、浄書オプションでライン番号を表示するよう設定できます。

手順

1. 歌詞のライン内の音節を選択します。
2. プロパティパネルで、「歌詞 (Lyrics)」セクションの「ライン番号 (Line number)」フィールドで、番号を選択します。

結果

音節が歌詞の選択したラインに移動します。歌詞のラインにすでに音節が含まれている場合、その音節は上書きされます。

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」セクション \(114 ページ\)](#)

譜表の上または下への歌詞の配置

単一または複数の歌詞のライン、コーラスのライン、訳詞を譜表の上または下に配置できます。

手順

1. 歌詞のライン内の音節を選択します。

2. 右クリックし、コンテキストメニューから「歌詞 (Lyrics)」 > 「位置 (Placement)」 > 「上 (Above)」 / 「下 (Below)」 を選択します。

補足

または、単一または複数のライン全体を選択して、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションで、「**ラインの配置 (Line placement)**」オプションの「上 (Above)」または「下 (Below)」をオンにします。

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」セクション \(114 ページ\)](#)

譜表の上または下への音節の配置

歌詞から選択した音節を譜表の上または下に配置できます。

手順

1. 歌詞のライン内で 1 つまたは複数の音節を選択します。
 2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションで、「**ラインの配置 (Line placement)**」オプションの「上 (Above)」または「下 (Below)」をオンにします。
-

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」セクション \(114 ページ\)](#)

歌詞内での音節の整列

歌詞のライン内で音節が重なる場合は、配置を変更することができます。

手順

1. 歌詞のラインで、他のテキストと揃える音節を 1 つまたは複数選択します。
 2. プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションで、「**歌詞のテキストを整列 (Lyric text alignment)**」をオンにします。
 3. ポップアップメニューから、整列オプションの 1 つを選択します。
-

関連リンク

[「歌詞 \(Lyrics\)」セクション \(114 ページ\)](#)

記譜モードのプロパティ

記譜モードでは、音符と記譜記号を編集したり、各フローの楽譜の記譜法を変更したりできます。

個々のアイテムを編集するには、スコア上でアイテムを選択し、プロパティパネルから直接変更します。Dorico の楽譜の記譜法を全体的に変更するには、記譜オプションを使用します。すべてのフローの記譜オプションを設定することも、フローごとに個別に設定することもできます。

関連リンク

[プロパティパネルのオプション \(109 ページ\)](#)

[記譜オプション \(Notation Options\) \[107 ページ\]](#)
[フロー \[72 ページ\]](#)

記譜オプション (Notation Options)

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログには、各フローの楽譜の記譜法に影響する変更を実施できる複数のオプションが表示されます。

以下に影響する変更を行なうことができます。

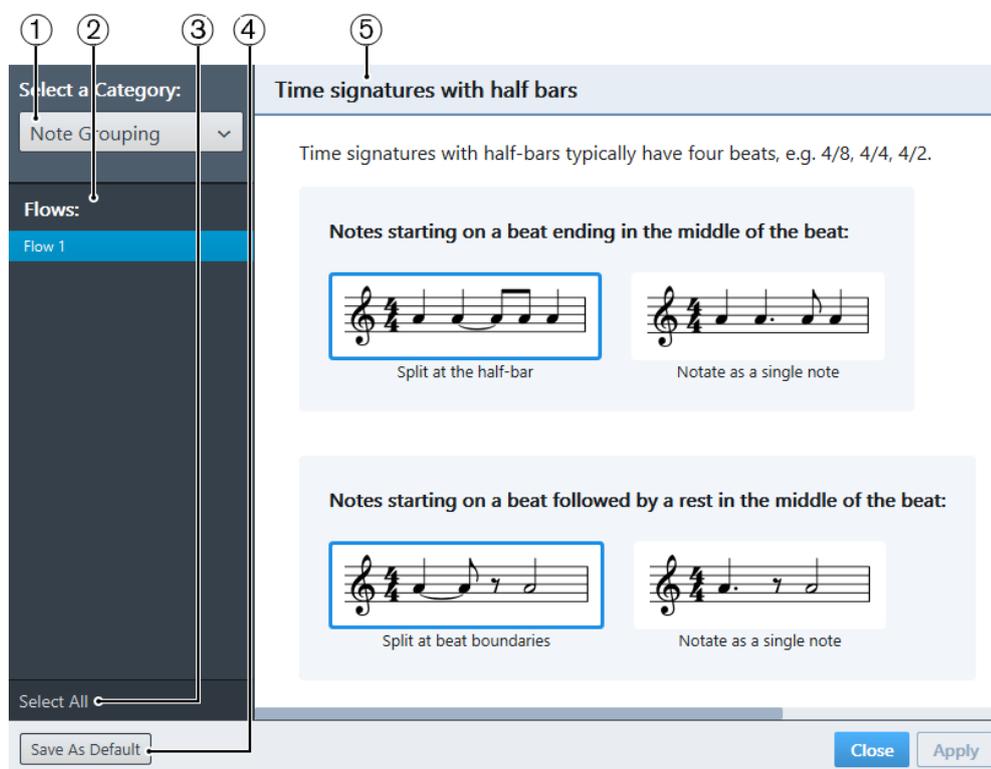
- 音符と休符のグループ化 (シンクペーションのリズムや、さまざまな拍子記号でのさまざまなリズムの扱い方)
- 声部 (声部間での符頭の共有や、複数の声部をまとめる際の順序など)
- 臨時記号 (確認の臨時記号の扱い方など)
- 移調 (移調楽器での移調調号の扱い方など)

ヒント

音符や記譜記号に直接変更を加える場合は、プロパティパネルのオプションを使用します。

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択します。



記譜オプションダイアログ

「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログは、以下のアイテムで構成されています。

1. **カテゴリーを選択 (Select a Category)**

カテゴリーを選択できます。関連するオプションやサブカテゴリーが右側の領域に表示されます。

2. **フロー (Flows)**

プロジェクトで使用できるすべてのフローのリストが表示されます。1つ、複数、またはすべてのフローを選択できます。リストから複数のフローを選択するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 個々のフローを選択するには、[Ctrl]/[command] を押しながら、リストでフローをクリックします。
- すべてのフローを選択するには、[Shift] を押しながら、リストで最初と最後のフローをクリックします。

3. **すべて選択 (Select All)**

「フロー (Flows)」のリストにあるすべてのフローを選択できます。

4. **デフォルトとして保存 (Save As Default)**

記譜オプションで設定したすべてのオプションを新しいプロジェクトのデフォルト値として保存します。

5. **<サブカテゴリー>**

カテゴリー内のサブオプションを表示します。選択されているオプションが強調表示されます。別のオプションをアクティブにするには、そのオプションをクリックします。

関連リンク

[プロパティパネルのオプション](#) (109 ページ)

[フロー](#) (72 ページ)

記譜オプションの変更

1つまたは複数のフローに対応する記譜オプションを変更できます。

手順

1. 記譜モードで、「記譜 (Write)」 > 「記譜オプション (Notation Options)」を選択します。
 2. 「記譜オプション (Notation Options)」ダイアログで、「フロー (Flows)」のリストから、1つ、複数、またはすべてのフローを選択します。
 3. 「カテゴリーを選択 (Select a Category)」ポップアップメニューから、カテゴリーを選択します。
 4. 右側の領域で変更を行ないます。
 5. 「適用 (Apply)」をクリックします。
-

プロパティパネルのオプション

記譜モードのプロパティパネルには、音符や記譜記号を編集するオプションが表示されます。

プロパティパネルに表示されるオプションは、スコア上で選択したアイテムによって異なります。音符や記譜記号を選択し、プロパティパネルを開くと、プロパティパネルに、選択したアイテムの編集に使用するセクションと、対応するオプションが表示されます。複数の異なるタイプの記譜記号を選択すると、選択した記号すべてに共通するセクションのみ表示されます。

たとえば、音符を選択すると、少なくとも「**一般 (Common)**」セクションと「**音符と休符 (Notes and Rests)**」セクションが表示されます。タイでつながれた音符とアーティキュレーションを選択すると、「**一般 (Common)**」セクション、「**音符と休符 (Notes and Rests)**」セクション、「**タイ (Ties)**」セクション、および「**アーティキュレーション (Articulations)**」セクションが表示されます。これにより、選択した音符の編集に必要なオプションがすべて表示されます。

記譜モードにおける個別のアイテムのプロパティの変更

音符および記譜記号のプロパティを変更できます。

補足

完全な音符または完全な記譜記号だけを変更できます。音符の符尾の長さを変えるなど、音符や記譜記号の一部分を変更するには、**浄書モード**に切り替えます。音符と記譜記号をプロジェクト全体で変更するには、「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」を開き、記譜オプションを編集する必要があります。

手順

1. スコアで音符や記譜項目を選択します。
 2. プロパティパネルを開きます。
 3. プロパティパネルで、設定を行ないます。
-

結果

完全な音符や記譜項目が変更されます。変更内容は、すぐに楽譜領域に表示されます。

関連リンク

[プロパティパネル](#) (82 ページ)

「一般 (Common)」セクション

プロパティパネルの「**一般 (Common)**」セクションは、楽譜領域のすべてのアイテムに対して使用できます。

補足

楽譜領域で異なるタイプのアイテムを同時に選択した場合は、「**一般 (Common)**」セクションのオプションだけを編集できます。

位置 (Position)

選択したアイテムの位置が表示されます。位置は、フローの始めからの4分音符の拍数で表わされます。

ミュート (Muted)

このオプションをオンにすると、再生中、選択した音符やコードをミュートできます。強弱記号など、再生に影響する他の記譜記号もミュートできます。

カラー (Color)

このオプションをオンにすると、選択したアイテムの色を変更できます。右側のボックスをクリックします。「色を選択 (Select Color)」ダイアログが開きます。基本カラーから色を選択するか、画面の色をピックするか、またはカスタムカラーを指定します。

「アーティキュレーション (Articulations)」セクション

プロパティパネルの「アーティキュレーション (Articulations)」セクションでは、アーティキュレーションの位置や表示/非表示を変更できます。

補足

アーティキュレーションを編集するには、アーティキュレーションが付いている音符を選択する必要があります。

位置 (Placement)

選択した音符のアーティキュレーションの位置を変更できます。アーティキュレーションを符頭側と符尾側のどちらに配置するかを設定できます。

非表示 (Hidden)

選択した音符のアーティキュレーションを非表示にできます。アーティキュレーションは非表示に設定しても再生されますが、スコア上には表示されません。かわりに、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」を選択し、ガイドを表示できます。

タイのつながりでの位置 (Pos. in tie chain)

タイでつながれた音符の場合に、タイのつながりの最初の音符と最後の音符のどちらにアーティキュレーションを配置するかを指定できます。

「強弱記号 (Dynamics)」セクション

プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」セクションでは、選択した強弱記号の位置を編集したりスタイルを変更したりできます。

すべての強弱記号の共通オプション

位置 (Placement)

このオプションをオンにすると、選択した強弱記号を譜表の上または下に配置できます。

括弧つき (Parenthesized)

選択した強弱記号に括弧を付けます。

先頭テキスト (Prefix)

選択した強弱記号の先頭にカスタムのテキストを追加したり、編集したりできます。たとえば、フォルティッシモ (ff) の前に「sempre」を追加できます。

末尾テキスト (Suffix)

選択した強弱記号の末尾にテキストを追加したり、編集したりできます。たとえば、フォルティッシモ (ff) のあとに「strongly」を追加できます。

強度の目印を表示 (Show intensity marking)

局部的強弱記号、結合式強弱記号、およびアタックの強弱/強度レベルを示す記号にのみ使用できます。

Dorico では、強意語である「sempre」や「strongly」などと組み合わせて、カスタムの強弱記号をスコアに入力できます。このオプションのオン/オフを切り替えると、強意語の表示/非表示が切り替わります。

拍相対位置 (Beat-relative position)

局部的強弱記号、結合式強弱記号、およびアタックの強弱/強度レベルを示す記号にのみ使用できます。

通常、強弱記号の視覚上の中央位置は音符またはコードの位置に揃えられます。このオプションをオンにすると、その拍の位置の前にある拍の終了位置に強弱記号を配置するかどうかを指定できます。ある強弱記号の前にクレッシェンドかディミヌエンドがあり、この段階的強弱記号の終わりにあたる位置に音符やコードがない場合、強弱記号は自動的に、段階的強弱記号の影響を受ける最後の拍の終わりの位置に配置されます。この場合、強弱記号を次の拍の位置に移動できます。

以下のオプションが表示されます。

- **前 (Before)**
最後の拍の終わりの位置に強弱記号を配置します。
- **後 (After)**
最後の拍の次の拍の位置に強弱記号を配置します。

テキストの整列 (Text alignment)

局部的強弱記号、結合式強弱記号、およびアタックの強弱/強度レベルを示す記号にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、強弱記号をその記号が割り当てられた音符に揃えられます。以下のオプションが表示されます。

- **オーナメントの中央位置を符頭に合わせて揃える (Align optical center with notehead)** 
強弱記号の中央と符頭が揃えられます。
- **符頭に合わせて左寄せ (Left-align with notehead)** 

強弱記号の開始位置が符頭の先端に揃えられます。

段階的強弱記号のオプション

タイプ (Type)

段階的強弱記号のタイプとして、「クレッシェンドまたはディミヌエンド (Cresc. or dim.)」または「Messa di voce」のいずれかを選択できます。「クレッシェンドまたはディミヌエンド (Cresc. or dim.)」を選択すると、「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」ポップアップメニューが使用可能になり、さまざまなテキスト表記とヘアピン表記から選択できます。

段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)

段階的強弱記号のタイプとして、「クレッシェンドまたはディミヌエンド (Cresc. or dim.)」をオンにした場合にのみ使用できます。

ヘアピン、省略形のテキスト表記、ハイフン付きのテキスト表記から選択できます。

ヘアピン線スタイル (Hairpin line style)

「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」ポップアップメニューで「ヘアピン (Hairpin)」を選択した場合、または段階的強弱記号のタイプとして「Messa di voce」を選択した場合にのみ使用できます。

ここではヘアピンの線をどのように表示するかを選択できます。以下のオプションが表示されます。

- **実線 (Solid)** 
ヘアピンを実線で表示します。
- **破線 (Dashed)** 
ヘアピンを破線で表示します。
- **点線 (Dotted)** 
ヘアピンを点線で表示します。

Niente

クレッシェンド、ディミヌエンド、またはメッサ・ディ・ヴォーチェにニエンテを追加します。

ニエンテスタイル (Niente style)

「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」ポップアップメニューで「ヘアピン (Hairpin)」を選択した場合、または段階的強弱記号のタイプとして「Messa di voce」をオンにした場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、選択したニエンテに対して以下のいずれかのスタイルを選択できます。

- **ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)** 

ディミヌエンドの終端またはクレッシェンドの始端に小さい丸を追加します。

- **テキスト (Text) **

ディミヌエンドの終端またはクレッシェンドの始端に「n」を追加します。

Poco a poco (少しずつ) (Poco a poco (little by little))

クレッシェンド、ディミヌエンド、またはメッサ・ディ・ヴォーチェに「poco a poco」を追加します。

省略 (Abbreviate)

「**段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)**」ポップアップメニューでテキスト表記のクレッシェンド/ディミヌエンドを選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、選択したクレッシェンド/ディミヌエンドのテキスト表記が省略形で表示されます。

メッサ・ディ・ヴォーチェの変化 (Messa di voce inflection)

段階的強弱記号のタイプとして、「**Messa di voce**」を選択した場合にのみ使用できます。

メッサ・ディ・ヴォーチェの変換点は、最初のヘアピンが終わり、次のヘアピンが始まる位置です。変換点はメッサ・ディ・ヴォーチェの作成時に、強弱記号の範囲にある音符の位置に基づき自動的に決まります。

このオプションをオンにすると、変換点の位置を調節できます。左側のフィールドの値はプライマリー位置で、4分音符の分数で指定します。右側のフィールドの値にはセカンダリー位置を指定します。この値はプライマリー位置での装飾音符の音価を使用して指定します。

ディミヌエンドスタイル (Diminuendo style)

ディミヌエンドの表記として、「**段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)**」ポップアップメニューで「**cresc./dim.**」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、ディミヌエンドを表わすテキスト表記を選択でき、diminuendoとdecrescendoの用語間で切り替えできます。

補足

デフォルトのディミヌエンドのテキスト表記は、浄書オプションで指定できます。「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」 > 「**強弱記号 (Dynamics)**」 > 「**ダイナミクスの段階的減少を示す記号の外観 (Appearance of gradual reduction in dynamic)**」を選択します。

小節線との交差 (Barline interaction)

このオプションをオンにすると、ヘアピンを小節線の前で終了するか、小節線を越えて継続するかを設定できます。

延長線のスタイル (Continuation line style)

「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」ポップアップメニューで「cresc....」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、強弱変化の長さを示す線を破線にするか点線にするかを指定できます。

アタックの強弱/強度レベルのオプション

リンフォルツァンド/スフォルツァンドスタイル (rfz/sfz style)

このオプションをオンにすると、アタックの強弱/強度レベルを示す記号にzを付けて表示するかどうかを設定できます。

結合式強弱記号のオプション

区切り用文字の表示 (Separator shown)

このオプションをオンにすると、結合式強弱記号の間に区切り用文字を挿入できます。

区切り用文字 (Separator)

このオプションをオンにすると、ポップアップメニューで区切り用文字のタイプを指定できます。

「歌詞 (Lyrics)」セクション

プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションでは、選択した音節や歌詞全体の設定を変更できます。

音節タイプ (Syllable type)

選択した音節のタイプを変更できます。

ラインの配置 (Line placement)

選択した音節を譜表の上または下に移動できます。

ライン番号 (Line number)

選択した音節のライン番号を変更できます。

コーラス (Chorus)

このオプションをオンにすると、音節を選択してコーラス用の歌詞に設定できます。コーラス用歌詞は、既存の他の歌詞ラインに対して中央揃えされます。コーラス用歌詞は斜体で表示されます。

訳詞 (Is translation)

このオプションをオンにすると、歌詞のラインを訳詞に指定できます。訳詞は斜体で表示されます。

歌詞のテキストを整列 (Lyric text alignment)

このオプションをオンにすると、選択した音節を符頭に対して水平方向に整列できます。デフォルトでは、音節は音符の下に中央揃えされます。

関連リンク

[譜表の上または下への歌詞の配置](#) (105 ページ)

[歌詞のライン番号の変更](#) (103 ページ)

[別のラインへの歌詞のラインの移動](#) (104 ページ)

[コーラスのラインの追加](#) (102 ページ)

[訳詞の追加](#) (103 ページ)

[歌詞内での音節の整列](#) (106 ページ)

「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」 セクション

プロパティパネルの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」セクションでは、選択したリハーサルマークのタイプと開始番号の設定を変更できます。

シーケンスタイプ (Sequence type)

このオプションをオンにすると、選択したリハーサルマークを文字、数字、現在の小節番号のうち、どのタイプで表示するか選択できます。

インデックス (Index)

「シーケンスタイプ (Sequence type)」で「数字 (Numbers)」または「文字 (Letters)」を選択し、このオプションをオンにした場合、リハーサルマークの開始文字または数字を設定できます。

「トリル (Trills)」 セクション

プロパティパネルの「トリル (Trills)」セクションでは、選択したトリルとトリル線の位置と外観を変更できます。

位置 (Placement)

このオプションをオンにすると、トリルを譜表の上または下に配置できます。

開始スピード (Start speed)

このオプションをオンにすると、トリルの始めのスピードを指定できます。トリル線の形状は設定内容に応じて自動的に変わります。

終了スピード (End speed)

このオプションをオンにすると、トリルの終わりのスピードを指定できます。トリル線の形状は設定内容に応じて自動的に変わります。

トリル線を表示 (Has trill line)

このオプションをオンにすると、トリルにトリル線を付けるかどうかを指定できます。

開始位置 (Start position)

このオプションをオンにすると、トリルを符頭位置から開始するか音符に付いている臨時記号の位置から開始するかを指定できます。

予備間隔の位置 (Extra gap position)

このオプションをオンにすると、トリル線の始めと終わりのどちらに間隔を空けるかを指定できます。

音程 (Interval)

このオプションをオンにすると、トリルで使用する2つの音の音程をどれくらい離すかを半音の個数で指定できます。

臨時記号の位置 (Accidental position)

このオプションをオンにしている、トリルの音程に臨時記号を使用している場合、臨時記号をトリルの上、下、同列のいずれに配置するか指定できます。

スラー、連符、オクターブ線内 (Inside slurs, triplets, and octave lines)

このオプションをオンにすると、選択したトリルがスラー、連符、またはオクターブ線の内側に配置されます。

浄書モード

浄書モードでは、プロジェクトで使用するすべてのアイテムを操作したり変更したりできます。プロジェクトのページにあらかじめ形式を指定しておく、印刷時や書き出し時にその形式を使用できます。

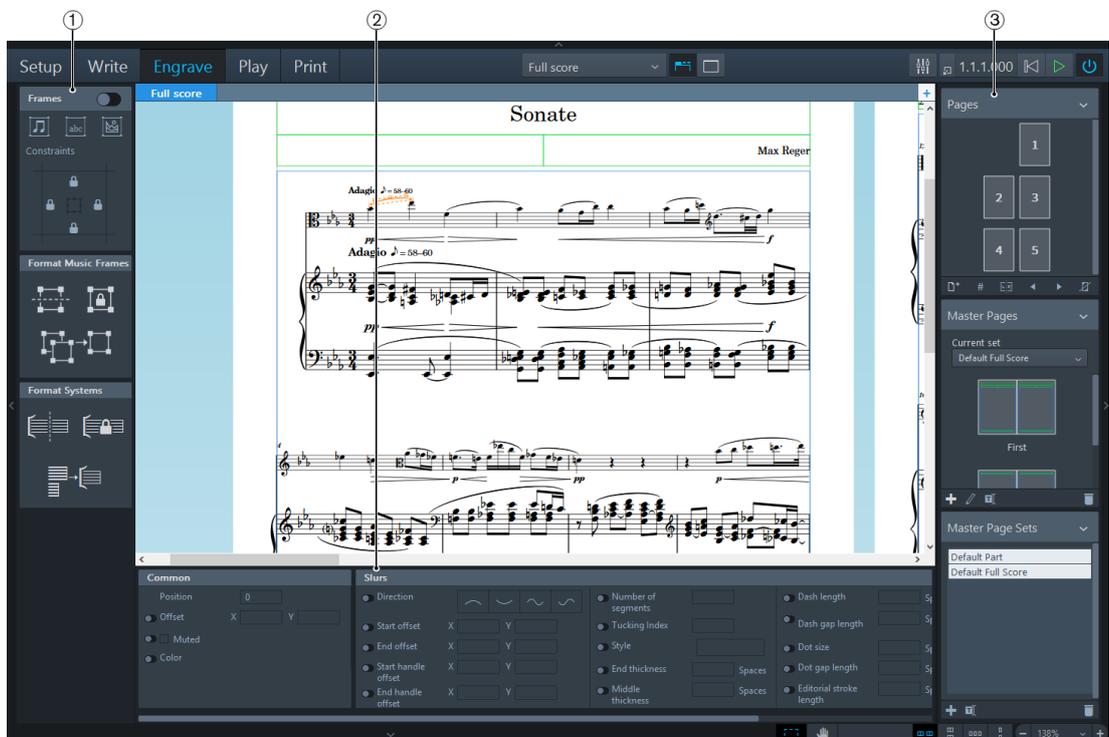
浄書モードのプロジェクトウィンドウ

浄書モードのプロジェクトウィンドウには、初期設定ツールバー、楽譜領域、およびステータスバーが表示されます。スコアに含まれるページ、組段、および個別の記譜記号のプロパティの形式を設定するためのツールと機能をすべて使用できます。

浄書モードを開くには、以下のいずれかの方法があります。

- ツールバーで「浄書 (Engrave)」を選択します。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「浄書 (Engrave)」を選択します。

パネルはプロジェクトウィンドウの左、右、下に表示され、表示/非表示を切り替えることができます。



浄書モードのパネル

以下のパネルが表示されます。

1. 形式設定
ページにさまざまなフレームを挿入したり、整列させたりできます。ページの組段の形式設定を変更することもできます。
2. プロパティ
クイックアクセスプロパティから、音符や記譜記号の個別の部位に特定の変更を加えることができます。
3. ページ (Pages)
楽譜のページの形式を設定できます。これは、DTP ソフトウェアで使用されている一般的な手法をベースにしています。

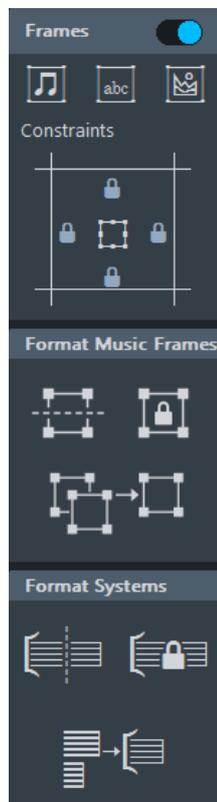
関連リンク

[Windows \(34 ページ\)](#)

形式設定パネル

浄書モードの形式設定パネルでは、ページにさまざまなフレームを挿入したり、ページ上のフレームを整列させる方法を指定したりできます。ページの組段の形式設定を変更することもできます。

形式設定パネルの表示/非表示を切り替えるには、楽譜領域の左にある展開矢印マーク  /  をクリックします。



形式設定パネルは以下のセクションに分かれています。

フレーム (Frames)

「フレーム (Frames)」セクションでは、ページに新規フレームを作成したり、フレームとページ余白の間に制限を指定したりできます。フレームに変更を加えるには、このセクションを有効にする必要があります。

楽曲フレームを挿入 (Insert Music Frame)

楽曲フレームを挿入し、フレームに表示するレイアウトを指定できます。

補足

デフォルトのフレームの表示内容を指定するには、使用するマスターページのセット内のマスターページを編集する必要があります。

テキストフレームを挿入 (Insert Text Frame)

テキストを入力するフレームを挿入し、必要に応じて書式を設定できます。

グラフィックフレームを挿入 (Insert Graphics Frame)

イメージや図を表示するフレームを挿入できます。

制限 (Constraints)

ページ余白に固定するフレームの辺を指定できます。

関連リンク

[フレーム \(132 ページ\)](#)

[マスターページ \(122 ページ\)](#)

[制限 \(137 ページ\)](#)

プロパティパネル

浄書モードのプロパティパネルには、音符や記譜記号の個別の部位に特定の変更を加えることができるクイックアクセスプロパティがあります。

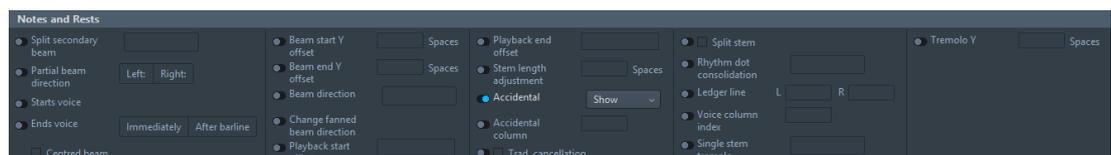
プロパティパネルの表示/非表示を切り替えるには、楽譜領域の下にある展開矢印マーク

 をクリックします。

プロパティパネルには、複数のセクションがあります。音符や記譜記号、または音符や記譜記号の部位を選択し、プロパティパネルを開くと、プロパティパネルに選択したアイテムの編集に必要なセクションと対応するオプションが表示されます。

例

音符または休符を選択すると、プロパティパネルで「音符と休符 (Notes and Rests)」セクションを使用できるようになります。



関連リンク

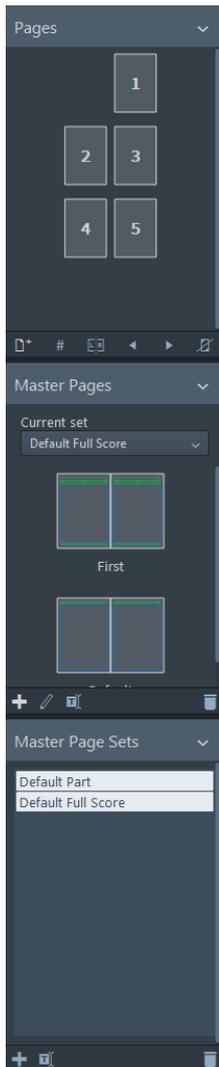
[プロパティパネルのオプション](#) (144 ページ)

[浄書モードでの個別アイテムのプロパティの変更](#) (144 ページ)

ページパネル

浄書モードのページパネルには複数のセクションがあり、楽譜のページ形式を指定できます。これは、DTP ソフトウェアで使用されている一般的な手法をベースにしています。

ページパネルの表示/非表示を切り替えるには、楽譜領域の左にある展開矢印マーク  /  をクリックします。



浄書モードのページパネル

ページパネルは以下のセクションに分かれています。

ページ (Pages)

ページディスプレイ

レイアウト内のページが番号付きで表示されます。選択したページは、枠が強調表示されます。優先が設定されているページには、左上端と右下端にマークが付

きます。マスターページの変更が適用されているページには、ページの上または左に枠線が付きます。

ページを挿入 (Insert Pages)



レイアウトの既存のページの前後いずれかに、選択したマスターページに基づいたページを挿入できます。

ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)



レイアウト内のページのページ番号を変更できます。

マスターページの変更を挿入 (Insert Master Page Change)



選択したページに異なるマスターページを割り当てることができます。

前ページと入れ替え (Swap with Previous Page)



選択したページを前ページの位置へ移動します。

次ページと入れ替え (Swap with Next Page)



選択したページを次ページの位置へ移動します。

優先を解除 (Remove Overrides)



選択したページの優先をすべて解除します。

マスターページ

マスターページディスプレイ

レイアウトで使用されている見開きのマスターページが表示されます。選択したマスターページは、枠が強調表示されます。「ページ (Pages)」セクションでページを選択すると、そのページで使用されている見開きのマスターページが、マスターページディスプレイで強調表示されます。

現在のセット (Current set)

使用中のマスターページのセットを表示したり、異なるマスターページのセットを選択したりできます。

新規マスターページ (New Master Page)



マスターページのセットに新規マスターページを追加できます。

マスターページを編集 (Edit Master Page)



マスターページの形式を変更するためのマスターページエディターを開きます。マスターページエディターを閉じるには、「**マスターページエディターを閉じる (Close Master Page Editor)**」をクリックします。

マスターページ名を変更 (Rename Master Page)



選択したマスターページの名前を変更できます。

マスターページを削除 (Delete Master Page)



選択したマスターページを削除します。

マスターページのセット

マスターページのセットのリスト

使用できるマスターページのセットが表示されます。

新規マスターページのセット (New Master Page Set)



リストで選択したマスターページのセットをもとに、新規マスターページのセットを作成します。新規マスターページのセットは「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**現在のセット (Current set)**」ポップアップメニューへ自動的に追加されます。

マスターページのセット名を変更 (Rename Master Page Set)



選択したマスターページのセットの名前を変更できます。

マスターページのセットを削除 (Delete Master Page Set)



選択したマスターページのセットをリストから削除します。

マスターページ

Dorico のマスターページを使用すると、異なるレイアウトの異なるページに同じ形式設定を適用できます。

補足

フルスコアとパートレイアウトのページのサイズ、余白、向き、および譜表サイズは、レイアウトオプションで指定します。

スコアとパートレイアウトの全ページには、マスターページの形式設定が引き継がれます。マスターページを作成したり何らかの変更を加えたりすると、そのマスターページを使用す

るページに自動で反映されます。たとえば、新規フレームをマスターページに挿入すると、そのマスターページを使用するすべてのページに、対応するフレームが表示されます。

Dorico では、マスターページは見開きページで構成されています。見開きページにはそれぞれ左右のマスターページが存在します。つまり、記譜のページが左ページにある場合、見開きのマスターページの左ページの形式設定が使用されます。

Dorico には、最初の見開きページ用 (「最初 (First)」) とそれ以降の見開きページ用 (「デフォルト (Default)」) のデフォルトのマスターページがあります。これにより、最初のページと後続のページに異なる形式を設定できます。見開きページは、フルスコアとパートレイアウトのマスターページのセットに含まれます。マスターページのセットは、作成するすべてのスコアに自動的に適用されます。

マスターページのセットを変更したりマスターページの形式設定を変更したりする場合、新規マスターページやマスターページのセットを作成するか、マスターページエディターを使用してマスターページのセットのデフォルトのマスターページを編集するか、個別のマスターページより優先させることができます。

関連リンク

[マスターページのセット](#) (123 ページ)

[マスターページエディター](#) (126 ページ)

[レイアウトオプション](#) (76 ページ)

マスターページのセット

Dorico では、マスターページがマスターページのセットの一部として提供されます。

すべての新規プロジェクトで、以下のマスターページのセットを使用できます。

- デフォルトのフルスコア (Default Full Score)
フルスコアのレイアウトに使用されるマスターページのセットです。
- デフォルトのパート譜 (Default Part)
パートのレイアウトに使用されるマスターページのセットです。

デフォルトのセットは、それぞれ、最初の見開きページ用 (「最初 (First)」) とそれ以降の見開きページ用 (「デフォルト (Default)」) にあらかじめ定義されたマスターページで構成されます。デフォルトのセットは、スコアを作成すると自動的に適用されるため、自分でセットを作成したりカスタマイズしたりする必要はありません。セットを変更する必要がある場合、必要に応じてデフォルトのセットをもとにカスタムマスターページのセットを作成するか、デフォルトのセットを変更できます。

関連リンク

[マスターページのセットの作成](#) (123 ページ)

マスターページのセットの作成

Dorico が提供するセットをもとにカスタムマスターページのセットを作成できます。

手順

1. ページパネルの「**マスターページのセット (Master Page Sets)**」セクションで、いずれかのデフォルトマスターページのセットを選択します。

2. 「新しいマスターページのセット (New Master Page Set)」  を選択します。
-

結果

マスターページのセットが作成され、マスターページのセットのリストの一番下に追加されます。

マスターページのセット名の変更

マスターページのセットの名前を変更できます。

手順

1. ページパネルの「マスターページのセット (Master Page Sets)」セクションで、名前を変更するマスターページのセットをダブルクリックします。

補足

または、マスターページのセットを選択し、「マスターページのセット名を変更 (Rename Master Page Set)」  をクリックして名前を変更することもできます。

2. 名前を入力します。
 3. [Enter] を押します。
-

マスターページのセットの削除

不要になったマスターページのセットを削除できます。

手順

1. ページパネルの「マスターページのセット (Master Page Sets)」セクションで、削除するマスターページのセットを選択します。
 2. 「マスターページのセットを削除 (Delete Master Page Set)」  をクリックします。
-

マスターページのセットの選択

スコアに使用するマスターページのセットを選択できます。

手順

- ページパネルの「マスターページ (Master Pages)」セクションで、「現在のセット (Current set)」ポップアップメニューからマスターページのセットを選択します。
-

マスターページのタイプ

マスターページのセットに新規マスターページを追加する場合、追加するマスターページのタイプを指定する必要があります。

以下のタイプのマスターページを追加できます。

最初 (First)

レイアウト内の楽譜の最初のページで使用される見開きページを作成します。

補足

「First (最初)」の見開きページを作成しない場合、レイアウト内の最初のページには「**デフォルト (Default)**」の見開きページが使用されます。

デフォルト (Default)

レイアウトの最初のページのあとに続く、左右のページそれぞれで使用するデフォルトの見開きページを作成します。すべてのマスターページのセットには、常に「**デフォルト (Default)**」マスターページを含める必要があります。

カスタム (Custom)

マスターページのセットの「**デフォルト (Default)**」マスターページの後ろに追加する見開きのカスタムページを作成します。これにより、たとえばページ形式が異なる最後のページを作成できます。

補足

カスタムマスターページを使用してレイアウトにページを挿入すると、そのページには優先が設定されます。つまり、カスタムマスターページを使用してレイアウトページの途中または最後にページを挿入後、ページの優先を解除すると、挿入したページには「**デフォルト (Default)**」のマスターページが自動的に割り当てられます。

関連リンク

[マスターページの追加 \(125 ページ\)](#)

[ページの優先 \(127 ページ\)](#)

マスターページの追加

マスターページのセットにマスターページを追加できます。

手順

1. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、「**現在のセット (Current set)**」ポップアップメニューからマスターページのセットを選択します。
2. 「**新規マスターページ (New Master Page)**」 をクリックします。
3. 「**新規マスターページ (New Master Page)**」ダイアログの「**名前 (Name)**」フィールドに名前を入力します。
4. 「**もとにするページ (Based on)**」ポップアップメニューから、もとにするマスターページを選択します。

補足

「**なし (None)**」を選択すると、ページ余白以外の形式設定がされていないマスターページが作成されます。

5. 作成するマスターページのタイプを選択します。
-

関連リンク

[マスターページのセットの選択 \(124 ページ\)](#)

マスターページ名の変更

マスターページの名前を変更できます。

手順

1. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、「**現在のセット (Current set)**」ポップアップメニューからマスターページのセットを選択します。
 2. マスターページディスプレイで、名前を変更する見開きのマスターページをクリックします。
 3. 「**マスターページ名を変更 (Rename Master Page)**」をクリックします。
 4. 「**マスターページ名を変更 (Rename Master Page)**」ダイアログの「**名前 (Name)**」フィールドに名前を入力します。
 5. 「OK」をクリックします。
-

マスターページの削除

マスターページのセットからマスターページを削除できます。

補足

タイプが「**デフォルト (Default)**」のマスターページは削除できません。すべてのマスターページのセットには、少なくとも「**デフォルト (Default)**」マスターページを含める必要があります。

手順

1. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで、「**現在のセット (Current set)**」ポップアップメニューからマスターページのセットを選択します。
 2. マスターページディスプレイで、削除する見開きのマスターページをクリックします。
 3. 「**マスターページを削除 (Delete Master Page)**」をクリックします。
-

マスターページエディター

マスターページエディターを使用すると、マスターページの形式設定を表示したり、変更したりできます。

マスターページエディターを表示するには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで見開きページのイメージをダブルクリックします。
- ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで見開きページのイメージを選択し、「**マスターページを編集 (Edit Master Page)**」をクリックします。

マスターページエディターでは、以下の操作を行なえます。

- 楽曲フレーム、テキストフレーム、およびグラフィックフレームを挿入したり、他のフレームやページ余白との間隔を調節したりします。
- フレームをフレームチェーンに割り当てます。
- 楽譜を表示するフレームの順番を指定します。
- フレームにフローとプレーヤーを割り当てます。

マスターページのカスタマイズ

必要に応じてマスターページをカスタマイズできます。

補足

フルスコアとパートレイアウトのページのサイズ、余白、向き、および譜表サイズを編集するには、レイアウトオプションで指定する必要があります。

手順

1. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションのマスターページディスプレイで見開きのマスターページをダブルクリックします。
 2. 開いたマスターページエディターで、必要に応じて設定を行ないます。
 3. 「**マスターページエディターを閉じる (Close Master Page Editor)**」をクリックします。
-

関連リンク

[マスターページエディター](#) (126 ページ)

[ページの優先](#) (128 ページ)

[レイアウトオプション](#) (76 ページ)

ページの優先

プロジェクトのページはすべて、適切なマスターページのセットで指定されたマスターページの形式設定を引き継ぎます。必要に応じて、基本となるマスターページやマスターページのセットに影響を与えずに各ページの形式設定を変更することもできます。

Dorico では、個別のページの形式設定をマスターページよりも優先させることができます。たとえば、以下のいずれかの理由で個別のページの形式設定を優先させる場合があります。

- 個別のページの楽曲フレームのサイズを変更するため
- 空白のページを挿入するため
- ページ番号を変更するため
- 脚注としてコメントを表示するため
- 楽譜を少し抜粋したものを含めるため (楽節が他の楽譜でどのように複製されたかを示すため)

ページの形式設定を優先させると、マスターページを変更したときに、その変更内容が自動的に引き継がれません。ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでは、ページの優先が設定されたすべてのページの左上端または右下端にマークが付きます。

もとのマスターページの設定に戻すには、ページの優先を解除する必要があります。

補足

カスタムマスターページを使用してレイアウトの途中または最後にページを挿入後、ページの優先を解除すると、そのページにはマスターページのセットの「**デフォルト (Default)**」のマスターページが自動的に割り当てられます。

関連リンク

[ページの優先 \(128 ページ\)](#)

ページの優先

レイアウトの個別のページに対する設定を、マスターページの設定より優先させることができます。

手順

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 形式設定パネルで「**フレーム (Frames)**」セクションを有効にし、フレームを編集します。

補足

「**フローでフィルター (Filter by Flow)**」と「**プレーヤーでフィルター (Filter by Player)**」オプションを編集できない場合は、該当するマスターページを編集する必要があります。

- 「**ページ (Pages)**」セクションのオプションを使用して、ページの挿入、入れ替え、削除、およびページ番号の変更を行ないます。
-

結果

ページの設定がマスターページより優先されると、「**ページ (Pages)**」セクションのページアイコンの左上端または右下端にマークが付きます。

関連リンク

[ページの優先 \(127 ページ\)](#)

[フレーム \(132 ページ\)](#)

ページの優先の解除

レイアウト内の単一ページまたは全ページに設定されたページの優先を解除できます。

手順

1. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 単一のページを選択します。
 - **[Ctrl]/[command]** を押しながら、複数のページを選択します。

補足

ページが選択されていない場合、全ページに設定されたページの優先がすべて解除されます。

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 単一ページまたは複数ページに設定されたページの優先を解除するには、「**ページ (Pages)**」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**ページの優先を解除 (Remove Page Overrides)**」をクリックします。
または、ページを選択後、「**優先を解除 (Remove Overrides)**」をクリックして解除することもできます。
 - 全ページに設定されたページの優先を解除するには、「**ページ (Pages)**」セクションを右クリックし、コンテキストメニューから「**すべてのページの優先を解除 (Remove All Page Overrides)**」を選択します。

結果

ページの優先が解除され、マークが消えます。空白ページの優先を解除すると、ページが完全に削除されます。

関連リンク

[ページの優先 \(127 ページ\)](#)

ページの挿入

空白ページまたは異なるマスターページを使用するページをレイアウトに追加できます。

手順

- ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 右クリックし、コンテキストメニューから「**ページを挿入 (Insert Pages)**」を選択します。
 - ページを選択し、「**ページを挿入 (Insert Pages)**」をクリックします。
- 「**ページを挿入 (Insert Pages)**」ダイアログの「**挿入するページ数 (Number of pages to insert)**」フィールドに数字を入力します。
- ページを挿入する位置を選択します。
- 「**マスターページを使用 (Use master page)**」ポップアップメニューから、ページに割り当てるマスターページを選択します。
- 「**OK**」をクリックします。

ページ番号の変更

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを使用すると、ページ番号のないページ、または異なる番号スタイルのページを挿入できます。

たとえば、ページ番号のタイプを変更したり、序文ページに番号を表示しないよう指定したりできます。

「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログを開くには、ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択し、「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックします。

開始ページ (From page)

ページ番号を変更するページを選択できます。この番号は、レイアウト内の位置を示します。「**現在のページ番号 (Displayed)**」オプションに、選択したページの現在のページ番号が表示されます。

開始ページ番号 (First page number)

選択したページの開始ページ番号を入力できます。

シーケンスタイプ (Sequence type)

選択したページと後続のページで使用する番号のタイプを選択できます。

表示タイプ (Visibility)

ページ番号の表示/非表示を指定できます。

サブ番号のタイプ (Subordinate number type)

ページ番号にサブ番号を追加し、タイプを指定できます。

サブ番号 (Subordinate number)

サブ番号の開始番号を入力できます。

関連リンク

[ページ番号の変更 \(130 ページ\)](#)

ページ番号の変更

レイアウト内のページのページ番号を変更できます。

ページ番号がなかったり、異なる数字表記を使用したりする前付きページなどで、異なる設定が必要な場合があります。

手順

1. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションでページを選択します。
2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 右クリックし、コンテキストメニューから「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」を選択します。
 - 「**ページ番号の変更を挿入 (Insert Page Number Change)**」をクリックします。
3. 「**ページ番号の変更 (Page Number Change)**」ダイアログの「**開始ページ (From page)**」フィールドに、変更を開始するページの番号を入力します。
4. 「**開始ページ番号 (First page number)**」フィールドに、選択したページに使用するページ番号を入力します。
5. 必要に応じてそのほかのオプションを選択し、ページ番号を変更します。

6. 「OK」をクリックします。

結果

選択したページとすべての後続ページの番号が変更されます。

関連リンク

[ページ番号の変更](#) (129 ページ)

ページへのマスターページの割り当て

レイアウトの各ページに対して、異なるマスターページを割り当てることができます。

選択したマスターページのセットは、レイアウトの各ページのマスターページを定義します。ただし、1つ以上のページのマスターページの割り当てを変更できます。

手順

1. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、マスターページの割り当てを変更するページを選択します。
2. 「**マスターページの変更を挿入 (Insert Master Page Change)**」をクリックします。
3. 必要に応じて、「**開始ページ (From page)**」オプションを使用して、マスターページの変更を開始するページを変更します。
4. 「**マスターページを使用 (Use master page)**」ポップアップメニューから、割り当てるマスターページを選択します。
5. 「**範囲 (Range)**」として、以下のいずれかを選択します。
 - **現在のページのみ (Current Page Only)**
このオプションをオンにすると、選択したページにのみ異なるマスターページが割り当てられます。
 - **現在のページ以降 (From this Page Onwards)**
このオプションをオンにすると、選択したページと後続のページに異なるマスターページが割り当てられます。
6. 「OK」をクリックします。

マスターページの変更の解除

単一または複数のページに対して、マスターページの変更を解除できます。

手順

1. ページパネルの「**ページ (Pages)**」セクションで、以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 単一のページを選択します。
 - **[Ctrl]/[command]** を押しながら、複数のページを選択します。

補足

ページが選択されていない場合、全マスターページに対する変更がすべて解除されます。

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 単一または複数のページに対するマスターページの変更を解除するには、「ページ (Pages)」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**マスターページの変更を解除 (Remove Master Page Change)**」を選択します。
 - すべてのページに対するマスターページの変更を解除するには、「ページ (Pages)」セクションで右クリックし、コンテキストメニューから「**マスターページの変更をすべて解除 (Remove All Master Page Changes)**」を選択します。
-

ページの入れ替え

優先が設定されたページは、隣り合うページと入れ替えることができます。

手順

- ページパネルの「**パネル (Panels)**」セクションで、優先が設定されたページを選択します。

補足

優先が設定されているページは、左上端にマークが付きます。

- 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - 右クリックし、コンテキストメニューから「**前ページと入れ替え (Swap with Previous Page)**」または「**次ページと入れ替え (Swap with Next Page)**」を選択します。
 - 「**前ページと入れ替え (Swap with Previous Page)**」  または 「**次ページと入れ替え (Swap with Next Page)**」  をクリックします。
-

結果

レイアウト内のページの並び順に基づいて、選択したページの位置が前ページまたは次ページと入れ替わります。

関連リンク

[ページの優先 \(127 ページ\)](#)

フレーム

フレームを使用すると、楽譜、テキスト、グラフィックを、ページ余白の内側の任意の場所に配置できます。

フレームは長方形のボックスで、レイアウトで定義されたページ余白の内側に配置できます。**浄書モード**では、必要に応じてフレームを表示したり調節したりできます。Dorico では、作成したすべてのプロジェクトに以下のフレームを使用できます。

- 最初のページおよび後続のページに、選択したレイアウトの楽譜を表示するための楽曲フレーム。
- テキストを入力するためのテキストフレーム。

- さまざまな形式のイメージや図を読み込めるグラフィックフレーム。

すべてのフレームに、フレームの4辺と対応するページ余白の関係を定義する制限を指定できます。

関連リンク

[フロー](#) (29 ページ)

[レイアウト](#) (30 ページ)

[制限](#) (137 ページ)

ページへのフレームの挿入

手順

1. 形式設定パネルで、「**フレーム (Frames)**」セクションを有効にします。
2. 使用できるオプションのいずれかを選択します。
 - **楽曲フレームを挿入 (Insert Music Frame)** 
 - **テキストフレームを挿入 (Insert Text Frame)** 
 - **グラフィックフレームを挿入 (Insert Graphics Frame)** 
3. フレームを挿入するページで、マウスの左ボタンを押したまま動かしてフレームを描きます。
4. マウスボタンを放します。

結果

ページにフレームが表示されます。

タスク終了後の項目

フレームのサイズを変更したり、制限を定義したりできます。楽曲フレームを挿入した場合、スコアのどのパートをフレームに表示するかを指定できます。テキストフレームを挿入した場合、テキストを入力できます。グラフィックフレームを挿入した場合、グラフィックファイルを読み込めます。

関連リンク

[制限](#) (137 ページ)

[楽曲フレーム](#) (134 ページ)

[テキストフレーム](#) (136 ページ)

[グラフィックフレーム](#) (136 ページ)

[楽曲フレームセレクター](#) (139 ページ)

ヒント

たとえば、レイアウトの楽曲フレームを使用すると、脚注内の異なるフローから楽譜を一部抜粋して挿入できます。

重要

レイアウトの楽曲フレームは、マスターページより優先されます。レイアウトページの優先をすべて解除すると、レイアウトの楽曲フレームがすべて削除されます。

マスターページの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームの識別

以下を確認することで、マスターページの楽曲フレームとレイアウトの楽曲フレームを見分けられます。

- レイアウトのページでは、マスターページの楽曲フレームの個別のフローやプレーヤーの割り当てを変更できません。マスターページの楽曲フレームセクターはグレー表示され、マスターページエディターでのみ編集できます。
- レイアウトの楽曲フレームをページに挿入すると、「**フレームチェーン (Frame Chain)**」セクターでは、デフォルトでLから始まるフレームチェーン名が表示されます。マスターページの楽曲フレームには、デフォルトでMから始まるフレームチェーン名が表示されます。

関連リンク

[フレームチェーン \(135 ページ\)](#)

[マスターページ \(122 ページ\)](#)

[ページの優先 \(127 ページ\)](#)

[マスターページエディター \(126 ページ\)](#)

フレームチェーン

フレームチェーンは、楽譜をあらかじめ定義した順番で表示する楽曲フレームの集合のことです。

ページに楽曲フレームを作成すると、フレームチェーンが自動的に作成されます。Dorico のプロジェクトには、少なくとも1つの楽曲フレームが存在します。つまり、編集できるフレームチェーンも少なくとも1つ存在します。以下のタイプのフレームチェーンを作成および編集できます。

マスターページフレームチェーン

マスターページフレームチェーンは、マスターページ上でのみ作成および詳細に編集できます。マスターページに楽曲フレームを作成すると、フレームチェーンが自動的に開始されます。フレームは、フレームチェーンの後続の各ページに自動的に作成され割り当てられます。

補足

スコアが自動的に後続のページに続くようにするには、少なくとも「**最初 (First)**」および「**デフォルト (Default)**」のマスターページに楽曲フレームを作成する必要があります。

レイアウトフレームチェーン

レイアウトフレームチェーンは、個別のページのレイアウト楽曲フレームに対してのみ作成および編集できます。レイアウト内の任意のページにレイアウト楽曲フレームを作成すると、レイアウト楽曲フレームはそのページにのみ表示され、独自のフレームチェーンを開始します。レイアウト楽曲フレームを後続のページに続くようにするには、記譜内のすべてのページに楽曲フレームを作成し、すべてのフレームを最初のレイアウト楽曲フレームのレイアウトフレームチェーンに割り当てる必要があります。

関連リンク

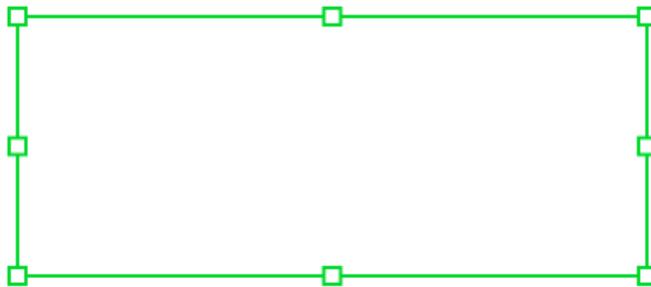
[楽曲フレーム](#) (134 ページ)

[マスターページ](#) (122 ページ)

[レイアウト](#) (30 ページ)

テキストフレーム

テキストフレームを使用すると、テキストを追加できます。



テキストフレーム

テキストを入力するには、テキストフレーム内をダブルクリックします。

関連リンク

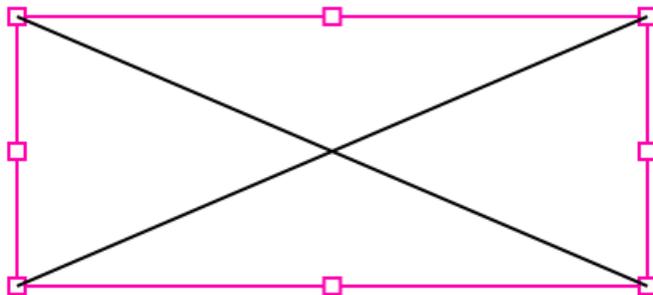
[ページへのフレームの挿入](#) (133 ページ)

グラフィックフレーム

グラフィックフレームを使用すると、さまざまな形式のイメージや図をスコアに読み込めます。

以下の形式のグラフィックファイルを読み込めます。

- .jpg、.jpeg
- .png
- .svg



グラフィックフレーム

イメージを読み込むには、グラフィックフレーム内をダブルクリックします。

関連リンク

[グラフィックフレームへのイメージの読み込み](#) (137 ページ)

グラフィックフレームへのイメージの読み込み

スコアには、コンピューターまたはサーバーからイメージを読み込めます。

手順

1. グラフィックフレーム内をダブルクリックします。
2. 開いたダイアログで、読み込むファイルを選択します。
3. 「開く (Open)」をクリックします。

結果

イメージがフレームに読み込まれます。

関連リンク

[グラフィックフレーム](#) (136 ページ)

制限

Dorico では、制限を設定することでフレームの 4 辺とそれに対応するページ余白の関係を定義します。

たとえば、1 つの楽曲フレームがページの高さと幅の全体を埋めるように配置されている場合、4 辺すべてに制限が設定されます。つまり、すべての辺のインセットが 0 となり、フレームの端とページ余白が接します。ページサイズを変更したりページ余白で定義される領域を変更したりした場合、制限によりページ余白の位置でフレームがロックされるため、フレームが拡大または縮小して、端がページ余白に接した状態のままになります。

補足

ページのサイズと余白は、レイアウトオプションで指定します。

フレームの 1 辺の制限を解除する場合 (ページ余白からフレームの 1 辺のロックを解除する場合)、固定の幅や高さを指定することで、ページサイズが変更されても辺が調整されないようにすることができます。

例

ヘッダーにフレームを配置している場合、左右の辺をページの左右の余白位置にロックできます。フレームの上側の辺を上側の余白位置にロックすることもできますが、ヘッダーの高さを固定する必要があります。この場合、下側の余白のロックを解除してフレームの1辺を動かすか、プロパティパネルのいずれかのフィールドに値を入力すると、固定の高さを指定できます。

形式設定パネルの「**フレーム (Frames)**」セクションでは、Dorico で使用できるすべてのタイプのフレームに制限を定義できます。新規フレームを作成すると、デフォルトですべての辺の制限が有効になります。フレームの2辺のロックを解除すると、固定の幅と高さを指定できます。たとえば、上側の余白のロックを解除すると、右側余白または左側余白のロックも解除できます。

関連リンク

[制限の定義 \(138 ページ\)](#)

[レイアウトオプション \(76 ページ\)](#)

制限の定義

制限を適用するフレームの辺を指定できます。

手順

1. 形式設定パネルで、「**フレーム (Frames)**」セクションを有効にします。
2. 楽譜領域で、制限を編集するフレームを選択します。
3. 「**フレーム (Frames)**」セクションの「**制限 (Constraints)**」で、制限を変更するフレームの辺に対応するロックマーク  をクリックします。
4. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - ロックが解除された辺を任意の位置に移動します。
 - プロパティパネルの「**フレーム (Frames)**」セクションで、「**高さ (Height)**」または「**幅 (Width)**」に固定値を入力します。

関連リンク

[制限 \(137 ページ\)](#)

フレーム区切り

楽譜の特定の場所にページめくりを挿入する必要がある場合、フレーム区切りによってプレーヤー用のページめくりを挿入できます。

フレーム区切りは、楽曲フレームに挿入します。楽譜の特定の場所にフレーム区切りを挿入すると、区切りのあとに続く既存の記譜記号がフレームチェーン内の次の楽曲フレームに移動します。

フレーム区切りの挿入

フレーム区切りを挿入することで、楽譜の特定の場所にページめくりを挿入できます。

手順

1. フレーム区切りを挿入する場所の音符や記譜記号を選択します。

補足

たとえば、音部記号を選択すると、選択した音部記号がラインの終わりに配置され、音符が次の楽曲フレームに移動します。

2. 以下のいずれかの操作を行ないます。
 - [Ctrl]/[command]+[Alt]+[F] を押します。
 - 「編集 (Edit)」 > 「区切り (Breaks)」 > 「フレーム区切りを作成 (Create Frame Break)」を選択します。

結果

フレーム区切り後の記譜記号はすべて次の楽曲フレームに移動します。

楽曲フレームセクター

形式設定パネルで「フレーム (Frames)」を有効にすると、楽曲フレームに複数のセクターが表示され、表示する記譜項目を変更できるようになります。

各楽曲フレームには、以下のセクターが表示されます。



補足

マスターページの楽曲フレームにある「フローでフィルター (Filter by Flows)」と「プレーヤーでフィルター (Filter by Players)」セクターは、マスターページでのみ編集できます。

1. **フレームチェーン (Frame Chain)**
楽曲フレームが属するフレームチェーンを選択できます。フレームチェーン名がMから始まるフレームは、マスターページの楽曲フレームです。Lから始まるフレームは、レイアウトの楽曲フレームです。
2. **フレームの順番 (Frame Order)**
同じフレームチェーンに属する楽曲フレームが同じページに少なくとも2つ存在する場合、このオプションを使用してフレームの順番を指定できます。
3. **フローでフィルター (Filter by Flow)**

プロジェクトに複数のフローが存在する場合、フレームに表示するフローを指定できます。

4. プレーヤーでフィルター (Filter by Player)

プロジェクトに複数のプレーヤーが存在する場合、フレームに表示するプレーヤーを指定できます。

フレームをクリックすると、フレームの4つ角と各辺の中央にハンドルが表示されます。これらのハンドルをドラッグして、フレームサイズを変更できます。ドラッグ中にハンドルの横に表示される数字は、フレームの水平位置と垂直位置を示す値です。

フレームの制限を定義している場合、プロパティパネルの「**フレーム (Frame)**」セクションにあるオプションを使用してフレームの値を指定することもできます。

関連リンク

[フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て \(140 ページ\)](#)

[ページのフレームの順番の変更 \(141 ページ\)](#)

[フレームチェーンへのフローの割り当て \(141 ページ\)](#)

[フレームチェーンへのプレーヤーの割り当て \(142 ページ\)](#)

[楽曲フレーム \(134 ページ\)](#)

[フレームチェーン \(135 ページ\)](#)

[制限 \(137 ページ\)](#)

フレームチェーンへの楽曲フレームの割り当て

既存のフレームチェーンに新規楽曲フレームを割り当てたり、「**フレームチェーン (Frame Chain)**」セクターを使用して楽曲フレームのフレームチェーンの割り当てを変更したりできます。

前提

楽曲フレームをレイアウトのフレームチェーンに割り当てするには、形式設定パネルの「**フレーム (Frames)**」セクションを有効にする必要があります。

補足

ページに新規楽曲フレームを作成すると、そのタイプに関係なく、常に新規のフレームチェーンが開始されます。

手順

- レイアウトの楽曲フレームまたはマスターページの楽曲フレームで「**フレームチェーン (Frame Chain)**」  を開き、使用するフレームチェーンを選択します。
- セクターを閉じます。

結果

フレームチェーンがフレームに割り当てられます。フレームチェーンのすべての設定がフレームに適用されます。

関連リンク

[楽曲フレーム \(134 ページ\)](#)

[楽曲フレームセレクター](#) (139 ページ)
[フレームチェーン](#) (135 ページ)

フレームチェーンから楽曲フレームのリンクを解除

フレームチェーンから楽曲フレームのリンクを解除できます。

手順

- レイアウトの楽曲フレームまたはマスターページの楽曲フレームで「**フレームチェーン** (Frame Chain)」  を開き、「**リンクを解除** (Unlink)」をクリックします。
 - セレクターを閉じます。
-

ページのフレームの順番の変更

単一のページに同じタイプの楽曲フレームが少なくとも 2 つ存在する場合、音符を最初に入力するフレームを変更できます。

手順

- いずれかの楽曲フレームを選択します。
 - フレーム内で「**フレームの順番** (Frame Order)」  を開き、フレームの序数を選択します。
 - セレクターを閉じます。
-

結果

選択した序数の割り当てられていたフレームと順番が入れ替わります。

関連リンク

[楽曲フレームセレクター](#) (139 ページ)

フレームチェーンへのフローの割り当て

異なるフレームチェーンに異なるフローを表示できます。

補足

フローは、マスターページの楽曲フレームにのみ割り当てることができます。

手順

- ページパネルの「**マスターページ** (Master Pages)」セクションで見開きのマスターページをダブルクリックして、マスターページエディターを開きます。
 - マスターページの楽曲フレームで「**フロー** (Flows)」  を開き、楽曲フレームに表示するフローを選択します。
 - セレクターとマスターページエディターを閉じます。
-

結果

楽曲フレームに選択したフローが表示されます。

関連リンク

[楽曲フレーム](#) (134 ページ)

[楽曲フレームセレクトター](#) (139 ページ)

[フレームチェーン](#) (135 ページ)

フレームチェーンへのプレイヤーの割り当て

異なるフレームチェーンに異なるプレイヤーを表示できます。

補足

プレイヤーは、マスターページのフレームチェーンにのみ割り当てることができます。

手順

1. ページパネルの「**マスターページ (Master Pages)**」セクションで見開きのマスターページをダブルクリックして、マスターページエディターを開きます。
 2. マスターページの楽曲フレームで、「**プレイヤーでフィルター (Filter by Player)**」
を開き、楽曲フレームに表示するプレイヤー (1 人または複数) を選択します。
 3. セレクトターとマスターページエディターを閉じます。
-

関連リンク

[楽曲フレーム](#) (134 ページ)

[楽曲フレームセレクトター](#) (139 ページ)

[フレームチェーン](#) (135 ページ)

浄書モードのプロパティ

浄書モードでは、音符、記譜記号、またはその部位を個別にまたはグローバルに編集できます。

音符や記譜記号を個別に編集するには、スコア上でアイテムを選択し、プロパティパネルから直接変更します。音符や記譜記号をグローバルに編集するには、浄書オプションを使用します。

関連リンク

[プロパティパネルのオプション](#) (144 ページ)

[浄書オプション](#) (142 ページ)

浄書オプション

「**浄書オプション (Engraving Options)**」ダイアログに表示されるさまざまなオプションを使って、プロジェクト全体の楽譜の外観を変更できます。

外観を変更すると、以下のような記譜項目のプロパティに影響を与える場合があります。

- 線の太さ
- 距離

- 位置

補足

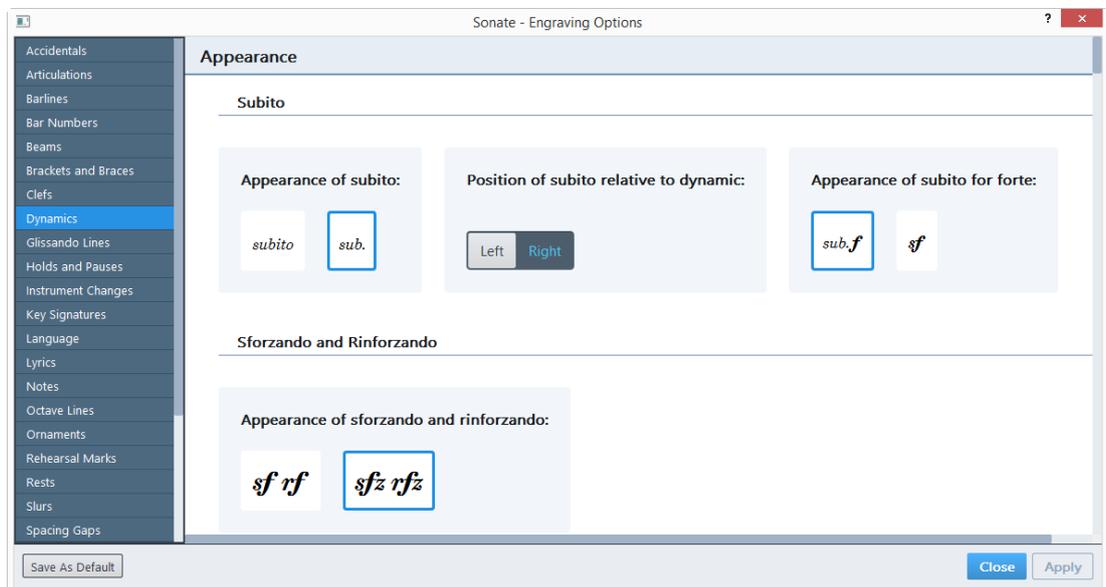
「デフォルトとして保存 (Save As Default)」をオンにすると、浄書オプションで設定したすべてのオプションを、新規プロジェクト作成時のデフォルト値として保存できます。

ヒント

個別の音符、記譜記号、またはその部位を変更するには、プロパティパネルのオプションを使用します。

「浄書オプション (Engraving Options)」ダイアログを開くには、以下のいずれかの操作を行ないます。

- 「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」を選択します。



「浄書オプション (Engraving Options)」ダイアログ

「浄書オプション (Engraving Options)」ダイアログは、記譜記号のカテゴリーリストと、表示領域に分かれています。カテゴリーを選択すると、使用できるすべてのオプションが表示領域に表示されます。表示領域では、すべてのオプションがサブカテゴリーに分かれて表示されます。

浄書モードでのプロジェクト全体の変更

浄書モードでは、プロジェクト全体の音符および記譜記号に対して変更を加えることができます。

補足

変更を加えたあとに「適用 (Apply)」をクリックせずにダイアログを閉じると、変更を保存するか破棄するかを確認するメッセージが表示されます。

手順

1. 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」を選択します。
 2. 記譜記号のリストからカテゴリーを選択します。
 3. 設定を行ないます。
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックします。
-

結果

変更内容は、すぐに楽譜領域に表示されます。

プロパティパネルのオプション

浄書モードのプロパティパネルには、音符、記譜記号、およびその部位を個別に編集するオプションが表示されます。

記譜モードのプロパティパネルに表示されるオプションはすべて、浄書モードのプロパティパネルにも表示されます。ただし、浄書モードには、音符、記譜記号、およびその部位を詳細に編集するためのオプションが追加されています。

プロパティパネルに表示されるオプションは、スコア上で選択したアイテムによって異なります。つまり、音符や記譜記号またはその部位を選択し、プロパティパネルを開くと、選択したアイテムの編集に必要なセクションと対応するオプションがプロパティパネルに表示されます。複数の異なるタイプの記譜記号を選択すると、選択した記号すべてに共通するセクションのみ表示されます。

たとえば、音符を選択すると、少なくとも「**一般 (Common)**」セクションと「**音符と休符 (Notes and Rests)**」セクションが表示されます。タイでつながれた音符とアーティキュレーションを選択すると、「**一般 (Common)**」セクション、「**音符と休符 (Notes and Rests)**」セクション、「**タイ (Ties)**」セクション、および「**アーティキュレーション (Articulations)**」セクションが表示されます。これにより、選択した音符の編集に必要なオプションがすべて表示されます。

浄書モードでの個別アイテムのプロパティの変更

音符、記譜記号、またはその部位のプロパティを表示したり変更したりできます。

補足

音符と記譜記号をプロジェクト全体でグローバルに変更するには、「**浄書オプション (Engraving Options)**」ダイアログを使用します。

手順

1. スコア上で、音符、記譜記号、またはその部位を選択します。
 2. プロパティパネルを開きます。
 3. 設定を行ないます。
-

結果

変更内容は、すぐに楽譜領域に表示されます。

関連リンク

[浄書オプション](#) (142 ページ)

[プロパティパネル](#) (119 ページ)

「一般 (Common)」セクション

プロパティパネルの「**一般 (Common)**」セクションは、楽譜領域のすべてのアイテムに対して使用できます。

補足

楽譜領域で異なるタイプのアイテムを同時に選択した場合は、「**一般 (Common)**」セクションのオプションだけを編集できます。

位置 (Position)

選択したアイテムの位置が表示されます。位置は、フローの始めからの 4 分音符の拍数で表わされます。

オフセット (Offset)

このオプションをオンにすると、「X」と「Y」フィールドで値を選択または入力して、選択したアイテムを水平または垂直方向にスペース単位で移動できます。「X」の値を設定すると水平方向、「Y」の値を設定すると垂直方向にアイテムが移動します。

ミュート (Muted)

このオプションをオンにすると、再生中、選択した音符やコードをミュートできます。強弱記号など、再生に影響する他の記譜記号もミュートできます。

カラー (Color)

このオプションをオンにすると、選択したアイテムの色を変更できます。右側のボックスをクリックします。「**色を選択 (Select Color)**」ダイアログが開きます。基本カラーから色を選択するか、画面の色をピックするか、またはカスタムカラーを指定します。

「アーティキュレーション (Articulations)」セクション

プロパティパネルの「**アーティキュレーション (Articulations)**」セクションでは、アーティキュレーションの位置や表示/非表示を変更できます。

補足

アーティキュレーションを編集するには、アーティキュレーションが付いている音符を選択する必要があります。

位置 (Placement)

選択した音符のアーティキュレーションの位置を変更できます。アーティキュレーションを符頭側と符尾側のどちらに配置するかを設定できます。

非表示 (Hidden)

選択した音符のアーティキュレーションを非表示にできます。アーティキュレーションは非表示に設定しても再生されますが、スコア上には表示されません。かわりに、「ビュー (View)」 > 「ガイド (Signposts)」を選択し、ガイドを表示できます。

タイのつながりでの位置 (Pos. in tie chain)

タイでつながれた音符の場合に、タイのつながりの最初の音符と最後の音符のどちらにアーティキュレーションを配置するかを指定できます。

オフセット Y (Offset Y)

「スペース (Spaces)」フィールドで値を選択または入力して、アーティキュレーションを垂直方向に移動できます。

「強弱記号 (Dynamics)」セクション

プロパティパネルの「強弱記号 (Dynamics)」セクションでは、選択した強弱記号の位置を編集したりスタイルを変更したりできます。

すべての強弱記号の共通オプション

開始オフセット (Start offset)

このオプションをオンにすると、「X」と「Y」フィールドで値を選択または入力して、選択した強弱記号を水平および垂直方向にスペース単位で移動できます。「X」の値を設定すると水平方向、「Y」の値を設定すると垂直方向に強弱記号が移動します。局部的強弱記号を動かした場合、記号全体が移動します。段階的強弱記号を動かした場合、記号の開始位置が移動します。

位置 (Placement)

このオプションをオンにすると、選択した強弱記号を譜表の上または下に配置できます。

括弧つき (Parenthesized)

選択した強弱記号に括弧を付けます。

先頭テキスト (Prefix)

選択した強弱記号の先頭にカスタムのテキストを追加したり、編集したりできます。たとえば、フォルティッシモ (ff) の前に「sempre」を追加できます。

末尾テキスト (Suffix)

選択した強弱記号の末尾にテキストを追加したり、編集したりできます。たとえば、フォルティッシモ (ff) のあとに「strongly」を追加できます。

強度の目印を表示 (Show intensity marking)

局部的強弱記号、結合式強弱記号、およびアタックの強弱/強度レベルを示す記号にのみ使用できます。

Dorico では、強意語である「sempre」や「strongly」などと組み合わせて、カスタムの強弱記号をスコアに入力できます。このオプションのオン/オフを切り替えると、強意語の表示/非表示が切り替わります。

拍相対位置 (Beat-relative position)

局部的強弱記号、結合式強弱記号、およびアタックの強弱/強度レベルを示す記号にのみ使用できます。

通常、強弱記号の視覚上の中央位置は音符またはコードの位置に揃えられます。このオプションをオンにすると、その拍の位置の前にある拍の終了位置に強弱記号を配置するかどうかを指定できます。ある強弱記号の前にクレッシェンドかディミヌエンドがあり、この段階的強弱記号の終わりにあたる位置に音符やコードがない場合、強弱記号は自動的に、段階的強弱記号の影響を受ける最後の拍の終わりの位置に配置されます。この場合、強弱記号を次の拍の位置に移動できます。

以下のオプションが表示されます。

- **前 (Before)**
最後の拍の終わりの位置に強弱記号を配置します。
- **後 (After)**
最後の拍の次の拍の位置に強弱記号を配置します。

テキストの整列 (Text alignment)

局部的強弱記号、結合式強弱記号、およびアタックの強弱/強度レベルを示す記号にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、強弱記号をその記号が割り当てられた音符に揃えられます。以下のオプションが表示されます。

- **オーナメントの中央位置を符頭に合わせて揃える (Align optical center with notehead)** 
強弱記号の中央と符頭が揃えられます。
- **符頭に合わせて左寄せ (Left-align with notehead)** 
強弱記号の開始位置が符頭の先端に揃えられます。

段階的強弱記号のオプション

終了オフセット (End offset)

このオプションをオンにすると、「X」と「Y」フィールドで値を選択または入力して、選択した強弱記号の終端を水平および垂直方向にスペース単位で移動できます。「X」の値を設定すると水平方向、「Y」の値を設定すると垂直方向に強弱記号が移動します。

タイプ (Type)

段階的強弱記号のタイプとして、「クレッシェンドまたはディミヌエンド (Cresc. or dim.)」または「Messa di voce」のいずれかを選択できます。「クレッシェンドまたはディミヌエンド (Cresc. or dim.)」を選択すると、「段階的

強弱記号のスタイル (Gradual style) ポップアップメニューが使用可能になり、さまざまなテキスト表記とヘアピン表記から選択できます。

段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)

段階的強弱記号のタイプとして、「**クレッシェンドまたはディミヌエンド (Cresc. or dim.)**」をオンにした場合にのみ使用できます。

ヘアピン、省略形のテキスト表記、ハイフン付きのテキスト表記から選択できます。

ヘアピン線スタイル (Hairpin line style)

「**段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)**」ポップアップメニューで「**ヘアピン (Hairpin)**」を選択した場合、または段階的強弱記号のタイプとして「**Messa di voce**」を選択した場合にのみ使用できます。

ここではヘアピンの線をどのように表示するかを選択できます。以下のオプションが表示されます。

- **実線 (Solid)** 
ヘアピンを実線で表示します。
- **破線 (Dashed)** 
ヘアピンを破線で表示します。
- **点線 (Dotted)** 
ヘアピンを点線で表示します。

Niente

クレッシェンド、ディミヌエンド、またはメッサ・ディ・ヴォーチェにニエンテを追加します。

ニエンテスタイル (Niente style)

「**段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)**」ポップアップメニューで「**ヘアピン (Hairpin)**」を選択した場合、または段階的強弱記号のタイプとして「**Messa di voce**」をオンにした場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、選択したニエンテに対して以下のいずれかのスタイルを選択できます。

- **ヘアピン記号に丸 (Circle on hairpin)** 
ディミヌエンドの終端またはクレッシェンドの始端に小さい丸を追加します。
- **テキスト (Text)** 
ディミヌエンドの終端またはクレッシェンドの始端に「n」を追加します。

Poco a poco (少しずつ) (Poco a poco (little by little))

クレッシェンド、ディミヌエンド、またはメッサ・ディ・ヴォーチェに「poco a poco」を追加します。

省略 (Abbreviate)

「**段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)**」ポップアップメニューでテキスト表記のクレッシェンド/ディミヌエンドを選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、選択したクレッシェンド/ディミヌエンドのテキスト表記が省略形で表示されます。

ヘアピンの延長表示 (Hairpin shown as continuation)

隣り合った同じ向きのヘアピンの間に局部的強弱記号がある場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、隣り合ったヘアピンが調整され、1つのヘアピンとして表示されます。

メッサ・ディ・ヴォーチェの変化 (Messa di voce inflection)

段階的強弱記号のタイプとして、「**Messa di voce**」を選択した場合にのみ使用できます。

メッサ・ディ・ヴォーチェの変換点は、最初のヘアピンが終わり、次のヘアピンが始まる位置です。変換点はメッサ・ディ・ヴォーチェの作成時に、強弱記号の範囲にある音符の位置に基づき自動的に決まります。

このオプションをオンにすると、変換点の位置を調節できます。左側のフィールドの値はプライマリー位置で、4分音符の分数で指定します。右側のフィールドの値にはセカンダリー位置を指定します。この値はプライマリー位置での装飾音符の音価を使用して指定します。

ヘアピン開口部 (Hairpin open aperture)

「**段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)**」ポップアップメニューで「**ヘアピン (Hairpin)**」を選択した場合、または段階的強弱記号のタイプとして「**Messa di voce**」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、ヘアピン開口部の2本線の間の距離を変更できます。強弱記号のタイプとして「**Messa di voce**」を選択している場合、変換点の位置における2本線の間の距離が変わります。「**スペース (Spaces)**」フィールドでは、この距離の値を入力または選択できます。

補足

「**ヘアピン閉口部 (Hairpin closed aperture)**」オプションを編集した場合に、このスペースが「**ヘアピン開口部 (Hairpin open aperture)**」オプションで指定した「**スペース (Spaces)**」の値を超えている場合、開口部の広さが閉口部より常に大きくなるよう、開口部の広さが自動的に調整されます。そのため、ヘアピンの2本線が完全に並行になることはありません。

ヘアピン閉口部 (Hairpin closed aperture)

「**段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)**」ポップアップメニューで「**ヘアピン (Hairpin)**」を選択した場合、または段階的強弱記号のタイプとして「**Messa di voce**」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、ヘアピン閉口部の2本線間の距離を変更できます。強弱記号のタイプとして「Messa di voce」を選択している場合、変換点の位置における2本線間の距離が変わります。「スペース (Spaces)」フィールドでは、この距離の値を入力または選択できます。

補足

「ヘアピン閉口部 (Hairpin closed aperture)」オプションを編集した場合に、このスペースが「ヘアピン開口部 (Hairpin open aperture)」オプションで指定した「スペース (Spaces)」の値を超えている場合、開口部の広さが閉口部より常に大きくなるよう、開口部の広さが自動的に調整されます。そのため、ヘアピンの2本線が完全に並行になることはありません。

ヘアピンの太さ (Hairpin thickness)

段階的強弱記号のスタイルで「ヘアピン (Hairpin)」を選択した場合、または段階的強弱記号のタイプとして「Messa di voce」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、「スペース (Spaces)」フィールドでヘアピン線の太さを変更できます。

ディミヌエンドスタイル (Diminuendo style)

ディミヌエンドの表記として、「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」ポップアップメニューで「cresc./dim.」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、ディミヌエンドを表わすテキスト表記を選択でき、diminuendoとdecrecendoの用語間で切り替えできます。

補足

デフォルトのディミヌエンドのテキスト表記は、浄書オプションで指定できます。「浄書 (Engrave)」>「浄書オプション (Engraving Options)」>「強弱記号 (Dynamics)」>「ダイナミクスの段階的減少を示す記号の外観 (Appearance of gradual reduction in dynamic)」を選択します。

小節線との交差 (Barline interaction)

このオプションをオンにすると、ヘアピンを小節線の前で終了するか、小節線を越えて継続するかを設定できます。

延長線のスタイル (Continuation line style)

「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」ポップアップメニューで「cresc....」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、強弱変化の長さを示す線を破線にするか点線にするかを指定できます。

延長線の点のサイズ (Continuation line dot size)

「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」ポップアップメニューで「cresc....」を選択し、「延長線のスタイル (Continuation line style)」で「点線 (Dotted)」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、「スペース (Spaces)」フィールドで延長線に使用する点線の点のサイズを変更できます。

延長線の点の間隔 (Continuation line dot gap)

「段階的強弱記号のスタイル (Gradual style)」ポップアップメニューで「cresc....」を選択し、「延長線のスタイル (Continuation line style)」で「点線 (Dotted)」を選択した場合にのみ使用できます。

このオプションをオンにすると、「スペース (Spaces)」フィールドで延長線に使用する点線の点同士の間隔を変更できます。

アタックの強弱/強度レベルのオプション

リンフォルツァンド/スフォルツァンドスタイル (rfz/sfz style)

このオプションをオンにすると、アタックの強弱/強度レベルを示す記号にzを付けて表示するかどうかを設定できます。

結合式強弱記号のオプション

区切り用文字の表示 (Separator shown)

このオプションをオンにすると、結合式強弱記号の間に区切り用文字を挿入できます。

区切り用文字 (Separator)

このオプションをオンにすると、ポップアップメニューで区切り用文字のタイプを指定できます。

「歌詞 (Lyrics)」セクション

プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」セクションでは、選択した音節や歌詞全体の設定を変更できます。

音節タイプ (Syllable type)

選択した音節のタイプを変更できます。

ラインの配置 (Line placement)

選択した音節を譜表の上または下に移動できます。

ライン番号 (Line number)

選択した音節のライン番号を変更できます。

コーラス (Chorus)

このオプションをオンにすると、音節を選択してコーラス用の歌詞に設定できます。コーラス用歌詞は、既存の他の歌詞ラインに対して中央揃えされます。コーラス用歌詞は斜体で表示されます。

訳詞 (Is translation)

このオプションをオンにすると、歌詞のラインを訳詞に指定できます。訳詞は斜体で表示されます。

歌詞のテキストを整列 (Lyric text alignment)

このオプションをオンにすると、選択した音節を符頭に対して水平方向に整列できます。デフォルトでは、音節は音符の下に中央揃えされます。

関連リンク

[歌詞のライン番号の変更 \(103 ページ\)](#)

[音節のライン番号の変更 \(104 ページ\)](#)

[歌詞内での音節の整列 \(106 ページ\)](#)

「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」 セクション

プロパティパネルの「リハーサルマーク (Rehearsal Marks)」セクションでは、選択したリハーサルマークのタイプと開始番号の設定を変更できます。

シーケンスタイプ (Sequence type)

このオプションをオンにすると、選択したリハーサルマークを文字、数字、現在の小節番号のうち、どのタイプで表示するか選択できます。

インデックス (Index)

「シーケンスタイプ (Sequence type)」で「数字 (Numbers)」または「文字 (Letters)」を選択し、このオプションをオンにした場合、リハーサルマークの開始文字または数字を設定できます。

「トリル (Trills)」 セクション

プロパティパネルの「トリル (Trills)」セクションでは、選択したトリルとトリル線の位置と外観を変更できます。

位置 (Placement)

このオプションをオンにすると、トリルを譜表の上または下に配置できます。

開始スピード (Start speed)

このオプションをオンにすると、トリルの始めのスピードを指定できます。トリル線の形状は設定内容に応じて自動的に変わります。

終了スピード (End speed)

このオプションをオンにすると、トリルの終わりのスピードを指定できます。トリル線の形状は設定内容に応じて自動的に変わります。

トリル線を表示 (Has trill line)

このオプションをオンにすると、トリルにトリル線を付けるかどうかを指定できます。

開始位置 (Start position)

このオプションをオンにすると、トリルを符頭位置から開始するか音符に付いている臨時記号の位置から開始するかを指定できます。

予備間隔の位置 (Extra gap position)

このオプションをオンにすると、トリル線の始めと終わりのどちらに間隔を空けるかを指定できます。

音程 (Interval)

このオプションをオンにすると、トリルで使用する2つの音の音程をどれくらい離すかを半音の個数で指定できます。

臨時記号の位置 (Accidental position)

このオプションをオンにしている、トリルの音程に臨時記号を使用している場合、臨時記号をトリルの上、下、同列のいずれに配置するか指定できます。

開始オフセット (Start offset)

このオプションをオンにすると、「X」と「Y」フィールドで値を選択または入力して、選択したトリルの開始位置を水平および垂直方向にスペース単位で移動できます。「X」の値を設定すると、トリルが開始位置から水平方向に移動し、「Y」の値を設定するとトリルが垂直方向に移動します。

終了オフセット X (End offset X)

このオプションをオンにすると、「X」フィールドで値を選択または入力して、選択したトリル線の終了位置を移動できます。

スラー、連符、オクターブ線内 (Inside slurs, tuplets, and octave lines)

このオプションをオンにすると、選択したトリルがスラー、連符、またはオクターブ線の内側に配置されます。

印刷モード

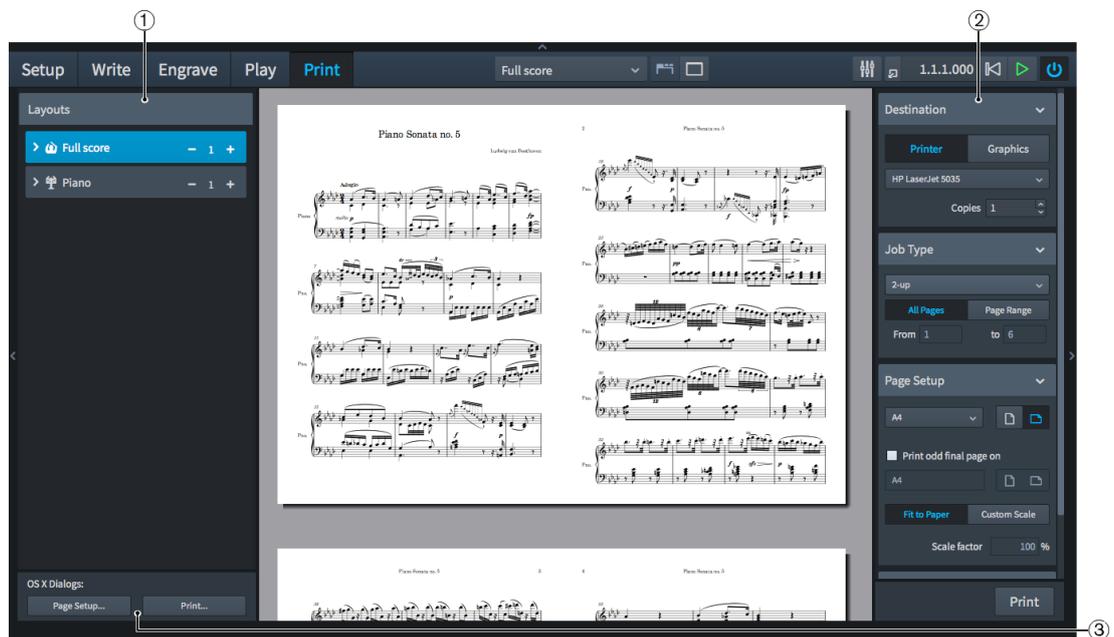
印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、グラフィックファイルとして書き出したりできます。

印刷モードのプロジェクトウィンドウ

印刷モードのプロジェクトウィンドウは、初期設定ツールバー、印刷プレビュー領域に加え、レイアウトの印刷や書き出しの準備に必要なすべてのツールと機能を含むパネルとセクションで構成されています。

印刷モードを開くには、以下のいずれかの方法があります。

- ツールバーで「印刷 (Print)」を選択します。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「印刷 (Print)」を選択します。



印刷モードのパネルとセクション

以下のパネルとセクションが表示されます。

1. 「レイアウト (Layouts)」パネル
プロジェクトのすべてのレイアウトのリストが表示され、印刷または書き出しを行なう対象を選択できます。
2. 印刷オプションパネル

レイアウトの印刷または書き出しのオプションで構成されています。

3. OS X/macOS: 「OS X **ダイアログ**: (OS X Dialogs:)」 セクション
Mac OS 固有の印刷オプションで構成されています。

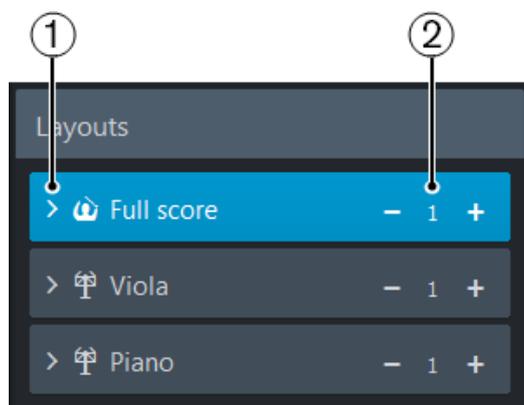
関連リンク

[ツールバー \(36 ページ\)](#)

[印刷プレビュー領域 \(40 ページ\)](#)

レイアウトパネル

印刷モードでは、「**レイアウト (Layouts)**」パネルにプロジェクトの全レイアウトがリスト表示されます。ここからレイアウトを選択して、印刷や書き出しを行なえます。



1. 各レイアウトを拡大して、ページサイズとページ数を確認できます。この機能は、各レイアウトにどの種類のジョブタイプを使用するかを判断するのに役立ちます。

ヒント

2 ページで構成されるレイアウトは、2 ページを 1 ページに集約して印刷することをおすすめします。5 ページあるレイアウトの場合は、見開きで印刷して、最後のページを異なるページサイズで印刷することをおすすめします。12 ページあるレイアウトは、冊子として印刷することをおすすめします。

2. 印刷する部数が表示されます。

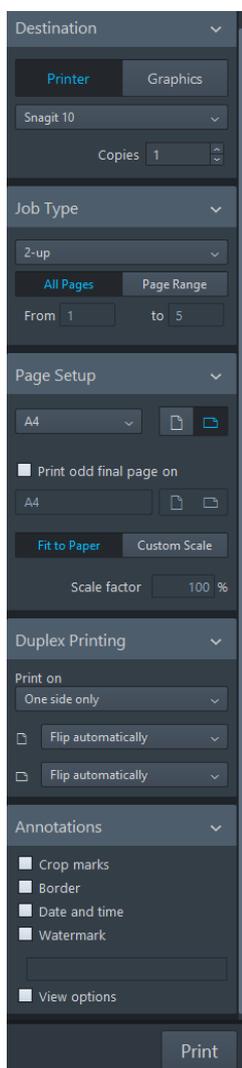
「**印刷 (Print)**」または「**書き出し (Export)**」をクリックすると、ここで選択した部数のレイアウトの印刷または書き出しが行なわれます。

補足

複数のレイアウトを選択しており、一部を印刷に設定し、その他をグラフィックの書き出しに設定すると、ボタンは「**印刷と書き出し (Print and Export)**」と表示されます。

印刷オプションパネル

印刷オプションパネルは、レイアウトの印刷または書き出し用のオプションで構成されています。



印刷オプションパネルで設定するすべてのオプションはプロジェクトに保存されます。オプションは、以下の5つのセクションに分かれています。

出力先 (Destination)

印刷する際の物理プリンターを選択したり、グラフィックファイルを書き出す際のファイルの保存場所を選択したりできます。楽譜を印刷する場合は印刷部数を選択できます。グラフィックファイルの書き出しを選択した場合、保存ファイルの形式と出力先を指定できます。

選択した出力先によって、パネルの一番下にあるボタンの表示が「印刷 (Print)」 / 「書き出し (Export)」の間で切り替わります。

補足

複数のレイアウトを選択しており、一部を印刷に設定し、その他をグラフィックの書き出しに設定すると、ボタンは「**印刷と書き出し (Print and Export)**」と表示されます。

ジョブタイプ (Job Type)

印刷または書き出しを行なうページの範囲と、どのように編集するかを選択できます。

ページ設定 (Page Setup)

用紙のサイズと向きを設定できます。印刷または書き出しを行なうイメージの倍率を指定できます。

両面印刷 (Duplex Printing)

用紙の片面に印刷するか、両面に印刷するかを選択できます。このオプションは、「**出力先 (Destination)**」セクションで「**プリンター (Printer)**」を選択した場合にのみ使用できます。

注釈 (Annotations)

通常、出版社や印刷所で必要とされる、トンボや印刷するイメージを囲む枠線などのオプションをオンにできます。

レイアウトの印刷

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、印刷するレイアウトを選択します。
 2. 印刷オプションパネルの「**出力先 (Destination)**」セクションで、「**印刷 (Print)**」を選択します。
 3. 必要に応じて、その他の印刷オプションを設定します。
 4. 「**印刷 (Print)**」をクリックします。
-

関連リンク

[複数のレイアウトの印刷/書き出し \(163 ページ\)](#)

プリンターの選択

各レイアウトに対して、適切な結果を得るのに最も有用なプリンターを選択できます。

Dorico は、別のプリンターを指定しない限り、オペレーティングシステムで指定された初期設定のプリンターを設定します。この場合、以下のセクションの設定が変わる可能性があります。

- 「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションでは、使用できる用紙サイズのリストには、選択されたプリンターが対応する用紙サイズのみ表示されます。
- 「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションでは、選択されたプリンターが自動両面印刷機能に対応している場合のみ、この機能のオプションが表示されます。

手順

- 「出力先 (Destination)」セクションで、ポップアップメニューからプリンターを選択します。
-

結果

選択したレイアウトのすべてを同じプリンターで印刷するよう設定した場合、「出力先 (Destination)」セクションのプリンターポップアップメニューにはプリンター名が1つだけ表示されます。新しいプリンターを選択すると、すべての選択したレイアウトがそのプリンターで印刷されるよう設定されます。

関連リンク

[複数のレイアウトの印刷/書き出し \(163 ページ\)](#)

印刷部数の指定

各レイアウトに対して、印刷する部数を指定できます。

手順

1. 「レイアウト (Layouts)」パネルで、レイアウトを選択します。
 2. 部数を変更するには、以下のいずれかの操作を行います。
 - 選択したレイアウトで、「+」または「-」をクリックします。
 - 印刷オプションパネルの「出力先 (Destination)」セクションで、「部数 (Copies)」フィールドに部数を入力します。
-

結果

複数のレイアウトを選択している場合、選択したレイアウトのすべてを同じ部数印刷するよう設定すると、「部数 (Copies)」フィールドに数字が1つだけ表示されます。「部数 (Copies)」フィールドに新しい部数を入力すると、選択した各レイアウトに設定されている部数が上書きされます。

両面印刷

Dorico は両面印刷に対応しており、用紙の両面に印刷できます。

自動両面印刷対応のプリンターであれば、Dorico でこの機能を使用できます。用紙の片面にしか印刷できないプリンターであっても、両面印刷機能を使用できます。

印刷面

片側のみ (One side only)

用紙の片面にのみ印刷します。

両側 (手動) (Both sides manually)

用紙の両面に印刷します。プリンターに自動両面印刷機能が搭載されていない場合は、このオプションを使用します。すべての表面側のページがプリンターに送信された後、印刷済みのページのまとまりを裏返して、プリンターに戻すことを

促すメッセージボックスが表示されます。「OK」をクリックして裏面側のページの印刷を続行します。

両側 (自動) (Both sides automatically)

自動的に用紙の両面に印刷します。このオプションは、プリンターがこのタイプの印刷をサポートしている場合にのみ有効になります。

印刷イメージの反転

下側のポップアップメニューで、用紙の裏面に印刷する際に印刷イメージをどのように反転するかを指定できます。

裏面のイメージ反転 (縦方向給紙の場合)

印刷用紙の向きを縦にして印刷する場合に、どのようにイメージを反転するかを決定します。

- 「**自動反転 (Flip automatically)**」では、初期設定を使用して裏面を印刷します。期待とは異なる向きに反転される場合は、他のいずれかのオプションを使用して修正します。
- 「**長辺とじ (Flip long side)**」では、ページが横向きに反転されます。
- 「**短辺とじ (Flip short side)**」では、ページが縦向きに反転されます。

裏面のイメージ反転 (横方向給紙の場合)

印刷用紙の向きを横にして印刷する場合に、どのようにイメージを反転するかを決定します。

- 「**自動反転 (Flip automatically)**」では、初期設定を使用して裏面を印刷します。期待とは異なる向きに反転される場合は、他のいずれかのオプションを使用して修正します。
- 「**長辺とじ (Flip long side)**」では、ページが横向きに反転されます。
- 「**短辺とじ (Flip short side)**」では、ページが縦向きに反転されます。

関連リンク

[両面印刷の設定 \(159 ページ\)](#)

両面印刷の設定

手順

1. 「**両面印刷 (Duplex Printing)**」セクションで、「**印刷面 (Print on)**」ポップアップメニューからいずれかのオプションを選択します。
2. 必要に応じて、下側のポップアップメニューで、用紙の裏面に印刷する際に印刷イメージをどのように反転するかを指定します。

関連リンク

[両面印刷 \(158 ページ\)](#)

Mac OS 固有の印刷オプションの指定 (OS X のみ)/(macOS のみ)

Dorico では、お使いのオペレーティングシステムの標準印刷オプションにアクセスできません。

補足

オペレーティングシステムの標準印刷オプションを使用する場合、印刷オプションパネルの設定は無視されます。Mac OS 固有の印刷設定はプロジェクトに保存されません。そのため、印刷するたびに設定する必要があります。一方、Dorico の印刷オプションは必ずプロジェクトに保存されます。

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルの「**OS X ダイアログ (OS X Dialogs)**」セクションで、「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
 2. 開いたダイアログで、用紙サイズを設定します。
 3. 「**OS X ダイアログ (OS X Dialogs)**」セクションで、「**印刷 (Print)**」をクリックします。
 4. 開いたダイアログで、印刷オプションを設定します。
-

グラフィックファイルとしての書き出し

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、書き出すレイアウトを選択します。
 2. 印刷オプションパネルの「**出力先 (Destination)**」セクションで、「**グラフィック (Graphics)**」を選択します。
 3. 必要に応じて、書き出しオプションを設定します。
 4. 「**書き出し (Export)**」をクリックします。
-

関連リンク

[書き出すグラフィックの出力形式の指定 \(160 ページ\)](#)

書き出すグラフィックの出力形式の指定

レイアウトは、さまざまなグラフィック出力形式で書き出すことができます。

前提

「**出力先 (Destination)**」セクションで、「**グラフィック (Graphics)**」を選択しておきます。

手順

1. 「**ファイル形式 (File Format)**」ポップアップメニューから、ファイル形式を選択します。
2. カラーモードを指定します。
 - 「**白黒 (Mono)**」では、白黒でグラフィックを書き出します。

- 「**カラー (Color)**」では、フルカラーでグラフィックを書き出します。

補足

グラフィックファイルを解像度 72dpi で書き出す場合は、「**カラー (Color)**」をおすすめします。「**白黒 (Mono)**」を選択すると、線が消える場合があります。

3. PNG および TIFF ファイル形式の場合は、必要に応じて、「**解像度 (Resolution)**」ポップアップメニューから、dpi 値を 1 つ選択します。

補足

解像度 72dpi は画面での表示に適しており、グラフィックを電子メールや Web サイトに埋め込む場合に使用できます。300dpi や 600dpi を選択すると解像度の高いイメージが保存され、ワードプロセッシングや DTP ドキュメントに掲載する図として使用できます。

関連リンク

[白黒とカラーのグラフィック処理 \(161 ページ\)](#)

[PDF ファイルと SVG ファイルでのフォントの埋め込み \(161 ページ\)](#)

白黒とカラーのグラフィック処理

多くの楽譜は白黒のため、黒インクのみを使用し、通常は白または白に近い色の紙に印刷します。一部の教則本では、音部記号を分類する、ピッチに従って音符に色を付けるなど、特定の記譜を強調するためにカラーを使用する場合があります。グラフィックファイルを書き出して、手元のプリンターで印刷する場合、「**出力先 (Destination)**」セクションで「**カラー (Color)**」を選択したままにできます。

しかし、グラフィックファイルを PDF 形式で書き出して、プレートセッターで直接印刷したり、ページレイアウトプログラムでさらに制作作業を行ったりする場合は、レイアウトにカラーの要素が含まれていなければ、「**白黒 (Mono)**」を選択します。「**白黒 (Mono)**」を選択すると、Dorico は、印刷するイメージに確実に黒インクのみが使用されるよう、別のカラースペースを使用して PDF を書き出します。「**カラー (Color)**」を選択すると、レイアウトの黒の要素をリッチブラックとして書き出します。その結果、黒は複数のカラーインクを掛け合わせて作成されます。これにより、プリプレス段階で色分解を行なう際に、制作物に問題が発生する可能性があります。

Dorico は、プレートセッターやその他の業務用印刷機械で使用されている CMYK カラーモデルではなく、RGB カラーモデルを使用してカラーを指定します。レイアウトにカラーオブジェクトがあり、レイアウトを業務用として印刷する場合、Dorico から別のグラフィックアプリケーションに書き出されたグラフィックファイルをポストプロセスして、RGB から CMYK に変換する必要があります。

PDF ファイルと SVG ファイルでのフォントの埋め込み

PDF ファイルと SVG (Scalable Vector Graphics) ファイルでフォントをどのように扱うかは、主にプロジェクトで使用するフォントによって決まります。

PDF ファイル

Dorico に付属している音楽フォントとテキストフォントおよびそのサブセットは、書き出し中に PDF ファイルに埋め込まれます。別のコンピューターで PDF

ファイルを開くと、ドキュメントで使用されているフォントがコンピューターにインストールされていなくても、同じ見た目で表示されます。別のフォントを使用している場合は、そのフォントが埋め込み可能であることを確認してください。

SVG ファイル

SVG ファイルには、直接フォントを埋め込むことはできません。符頭、アーティキュレーション、臨時記号といった一部のフォント文字はアウトライン化されるので、元のフォントには依存しません。拍子記号や連符の数字などその他のフォントは、元のフォントへの参照を使用してのみエンコードされます。この仕組みは、譜表ラベル、テンポの指示、強弱記号などの通常のテキストでも同様です。そのため、使用されているフォントがインストールされていないコンピューターの Web ブラウザーでレンダリングした場合、SVG ファイルでは正確な見目が再現されません。SVG ファイルがどのように表示されるかは、ブラウザやレンダリングソフトウェア、コンピューターにインストールされているフォントによります。

Web サイトに埋め込まれた SVG ファイルを正しく表示するには、SVG ファイルをイラストレーションプログラムで開き、すべてのフォント文字をアウトライン化してから、再度 SVG ファイルに書き出して、そのファイルを埋め込みます。または、Web フォントを使用して、必要なフォントを確実に Web サーバーで表示することもできます。

Dorico から書き出した SVG グラフィックは、完全な SVG 仕様に含まれる機能のサブセットを定義する SVG Tiny 1.1 仕様に適合します。

SVG での Web フォントの使用については、Steinberg Knowledge Base (https://www.steinberg.net/en/support/knowledgebase_new.html) を参照してください。

書き出し先 (フォルダー) の指定

グラフィックファイルを保存するフォルダーへのパスを指定したり、それぞれの書き出すファイルに情報を追加したりできます。

Dorico は、初期設定では、グラフィックファイルをプロジェクトファイルと同じフォルダーに書き出します。プロジェクトをまだ保存していない場合、グラフィックファイルはお使いのオペレーティングシステムのデフォルトのユーザーフォルダーに保存されます。書き出したグラフィックは、別のフォルダーに保存できます。

手順

1. 「出力先 (Destination)」セクションで、「保存先のフォルダー (Destination folder)」ボックスの横の「フォルダーを選択 (Choose Folder)」をクリックします。
2. ダイアログで保存先を選択して、「開く (Open)」をクリックします。
新しいパスが「保存先のフォルダー (Destination folder)」フィールドに挿入されます。
3. 書き出した日時をファイル名に追加する場合は、「ファイル名に日付を追加 (Include date in file name)」をオンにします。

補足

日付は ISO 8602 形式で追加されます (例: 2016-05-01-143723)。

結果

書き出したファイルは以下のとおり保存されます。<プロジェクト名> <レイアウト名> <日付>.<ファイル拡張子>

例: MyProject Soprano 2016-05-01-143723.pdf

複数のレイアウトの印刷/書き出し

複数のレイアウトの印刷または書き出しを同時に行なえます。

手順

1. 「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、印刷または書き出しを行なうレイアウトを選択します。
 - レイアウトを範囲選択するには、[Shift] を押しながら、選択する範囲の最初と最後のレイアウトを選択します。
 - レイアウトを個別に複数選択するには、[Ctrl]/[command] を押しながら、レイアウトを選択します。
 2. 「**印刷 (Print)**」 / 「**書き出し (Export)**」 / 「**印刷と書き出し (Print and Export)**」をクリックします。
-

関連リンク

[プリンターの選択](#) (157 ページ)

印刷/書き出し用のレイアウトページ配置

Dorico には、レイアウトの印刷/書き出しに使用できる複数のページ配置があります。

ジョブタイプ

「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションでは、レイアウトをどのように印刷/書き出しするかを指定できます。「**ジョブタイプ (Job Type)**」ポップアップメニューには、以下のジョブタイプが含まれます。

標準 (Normal)

1 ページを 1 枚の用紙に印刷します。

見開き (Spreads)

2 ページを 1 枚の用紙に並べて印刷します。奇数ページは右側に、偶数ページは左側に印刷されます。

2 ページを 1 ページに集約 (2-up)

2 ページを 1 枚の用紙に並べて印刷します。範囲の最初のページは、最初の用紙の左側に印刷されます。

冊子印刷 (Booklet)

面付けの要件に従って、2 ページを 1 枚の用紙に印刷します。用紙を折り曲げると本のようにページが配置されます。

補足

冊子印刷は、すべてのページ範囲を印刷する場合にのみ使用できます。ページ範囲は指定できません。

補足

- Dorico は、選択したジョブタイプに応じて、向きを切り替えます。向きが変更されると、すぐに楽譜領域に表示されます。表示された結果を変更したい場合、「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで向きを設定を上書きできます。
 - すべてのジョブタイプは、片面印刷、両面印刷のどちらにも対応しています。
-

ヒント

「冊子印刷」、「見開き」、「2 ページを 1 ページに集約」は、通常横向きで印刷されます。1 ページを 1 枚に印刷する場合は、レイアウト自体で横向きを使用していない限り、通常縦向きになります。

ページ範囲

「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションで、印刷/書き出しするページ範囲を指定できます。以下のオプションが表示されます。

全ページ (All Pages)

選択したレイアウトの全ページの印刷/書き出しを行なえます。

ページ範囲 (Page Range)

印刷するページの範囲を設定できます。

ページ範囲の印刷/書き出し

印刷/書き出しを行なうページの範囲を指定できます。

Dorico は、初期設定では、選択したレイアウトの全ページの印刷/書き出しを行ないます。この設定は、ページ範囲を指定することで変更できます。

補足

冊子印刷は、すべてのページ範囲を印刷する場合にのみ使用できます。ページ範囲は指定できません。

手順

1. 「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションで、「**ページ範囲 (Page Range)**」を選択します。
 2. 「**開始 (From)**」と「**終了 (to)**」フィールドで、範囲の最初のページと最後のページを指定します。
 3. 「**印刷 (Print)**」 / 「**書き出し (Export)**」 / 「**印刷と書き出し (Print and Export)**」をクリックします。
-

ページサイズと用紙サイズの操作

Dorico では、ページサイズと用紙サイズを別々に操作できます。

プロジェクトの各レイアウトに対して、レイアウトオプションでページサイズを定義できます。これは、レイアウトの範囲を定義するということです。レイアウトを印刷するには、通常、使用するプリンターがサポートする用紙サイズを選択する必要があります。

通常、レイアウトのページサイズと印刷する用紙サイズは同一です。しかし、10" x 13" (パート用の標準ページサイズの1つ) といった、プリンターがサポートしていない特殊なページサイズをレイアウトで定義した場合、レイアウトを異なる用紙サイズに印刷しなくてはならない場合があります。必要に応じて、「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで用紙サイズを変更できます。用紙サイズを変更しても、レイアウトのページサイズには影響しないため、楽譜内の配置は変更されません。

特定の用紙サイズを選択していない場合、Dorico は、コンピューターのロケール設定に基づいた用紙サイズを自動的に選択します。たとえば、これらがヨーロッパの国に設定されていると、A4 などの国際 ISO 規格が使用されます。また、北米の国に設定されていると、US レターなどの規格が使用されます。

一般的な規格よりも大きいページサイズを定義した場合、Dorico は、プリンターがサポートする一段階大きい用紙サイズを自動的に選択します。たとえば、レイアウトのページサイズが A4/US レターよりも大きい場合、A3/タブロイドが使用されます。

レイアウトのページサイズと異なる用紙サイズに印刷する場合、Dorico は、イメージを用紙に合わせて自動的に拡大縮小します。「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションでカスタム尺度の倍率を指定することで、この設定を変更できます。

関連リンク

[ページ設定 \(165 ページ\)](#)

ページ設定

印刷または書き出しを行なう各レイアウトに対して、用紙サイズと印刷の向きを指定できます。

「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションには、以下のオプションが表示されます。

用紙サイズ (Paper Size)

いずれかの使用できる用紙サイズを選択できます。さらに、「**縦 (Portrait)**」 または「**横 (Landscape)**」 のどちらの向きで印刷や書き出しを行なうかを指定できます。

最後の奇数ページの設定 (Print odd final page on)

「見開き (Spreads)」および「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」のジョブタイプでのみ設定できます。この設定有効になっている場合、最後の奇数ページに対して、各種用紙サイズや印刷の向きを選択できます。

補足

この設定はレイアウトのページ数が奇数で、A3 用紙に横向きで印刷するよう選択する場合に便利です。最初の 4 ページは A3 用紙 2 枚に印刷され、5 ページ目は 3 枚めの左側に印刷されます。この設定を使用すると、最後の奇数ページを A4 用紙に縦向きで印刷することもできます。

用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)

レイアウトを用紙に合わせて拡大縮小します。

カスタム尺度 (Custom Scale)

レイアウトに異なる尺度を定義できます。「倍率 (Scale factor)」フィールドに、必要なパーセンテージの値を入力します。

注釈

出版用にレイアウトを印刷/書き出しする場合に、一般的な注釈を追加できます。出版社や印刷所は注釈を使用して、印刷イメージを正確に特定したり、登録したり、書き出されたグラフィックファイルを DTP アプリケーションに組み込んだりします。

また、Dorico では、プロジェクトで有効にしたすべての表示オプションを印刷または書き出すことができます。

補足

トンボと枠線は、ページサイズが用紙サイズよりも小さい場合にのみ印刷されます。

「注釈 (Annotations)」セクションには、以下のオプションが表示されます。

トンボ (Crop marks)

ページの 4 つの角に、短い縦横線を追加します。

枠線 (Border)

ページ範囲の端に輪郭線を追加します。

日時 (Date and time)

各ページの一番下に印刷した日時を追加します。

透かし (Watermark)

各ページの中央部分に大きい半透明のテキストを追加します。現在のバージョンが草稿、校正刷り、精査用のスコアであることを示す場合に便利な機能です。セクションの一番下の「透かしテキスト (Watermark Text)」フィールドに、各ページに表示するテキストを入力できます。

オプションを表示 (View options)

ガイドや音符のカラーなど、ビューモードでオンになっているオプションを、印刷結果や書き出したグラフィックに追加します。

索引

M

- MIDI ファイル
読み込み 34
- MusicXML
読み込み 34

S

- Steinberg Hub 31

あ

- アーティキュレーション
追加 95
- アウフタクト
スコアの開始 97
- アンサンブル 66
グループへの追加 70
追加 66

い

- インストゥルメント 28, 67
削除 69
追加 67
複数追加 68

お

- オプション
レイアウト 76
記譜 107
浄書 142

か

- カラーのグラフィック 161

き

- キーボードショートカット
定義 51
- キャレット
タイプ 88
リズムグリッド上の移動 89

- 手動で移動 88
- 無効化 88
- 有効化 88

く

- グループ 29, 69
アンサンブルの追加 70
プレーヤーの割り当て 70
プレーヤーの削除 71
プレーヤーの追加 70
削除 70
追加 69
別のグループへのプレーヤーの移動 71
名前の変更 70
名前変更 70

こ

- コーラスのライン
歌詞に追加 102

し

- ジョブタイプ
選択 163

す

- ステータスバー 42
ビュータイプ 44

せ

- セクションプレーヤー
追加 63
- セレクター
楽曲フレーム 139

そ

- ソロプレーヤー
追加 62

た

タブ

- グループの作成 46
- グループへの分割 46
- すべて閉じる 47
- タブバー上での並べ替え 48
- 異なるビューの表示 45
- 異なるレイアウトの表示 45
- 切り替え 48
- 非表示 37
- 表示 37
- 閉じる 47
- 別のウィンドウへの移動 48
- 別のタブグループへの移動 48

つ

ツールバー 36

- ワークスペースオプション 37

ツールボックス 42

- 音符 80
- 記譜記号 83

て

デュレーション

- 選択 93

テンプレート 33

と

トランスポートウィンドウ 34

トンボ

- レイアウトに追加 166

は

パート

- プレイヤーの追加 65

パネル 41

- プレイヤー 56
- フロー 60
- ページ 120
- 印刷オプション 156
- 印刷モードでのレイアウト 155
- 音符 81
- 記譜モードのプロパティ 82
- 記譜記号 83
- 形式設定 118
- 個別のパネルの非表示 50
- 浄書モードのプロパティ 119
- 設定モードのレイアウト 58
- 非表示 37, 50
- 表示 37

ふ

ファイル

- 開く 34

プリンター

- レイアウトの選択 157
- 部数の指定 158

フルスコア

- レイアウトからのプレイヤーの除外 65

フレーム 132

- グラフィック用 137
- テキスト用 136
- ページへの挿入 133
- 楽曲 134
- 制限の定義 138

フレームチェーン

- プレイヤーの割り当て 142
- フローの割り当て 141
- マスターページ 135
- レイアウト内のページ用 135
- 楽曲フレームのフレームチェーンの選択 140

フレームの順番

- 変更 141

フレーム区切り

- 挿入 139

プレイヤー 28, 61

- グループから削除 71
- グループへの割り当て 70
- グループへの追加 70
- グループ間の移動 71
- コピー 64
- セクションプレイヤーの追加 63
- ソート 64
- ソロプレイヤーの追加 62
- パートレイアウトに追加 65
- フルスコアから除外 65
- フレームチェーンへの割り当て 142
- フローから除外 66
- 個人プレイヤーの追加 62
- 削除 65
- 複製 64
- 名前の変更 64
- 名前変更 64

フロー 29, 72

- フレームチェーンへの割り当て 141
- プレイヤーを除外 66
- レイアウトから除外 73
- 記譜オプションの変更 73
- 作成 72
- 削除 73
- 名前の変更 72
- 名前変更 72

プロジェクト 27

- Steinberg Hub 31
- テンプレート 33
- 開始 32
- 最近使用したプロジェクトを開く 33
- 全画面表示モードで表示 49

複数のウィンドウで開く 49
プロジェクトウィンドウ 34
印刷モード 154
記譜モード 79
浄書モード 117
設定モード 55
複数開く 49
プロジェクトテンプレート 33
プロジェクト開始領域 38
プロジェクト全体の設定 143
プロパティ
音符と記譜記号の部位 144

へ

ページ
フレームの挿入 133
マスターページの割り当て 131
楽譜領域での配置 44
入れ替え 132
ページサイズ 165
ページの優先 127
解除 128
ページビュー
ページ配置 44
ページ範囲
印刷 164
書き出し 164
選択 163
ページ番号
スタイルの変更 129
削除 129

ま

マスターページ 122
セット 123
タイプ 124
ページの優先 127
ページへの割り当て 131
マスターページエディターで編集 127
削除 126
追加 125
変更の解除 131
変更の復元 131
編集 126
名前の変更 126
マスターページエディター 126
マスターページのセット 123
作成 123
削除 124
選択 124
名前の変更 124
マスターページフレームチェーン 135

み

ミキサーウィンドウ 34

も

モード 27

り

リズムグリッド
間隔の変更 89

れ

レイアウト 30
グラフィックファイルとしての書き出し 160
ジョブタイプの選択 163
ソート 75
ビュータイプ 44
フローの除外 73
プロジェクトウィンドウでの複数表示 38
ページ範囲の選択 163
印刷 157
印刷モード 155
印刷用にページを配置 163
空白ページの追加 129
作成 74
削除 76
書き出し用にページを配置 163
切り替え 75
設定モード 58, 74
選択 37
他の形式設定のページの追加 129
倍率 165
複数の印刷 163
複数の書き出し 163
別のレイアウトに変更 75
名前の変更 75
名前変更 75
レイアウトオプション 76
レイアウトフレームチェーン 135

わ

ワークスペース 27
環境設定の変更 51
変更 37